特表2002-514228

3

許公報(4) 表特 4 (12)

(19) 日本國格群庁 (JP)

特表2002-514228 (11)特許出願公表番号

(P2002-514228A)

				(43)公表日	(43)公表日 半成14年5月14日(2002.5.14)	H (2002. 5. 14)
(51) Int Cl.7	戴別記号		FI		7	デーマコート (参考)
C 0 7 D 209/34			CO	C 0 7 D 209/34		
A 6 1 K 31/404			A 6	A 6 1 K 31/404		
31/407				31/407		
31/41				31/41		
31/422				31/422		
		春童請求	未離決	予備審查請次 有	(全188頁)	最終質に続く

PCT/EP98/04844 平成11年12月28日(1999, 12, 28) 平成11年3月4日(1999.3.4) 平成9年8月6日(1997.8.6) 平成10年8月4日(1998.8.4) WO99/10325 9716557.5 イギリス (GB) (31)優先権主張番号 (85)朝釈文提出日 (86) 国際出職番号 (87) 国際公開番号 (33) 優先権主張国 (86) (22) 出版日 (87) 国際公開日 (21)出願番号 (32)優先日

イギリス国ミドルセックス、グリーンフォ ード、パークレー、アベニュ、グラケソ、 (71)出版人 グラクソ、グループ、リミテッド ウェルカム、ハウス (番地なし) (72) 発明者

ロパート、ウォルトン、マックナット ジ プ、ムーア、ドライブ グラクソ、ウェル アメリカ合衆国ノースカロライナ州、リサ ーチ、トライアングル、パーク、ファイ

(74)代理人 弁理士 佐藤 一雄 (外3名) カム、インコーポレーナッド内

最終買に統へ

受容体チロシンキナーゼ阻害剤、特にRAFキナーゼ阻害剤としてのペンジリン-1,3-ジヒ ドローインドールー2ーゼン秘導体 (54) [発明の名称]

は複字環からなる群から選択される軸合環を形成してい NR11R11, -NR11R11, -NR11COR11, -NR 12 CO2 R11, -NR12 CONR11 R12, -NR12 SO2 R11, -NR11 C (NR11) NHR11, -COR11, -1 およびR1は独立にハロゲン、CN、NO1、-CON R10 R11、-SO1NR10 R11、-NR11R11、または り) であり; R\*はOH、NHSO,R\*\*またはNHCO CF1である]で示される化合物、および治療、特にcR - 般式(I): (式中, R'は, Hまたは所望によりR'と 結合して5~10員のアリール、ヘテロアリールもしく てもよく; R\*およびR\*は独立に, H, HET, アリー ル、C1-11脂肪族、CN、NO1、ハロゲン、R11、-OR11, -SR10, -S (O) R10, -SO1R10, -OCONRITRII, C (NRII) NRIIRIITADI; R -OR11 (ここで、R10およびR11は下記の定義の通 a f 1キナーゼによって媒介される疾患の治療における CO, R11, -CONR13 R11, -SO, NR13 R11,

【特許精求の範囲】

1. 界(1):

 $R^1$ は、Hまたは所望により $R^2$ と結合して $5 {\sim} 10$ 風のアリール、ヘテロアリ ールもしくは複素環からなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、こ のヘチロアリールもしくは複紫環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのへ テロ原子の $0 \sim 3$ 個はNであり、そのヘテロ原子の $0 \sim 1$ 個は0もしくはSであ り、かつ、その縮合環は所望により1~3個のR³で置換されていてもよく(ここ で、R2およびR9は下記の定義の通り);

R10 R11, -NR11 R12, -NR12 COR11, -NR12 CO2R11, -NR12 C DNR11 R12 . - NR12 SO2R11 . - NR12 C (NR12) NHR11 . - COR1 0)、0、8、8(0)、802もしくはNR2から選択される1~2基の挿入を1 **固または2個有していてもよく;そのHET、アリールもしくは C₁・12 脂肪族は 所望により 1~3個の R ™ で置換されていてもよく;かつ、 R ²は所望により R³** と結合して 5~10 員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群か 、ハロゲン、R<sup>10</sup>、-OR<sup>10</sup>、-SR<sup>10</sup>、-S(O)R<sup>10</sup>、-SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、-N I. -CO2R", -CONR12R", -SO2NR12R", -OCONR12R" C (NR12) NR12 K11 であり、ここでそのC1-12 脂肪族は、所望によりC( R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は独立に、H、HET、アリール、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、NO<sub>2</sub> ら選択さ れる縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環は1~3 個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の 0~3 個は N であって、そのへ テロ原子の0~1個は0もしくは5であり、かつ、その縮合環は所望により1~ €

3個のRºで置換されていてもよく(ここで、HET、Rº、Rºº、Rºº 、Rºº およびRº は下記の定義に同じ);

R\*は、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R<sup>5</sup>は、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリール で置換されていてもよいC1-12 脂肪族であり R®およびR7は独立に、ハロゲン、CN、NO2、一CONR10 R11、-SO2 N R 10 R 11、 — N R 10 R 11、 または一 O R 11 (ここで、 R 10 および R 11 は下記の 定義の通り)であり;

R®は、OH、NHSO2R12またはNHCOCF3であり;

R<sup>9</sup>は各々独立に、ハロゲン、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、-NO<sub>2</sub>、R<sup>10</sup>、-OR<sup>11</sup> NR12 COR11, -NR12 CO2R11, -NR12 CONR11 R12, -NR12 SO2 . - S R11 . - S (0) R10 . - S O2 R10 . - N R10 R11 . - N R11 R12 . -R", -NR" C (NR") NHR", -CO2R", -CONR" R", -S 02NR12 R11、-OCONR12 R11 またはC (NR12) NR12 R11 (ことで、 K'0、 K'1 およびR'2 は下配の定義の通り) であり;

CN,  $-SR^{12}$ ,  $-OR^{12}$ ,  $-N(R^{12})_2$ ,  $-S(O)R^{12}$ ,  $-SO_2R^{12}$ , -R 10 は各々独立に、H、ハロゲン、C1-12 脂肪族、アリールまたはHETであ SO2N (R12) 2, -NR12 COR12, -NR12 CO2R12, -NR12 CON ( R12) 2, -NR12 (NR12) NHR12, -CO2R12, -CON (R12) 2, -り、ここでそのC--12 脂肪族は所望により0、S、S(0)、SO2もしくはNR1 2から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのC1-12 脂肪族 、アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、

12 SO2R12、-OCON (R12) 2で固換されていてもよく(ことで、HETお よび R12 は下配の定義の通り);

R" は、HまたはR" であり;

R™は、H、C1-12 脂肪族またはHETであり、ここでそのC1-12 脂肪族は所 望により1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、

# ETは下記の定義の通り):かつ、

ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラン、テ トラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアト キンラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ -ル、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキシアジアジン 、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン、チオピ ラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10員の HETは、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオ 飽和または不飽和複素環である)

ト、生加水分解性ウレイド、溶媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグ で示される化合物、ならびにそれらの医薬上許容される塩、生加水分解性エステ 12、生加水分解性アミド、生加水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネー

2. R'がH、または所望によりR'と結合して下配にHETとして定義されて より1~3個のRgで置換されていてもよく(ここで、R2およびRgは下記の定義 いる群から選択される縮合環を形成していてもよく、ここでその縮合環は所望に

ハロゲン、R<sup>10</sup>、一OR<sup>10</sup>、一SR<sup>10</sup>、一S(0)R<sup>10</sup>、一SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、一NR<sup>1</sup> R<sup>2</sup>およびR³が独立に、H、HET、アリール、C1.8 脂肪族、CN、NO2、

-CO2 K11, -CONR12 K11, -SO2NR12 K11, -OCONR12 K11, C 7R11 . -NR11 R12 . -NR12 COR11 . -NR12 CO2R11 . -NR12 CON より1~3個のR1º で置換されていてもよく;かつ、R²は所望によりR³と結合 ~2 個有していてもよく;そのHET、アリールもしくはC1-8 脂肪族は所望に D、S、S(0)、SO2もしくはNR<sup>12</sup>から選択される1~2個の基の挿入を1 (NRエ2 ) NRエ Rエ! であり、ここでそのこ・ル 脂肪族は、所望によりC(の)、 R" R12 , -NR12 S O2 R" , -NR12 C (NR12) NHR",

9

して下記に定義されている群から選択される縮合環を形成していてもよく、かつ ここでその縮合環は所望により1~3個のRºで置換されていてもよく(ここで HET、R<sup>9</sup>、R<sup>10</sup>、R<sup>1</sup>り<sup>1</sup>およびR<sup>12</sup> は下記の定義の通り)

R<sup>4</sup>が、H、ハロゲン、NO2またはCNであり

K⁵が、Hまたは所望により1~3個のハロ、OHもしくはアリールで置換さ れていてもよい Ci-s 脂肪族であり; R<sup>6</sup>およびR<sup>7</sup>が独立に、ハロゲン、CN、NO2、一CONR<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、一SO<sub>2</sub> N K <sup>10</sup> K <sup>111</sup>、一N K <sup>10</sup> K <sup>111</sup>、または一O K <sup>11</sup>(ここで、K <sup>10</sup> および K <sup>11</sup> は下配の 定義の通り)であり;

R<sup>8</sup>が、OH、NHSO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>またはNHCOCF<sub>3</sub>であり;

. -NR12 C (NR12) NHR11, -CO2R11, -CONR12R11, -SO2N SR11, -S (0) R10, -SO2R10, -NR10 R11, -NR11 R12, -NR1 R<sup>9</sup>が各々独立に、ハロ、C1-6 脂肪族、CN、一NO2、R<sup>10</sup>、一OR<sup>11</sup>、一 R 10 2 COR11, -NR12 CO2R11, -NR12 CONR11 R12, -NR12 SO2R11 K'12 K'11、一〇CONR'12 K'11 またはC(NR'12) NR 12 K'11(ここで、 R" およびR" は下配の定義の通り) であり

り、ここでその C1.6 間肪族は所望により O、 S、 S (O)、 S O2もしくは N R 12 R to が各々独立に、H、ハロゲン、C1-s 脂肪族、アリールまたはH B T であ

N (R12) 2, -NR12 COR12, -NR12 CO2R12, -NR12 CON (R12) 2, -NR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>12</sup>, -CO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>, -CON (R<sup>12</sup>) 2, -NR<sup>12</sup> 選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのC1。脂肪族、アリ  $- S \, R^{12} , \, - O \, R^{12} , \, - N \, \left( R^{12} \right) \, {}_2 , \, - S \, \left( O \right) \, R^{12} , \, - S \, O_2 \, R^{12} \, , \, - S$ SO2R12、一〇CON(R12)2で置換されていてもよく(ここで、HETおよ 一ルまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、 び R 12 は 下 記 の 定義 の 通 り );

K<sup>11</sup>が、HまたはR<sup>10</sup>であり;

R12 が、H、C1-6 脂肪族またはHETであり、そのC1-6 脂肪族は所望により

1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、HETは下 記の定義の通り)であり;かつ、

ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ トラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアト キソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラン、テ リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン、チオピ 飽和または不飽和複素環である、簡求項1配數の式(1)の化合物、ならびにそ **-ル、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキシアジアジン** ラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10圓の HETが、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオ 水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、 れらの医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、 媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグ。

3. R'がHであるか、または所望によりR'と結合して縮合ピリジン、縮合ト

リアゾールもしくは縮合アミノ置換トリアゾールからなる群から選択される縮合 鼠を形成していてもよく;

NR12 CO2R11, -NR12 CONR11 R12, -NR12 SO2R11, -NR12 C ( 新望により1~3個のR™で置換されていてもよく;かつ、R²は所望によりR³ 0) R10 . - S O2 R10 . - NR10 R11 . - NR11 R12 . - NR12 COR11 . -NR12) NHR11, -COR11, -COR11 NR12 R11, -CO2R11, -CO と結合して下記にHETとして定義されている群から選択される縮合環を形成し NR12 R11, -SO2NR12 R11, -OCONR12 R11, -C (NH) R11, -C(N R 12 ) N R 12 K 11 であり、ここでその C1-s 脂肪族は、C(O)基の構入 を所望により有していてもよく;そのHET、アリールもしくはС1-6 脂肪族は R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H、HET、アリール、C<sub>1\*8</sub> 脂肪族、一R<sup>12</sup> NH<sub>2</sub>、 R<sup>12</sup> - ハロゲン、CN、NO2、ハロゲン、R<sup>10</sup>、-OR<sup>10</sup>、-SR<sup>10</sup>、-S

(8)

ていてもよく、かつ、その縮合環は所望により1~3個のRºで置換されていて もよく(ここで、HET、Rタ、Rºº、Rºº およびRº2 は下記の定義の通り);

R'が、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R5が、Hまたは所望により1~3個のハロゲン、OHもしくはアリールで置 換されていてもよいC1-6 脂肪族であり; R®およびR7が独立に、ハロゲン、CN、NO2、一CONR®RII、一SO2 N R 10 R 11、—N R 10 R 11、または一O R 11 (ここで、R 10 および R 11 は下配の 定義の通り)であり;

R<sup>8</sup>が、OH、NHSO2R<sup>12</sup>またはNHCOCF3であり

R9が各々独立に、ハロ、C<sub>1.8</sub> 脂肪族、CN、-NO<sub>2</sub>、R<sup>10</sup>、-OR<sup>11</sup>、-SR11, -S (O) R18, -SO2R10, -NR19 R11, -NR11 R12, -NR1 , -NR12 C (NR12) NHR11, -CO2R11, -CONR12R11, -SO2N COR", -NR" CO2R", -NR" CONR" R", -NR" SO2R"

R'11、 - O C O N R 12 R 11 またはC (N R 12 ) N R 12 R 11 (ここで、R 10、R 11 およびR12 は下記の定義の通り)であり

NR12 CO2R12, -NR12 CON (R12) 2, -NR12 (NR12) NHR12, -アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、C N, NO2, -R12, -SR12, -OR12, -N (R12) 2, -R12 N (R12) 2 R12 . - S O2 R12 . - S O2 N (R12) 2 . - NR12 COR12 . -CO2R12、-CON (R12) 2、-NR12 SO2R12、-OCON (R12) 2、禁 R to が各々独立に、H、ハロゲン、C ts 脂肪族、アリールまたはHETであ り、ここでそのこい。脂肪族は所望により0、8、8(0)、802もしくはNR<sup>12</sup> たはトリフルオロで置換されていてもよく(ここで、HBTおよびR12 は下記の から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのこ1。脂肪族、 · - S (0)

**R<sup>11</sup> が、HまたはR<sup>10</sup>であり;** 

R'2 が、H、C1:s 脂肪族、NO2、C1:s アルコキシ、ハロゲン、アリールま

たはHETであり、そのC1s 脂肪族は所望により1~3個のハロゲンもしくは OHで置換されていてもよく(ここで、HETは下配の定義の通り)

ジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミジン、ピロール、ピロリジン、テトラヒド ロフラン、テトラジン、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアトリ アゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チオピラン、チオキソトリ ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダゾール、イミダゾピリジニル、モル ホリン、オキサゾール、オキサジアゾール、オキサチアゾール、オキサチアゾリ ジン、オキサジン、オキシアジアジン、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピッ アジン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5または6 員の飽和または不飽和ヘテロアリール環である、簡求項1または簡求項2配載の 式(1)の化合物、ならびにそれらの医薬上許容される塩、生加水分解性エステ HETが、ジオキシン、ジオキサン、ジオキンラン、ジチアン、ジチアジン、

ト、生加水分解性ウレイド、溶媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグ ル、生加水分解性アミド、生加水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネー

4. K'およびR'が、メチル圏換した縮合ピリジンである縮合環をさらに合ん でなる、請求項3記載の化合物 5. R1が、Hまたは所望によりR2と結合して5~10員のアリール、ヘテロ そのヘテロアリールもしくはその複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここ アリールもしくは複素環からなる群から選択される縮合環を形成していてもよく でそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個はOもし くはSであり、かつ、その縮合環は所望により1~3個のRgで置換されていて もよく(ここで、R2およびR9は下配の定義の通り);

, ND  $\mathcal{Y}\mathcal{N},~R^{10}$  ,  $-O\,R^{10}$  ,  $-S\,R^{10}$  , -S (O)  $R^{10}$  ,  $-S\,O_2\,R^{10}$  , -NONR" R12 , -NR" SO2R" , -NR" C (NR" ) NHR" , -COR' R10 R11 , -NR11 R12 , -NR12 COR11 , -NR12 CO2R11 , -NR12 C R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H, HET、アリール、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、NO<sup>2</sup>  ${}^{1}{}_{5} = C\,O_{2}\,R^{11}\,,\,\, -C\,O\,N\,R^{12}\,R^{11}\,,\,\, -S\,O_{2}\,N\,R^{12}\,R^{11}\,,\,\, -O\,C\,O\,N\,R^{12}\,R^{11}$  (10)

、一 C  $(NR^{12})$   $NR^{12}R^{11}$  であり、ここでその $C_{1:12}$  脂肪族は、所望によりC (0)、0, S, S (0)、S  $O_2$  または $NR^{12}$  から選択される1  $\sim 2$  基の挿入を1 何または2 値有していてもよく;そのHET、アリールもしくは $C_{1:12}$  脂肪族は所望により1  $\sim 3$  個の $R^{10}$  で置換されていてもよく;かつ、 $R^{2}$  は所望により $R^{2}$  と結合して5  $\sim 10$  回の $R^{10}$   $\sim N$   $\sim T$   $\sim$ 

R'が、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

Riが、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリールで置換されていてもよいこい? 脂肪族であり;

ReおよびR'がハロゲンであり;

R®がOHであり;

R<sup>3</sup>が各々独立に、ハロゲン、C-1.2 胸肪族、CN、一NO2、R<sup>10</sup>、一のR<sup>11</sup>、 、- SR<sup>11、</sup> - S(O)R<sup>10、</sup> - SO2R<sup>10、</sup> - NR<sup>10</sup> R<sup>11、</sup> - NR<sup>11</sup> R<sup>12、</sup> - NR<sup>12</sup> COR<sup>11、</sup> - NR<sup>12</sup> CONR<sup>11</sup> R<sup>12、</sup> - NR<sup>12</sup> COR<sup>11、</sup> - NR<sup>12</sup> CONR<sup>12</sup> R<sup>11、</sup> - NR<sup>12</sup> CONR<sup>12</sup> R<sup>11、</sup> - SO<sub>2</sub> NR<sup>12</sup> R<sup>11、</sup> - OCONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup> 葉だはC(NR<sup>12</sup>)NR<sup>12</sup> R<sup>11(</sup> ここで、R<sup>10</sup>、 R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup> は下配の定義の通りであり;  $R^{10}$  が各々独立に、H、ハロゲン、CLIR 調助族、アリールまたはHETであり、ここでそのCLIR 調助族は所望により0、S、S(0)、SO2もしくはNR<sup>1</sup>がち選択される $1\sim$ 2 基の挿入を有していてもよく、ここでそのCLIR 脂肪族、アリールまたはHETは所望により $1\sim$ 3 個のハロ、別のHET、アリール、CN、-S R<sup>12</sup>、-O R<sup>13</sup>、-O R<sup>13</sup> -O R<sup>13</sup> -O

NR"S O2R"、-OCON(R");で置換されていてもよく(ここで、H. TおよびR"は下記の定義の通り)であり;

R<sup>11</sup> が、HまたはR<sup>10</sup>であり;

R'aが、H、C1-n 脂肪族またはHETであり、そのC1-n 脂肪族は所望により1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、HETは下配の定義の通り);かつ、

HBTが、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオ

キソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ ール、オキサチアゾール、オナサチアゾリジン、オキサゾール、ピリジン、ピリミ ジン、ピロール、ピロリジン、キフジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラピドロフラン、テ トラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアト リアゾール、チアジン、チアゾールからなる群から選択される5~10頁の 館和または不飽和複素環である、鶴求項1記載の式(1)の化合物、ならびにそ れらの医薬上鮮谷される塩、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、溶 媒布物、水布物、銀和性試薬またはプロドラッグ。 6. R1が、出または所望によりR<sup>2</sup>と結合して5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群から選択される結合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくはその複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ことでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであり、かつ、その結合環は所望により1~3個のR<sup>2</sup>で置換されていてもよく(ことで、R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は下記の定義の通り);

R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H、HET、アリール、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、NO<sub>2</sub> 、ハロゲン、R<sup>10</sup>、一OR<sup>10</sup>、一SR<sup>10</sup>、一S(O)R<sup>10</sup>、一SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、一N R<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、一NR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>、一NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> C (12)

、-C(NR12)NR12 R11 であり、ここでそのC1-12 脂肪族は、所望によりC ONR !! R 12 . - NR 12 S O 2 R 11 . - NR 12 C (NR 12 ) NHR 11 . - COR 1 . - CO2 R11, - CONR12 R11, - SO2NR12 R11, - O CONR12 R11 (0)、0、8、8(0)、802またはNR2から選択される1~2基の挿入を1 は2個有していてもよく:そのH E T、アリールもしくは Cı-ra 脂肪族は所望に より1~3個のRºº で蜃換されていてもよく;かつ、R²は所望によりR³と結合 して 5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複楽環からなる群から選択 される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環は0~ 3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、その ~3個の R³で置換されていてもよく (ここで、HET、R³、R¹º、R'l および ヘテロ原子の0~1個は0もしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1 R 12 は下記の定義の通り) であり;

R<sup>4</sup>が、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R⁵が、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリール

で置換されていてもよいC…2 脂肪族であり

ReおよびR'が独立に、プロモまたはクロロであり;

R<sup>8</sup>がOHであり

R9が各々独立に、ハロゲン、Ciiz 脂肪族、CN、-NO2、R10、-OR11 , SR11, -S (0) R10, -S O2 R10, -NR10 R11, -NR11 R12, -N R12 COR11, -NR12 CO2R11, -NR12 CONR11 R12, -NR12 SO2R ", -NR" C (NR") NHR", -CO2R", -CONR" R", -SO2 ۲. اة NR12 R11、-OCONR12 R11 またはC (NR12) NR12 R11 (ここで、 R"およびR12 は下記の定義の通り) であり; K 10 が各々独立に、H、ハロゲン、C1-12 脂肪族、アリールまたはHETであ り、ここでそのC1-12 脂肪族は所望によりO、S、S(O)、S O2もしくはN R ↑から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのC1-12 脂肪肪 、アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール

SO2N (R12) 2, -NR12 COR12, -NR12 CO2R12, -NR12 CON ( CN, -SR12, -OR12, -N (R12) 2, -S (0) R12, -S O2 R12, Ę.

12 S O<sub>2</sub> R 12、 - O C O N (R 12) 2 で置換されていてもよく (ここで、H B T お 2) 2, -NR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>12</sup>, -CO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>, -CON (R<sup>12</sup>) 2, -NR よび R12 は下記の定義の通り) であり;

R"が、HまたはR"であり;

り1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、HETは R 12 が、H、C1-12 脂肪族またはHETであり、そのC1-12 脂肪族は所望によ 下記の定義の通り)であり;かつ

ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラン、テ リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チオナフタレン、チオピ ラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10屋の 水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、路 ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ トラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアト 飽和または不飽和複素環である、請求項5記載の式(1)の化合物、ならびにそ れらの医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、生加 キソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ **-ル、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキシアジアジン** HETが、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオ 煤和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグ。 7. K¹が、Hまたは所望によりR²と結合して5~6 風のヘデロアリール環か らなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリール環は そのヘテロ原子の0~2個は0もしくは5であり、かつ、その縮合環は所望によ り1~3個のRºで置換されていてもよく(ここで、RºおよびRºは下記の定義の 0~2個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~2個はNであって、

(14)

(13)

 $R^2$ および $R^3$ が独立に、H、HET、フェニル、C1s 脂肪族、 $-NR^{10}$  R<sup>11</sup>、  $-COR^{11}$ 、 $-COR^{11}$ 、 $-COR^{12}$  R<sup>11</sup>、 $-SO_2NR^{12}$  R<sup>11</sup> であり、そのHET、フェニルもしくはC1s 脂肪族は所望により $R^{10}$  や置換されていてもよく、かつ、 $R^2$ は所望により $R^2$ と結合して5夏の複素環を形成していてもよく、その複素環は $O\sim1$  個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子はNであって、その検索環は $O\sim1$  個はOもしくはSであり、かつその絡合環は所望により $R^2$ ので置換されていてもよく(S であり、 $R^{10}$ 、 $R^{11}$  および $R^{12}$ 

R\*がHであり;

は下記の定義の通り)

R<sup>5</sup>がHであり、

R もおよび R 7 が独立に、プロモまたはクロロであり;

R<sup>8</sup>がOHであり

R9が、H、C1-s 脂肪族、または一COR10(ここで、R10 は下記の定義の通

り) であり;

R 10 が、H、C1-6 脂肪族またはアミノであり;

R!IがH、C!s 脂肪族、ヒドロキシーC!s 脂肪族、フェニル、フェニルーC!s 脂肪族またはHETであり;

R'1 が、H、C'1。脂肪族、ヒドロキシーC'1。脂肪族または(K'1)2NーC'1。脂肪族であり;かつ、-8脂肪族であり;かつ、

HETがオキサゾール、ピリジン、テトラゾールおよびチアゾールからなる群から選択される複素環である、鯖求項も配載の式(1)の化合物、ならびにそれらの医業上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、生加水分解性カルパメート、生加水分解性アレイド、溶媒介物、水和物、銀和性起業またはプロドラッグ。

### 8. R<sup>1</sup>がHであり;

 $R^2$ および $R^3$ が独立に、H、H E T、フェニル、C  $I_4$  脂肪族、シアノ、ハロゲン、  $-COR^{II}$ 、または $-CONR^{II}$   $R^{II}$  であり、そのHE T、フェニルもし

くはこい 脂肪族は所望によりRロº で置換されていてもよく(ここで、HET、Re・RII およびRIº は下配の定義の通り);

**R**4がHであり;

RSがHであり;

R もおよび R 7が独立に、プロモまたはクロロであり;

R<sup>8</sup>がOHであり

R <sup>10</sup> が、H、C<sub>1.6</sub> 脂肪族、オキソまたはシアノであり;

R.1が、H、C.1s 脂肪族、トリハローC.1s 脂肪族、フェニルまたはニトロ間換フェニルであり;

R 12 が、H、C1-6 脂肪族、ヒドロキシーC1-6 脂肪族であり;かつ、

H E Tがチオフェンまたはビリジンである、鯖求項 6 配載の式(1)の化合物、ならびにそれらの医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アアミド、生加水分解性カルパメート、生加水分解性 カルボネート、生加水分解性 ウレイド、溶媒和物、水和物、銀和性起薬またはプロドラッグ。

9. R®がOHであり、かつ、そのOHがカルバモイル複合体と結合して生加水分解性カルバメートとなり、ここでそのカルバモイル複合体がジエチルアミノカルボニル、N-(2-ヒドロキシエチル)アミノカルボニル、N-ビス(2-ヒドロキシエチル)アミノカルボニル、ヒドロキシエチルオキシエチルアミノカルボニル、4ーモルホリノカルボニルおよび4ーメチルー1ービベラジニルカルボニルからなる群から選択される、錦求項1~8のいずれか1項に記載の化みなな。

10. K゚がOHであり、かつ、そのOHがカルボネート複合体と結合して生.

水分解性カルボネートとなり、ここでそのカルボニル複合体がフェニルメチルオキシカルボニル、エチルオキシカルボニル、イソプチルオキシカルボニル、およびビリジンメチルオキシカルボニルからなる群から選択される、離求項1~8のいずれか1項に配載の化合物。

11. R'がOHであり、かつ、そのOHがエステル複合体と結合して生加水

分解性エステルとなり、ここでそのエステル複合体がt-ブチルカルボニルオキシメチルである、鯖求項1~8のいずれか1項に配載の化合物。

12. 下記からなる群から選択される、鶬求項1記載の化合物。

달

および

15. 下記からなる群から選択される、鞘求項1記載の化合物。

(22)

および

- 16. E型幾何異性体である、請求項1~15のいずれか1項に記載の化合物
- 17. 2型幾何異性体である、請求項1~15のいずれか1項に配載の化合物
- 18. 2型幾何異性体と5型幾何異性体の混合物である、請求項1~15のい ずれか1項に記載の化合物。
- 19. キラル炭素原子を有し、右旋性である、請求項1~15のいずれか1項 に記載の化合物。
- 20. キラル炭素原子を有し、左旋性である、鞘水項1~15のいずれか1項

に配載の化合物。

- 21.キラル欧素原子を有し、右旋性と左旋性の混合物である、構求項1~1 5のいずれか1項に記載の化合物。
- 22. 化合物3-(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5 **-ピリドー3ーイルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン。**
- 23.そのE型幾何異性体としての請求項22記載の化合物。
- 24.その2型幾何異性体としての請求項22記載の化合物。
- 25. そのEおよびス型幾何異性体の混合物としての請求項22配載の化合物
- 26. 治療に用いられる請求項1~25のいずれか1項に記載の化合物。
- 27. 医薬上許容される担体と、医薬上有効な量の請求項1~25のいずれか 1項に記載の化合物を含んでなる医薬組成物。

28.式(11)

(式中、R5、R6、R7およびR8は請求項1の定義に同じ)の化合物を、式(II

- (式中、R1、R2、R3およびR4は請求項1の定義に同じ)の化合物と反応させ
- ることを含んでなる、請求項1記載の式(1)の化合物の製造方法。
- 29. プロテインキナーゼ活性によって媒介される疾患の治療のための医薬の

(54)

- 30. 変異型ras遺伝子によって引き起こされる障害によって媒介される疾 患の治療のための医薬の製造に用いられる、請求項1~25のいずれか1項に配 載の化合物。
- 31. アップレギュレートされたチロシンキナーゼングナリング経路によって 媒介される疾患の治療のための医薬の製造に用いられる、請求項1~25のいず れか1項に記載の化合物。
- 32. マイトジェン活性化プロテインキナーゼによって媒介される疾患の治療 のための医薬の製造に用いられる、翻求項1~25のいずれか1項に配載の化合
- 33. cRafキナーゼによって媒介される疾患の治療のための医薬の製造に 用いられる、請求項1~25のいずれか1項に記載の化合物。
- FIR, CSK, EGFR, ErbB2, ErbB3, ErbB4, ERK, F 1, c-met, c-src, CDK1, CDK2, CDK4, CDK6, CS ak, fes, FGFR1, FGFR2, FGFR3, FGFR4, FGFR5 , Fgr, FLK-4, fit-1, Fps, Frk, Fyn, Hck, 1GF 34. abl, ATK, bcr-abl, Blk, Brk, Btk, c-ki -IR, INS-R, Jak, KDR, Lck, Lyn, MEK, cRafl,
- 38, PDGFR, PIK, PKC, PYK2, ros, tien, tiez, T RK、Yes、および2ap70からなる群から選択されるキナーゼによって媒 介される疾病を治療する方法であって、薬理学上有効な量の構求項1 記載の化合 物をそれを必要とする哺乳類に投与する工程を含んでなる方法。
- 35. マイトジェン活性化プロテインキナーゼによって媒介される疾病を治療 する方法であって、薬理学上有効な量の請求項1配載の化合物をそれを必要とす る哺乳類に投与する工程を含んでなる方法。
- 薬理学上有効な量の請求項1記載の化合物をそれを必要とする哺乳類に投与する 36. cRaf1キナーゼによって媒介される疾病を治療する方法であって、 工程を含んでなる方法。

硬化症、腎炎、糖尿病性腎症、悪性腎硬化症、血栓性微小血管障害症候群、糸球 37. 腫瘍の増殖を阻害する、器官移植の拒絶反応を防ぐ、慢性的創傷を治療 体症、乾癬、真性糖尿病、炎症、および神経変性病からなる群から選択される病 状を治療する方法であって、薬理学上有効な量の糖求項1 記載の化合物をそれを する、または再狭窄、慢性関節リウマチ、血管形成、肝硬変、アテローム性動脈 必要とする患者に投与する工程を含んでなる方法、 (26)

### 【発明の詳細な説明】

受容体チロシンキナーゼ阻毒剤、特にRAFキナーゼ阻毒剤としてのベンジリン ー1, 3-ジとドローインドール-2-オン誘導体

#### 曹泰の服装

本等明は、新規化合物、新規組成物、それらの使用方法、およびそれらの製造 方法に関し、かかる化合物は一般にマイトジェンにより活性化されるシグナリン が経路の変更、特に、腫瘍の増殖をはじめとする病状など病理学上異常な細胞増殖を伴う、プロテインキナーゼの阻害または拮抗作用によって軽減される病状に おいて薬剤として一般に医薬上有用である。前配の薬理学的活性は哺乳類の治療 に有用である。特に本発明は、細胞増殖に関連する疾患の治療のためにcRaf ー1キナーゼ阻害を示すベンジリデンオキンインドール誘導体に関する。 さらに詳細には、本発明の化合物はある形態の癌の治療に使用でき、これを使用することによりある既存の癌の化学療法に付加的または相乗的作用をもたらすことができ、かつ/またはある既存の癌の化学療法および放射線の有効性を回復させることができる。現在、細胞増殖によって特徴づけられる疾病の領域ではかかる治療薬が必要とされている。

#### 発明の背景

adは、細胞分裂、分化、およびアポトーシス細胞死を制御する正常なプロセスの財制御に起因する。プロテインキナーゼがこの調節プロセスにおいて重要な役割を果たしている。限定されるものではないが、かかるキナーゼの一部として、ab1、ATK、bcrーab1、B1k、Brk、Brk、c-k11、c-met, c-src、CDK1、CDK2、CDK4、CDK6、cRaf1、CSF1R、CSK、EGFR、ErbB2、ErbB3、ErbB4、ERK

Fak, fes, FGFR1, FGFR2, FGFR3, FGFR4, FGFR 5, Fgr, FLK-4, fit-1, Fps, Frk, Fyn, Hck, 1G F-IR, INS-R, Jak, KDR, Lck, Lyn, MEK, p38, P DGFR, PIK, PKC, PYK2, ros, tiel, tiez, TRK, Y

es、およびる ap 7 0が挙げられる。哺乳類の生物学では、かかるプロテインキナーゼは、マイトジエン活性化プロテインキナーゼ(MAPK)シグナリング発酵を含んでなる。MAPKシグナリング経路は、ras遺伝子の突然変異や増殖因子受容体の脱調節などのような種々の一般的な疾病に関与するメカニズムによって不適当に活性化される(Magnuson et al. Scalnars in Cancer Biology, 1994(9), 247-252)。従って、プロテインキナーゼの阻害が本発明の目的である。

さらに、プロテインキナーゼは、中枢神経系障害(アルツハイマー病など)、炎症性疾患(疾療など)、骨の疾病(骨粗熱症など)、アテローム性動脈硬化症、再狭窄、血栓症、代動障害(糖尿病など)、および感染病 (ウイルスおよび真菌感染)における標的として関与している。

キナーゼ調節を含む最もよく研究されている経路の1つに、細胞表面にある受容体から核への細胞シゲナリングがある (Grews and Erikson,1993)。この経路の一例として、増殖因子受容体チロシンキナーゼ (EGF-R、PDGF-R、VEGF-R、1GF1-R、インスリン受容体など)のメンバーが、Strチロシンキナーゼ、ならびにRaf、MekおよびErkセリン/チロシンキナーゼファミリーなどの他のキナーゼへ、リン酸化を介してシゲナルを伝達するキナーゼカスケードがある (Grew and Enkson,1993: Ihite et al.,1994)。これらのキナーゼの各々はいくつかのファミリーのメンバーにより代表され(Pelech and Sanghera,1992)、それらは関連してはいるが機能的に異なる役割を果たしている。増殖因子シゲナリング経路の調節が対気如すると、癌ならびに他の病状がしばしば起これる。。

キナーゼによって媒介されるシグナルはまた、細胞周期のプロセスを調節する

ことによる細胞の増殖、死滅および分化を制御することも示されている(Massague and Roberts, 1995)。 真核生物の細胞周期の進行は、サイクリン依存性キナーゼ (CDK) と呼ばれるキナーゼのファミリーによって制御される(Uyerson et al.,1992)。 CDK 活性化の顕節は複雑であるが、CDK とサイクリンファミリーの調節サブユニットのメンパーとの会合が必要である(Oraettaaa,1993;Murray and Kirschner,1989,Solomon et al.,1992)。さらなるレベルの関節は、CDK

(58)

ltzky et al.,1994)。 S期の進行はサイクリンA/CDK2の活性を要する(Gir dc2(CDK1)およびサイクリンB/cdc2の活性化が必要とされる(Dra etta,1993; Girard et al.,1991; Murray and Kirschner,1989; Pagano et al.,199 2.Rosenblatt et al., 1992; Solomon et al., 1992; Walker and Maller, 1991; Zind y et al.,1992)。従って、CDK調節の制御の欠如がしばしば、過増殖性の疾病 および癌を引き起こすことは驚くことではない(Hunter and Pines,1994:Lees,19 nd Nurse, 1989; Krek and Nigg, 1991; Murray and Kirschner, 1989; Solomon et al /CDK複合体の活性化および不活性化を統合することが必要である(Pines,199 ン/CDK活性の活性化によって制御される。G1期では、サイクリンD/CD K4とサイクリンE/CDK2の双方がS期の開始を媒介すると考えられている (Watsushime et al.,1994;Ohtsubo and Roberts,1993;Quelle et al.,1993;Resn ard et al.,1991;Pagano et al.,1992;Rosenblatt et al.,1992;Walker and Wal サプユニットのリン酸化を活性化すること、および不活性化することの双方を介 して起こる(Draetta,1993:Ducommun et al.,1991;Gautier et al.,1989;Gould a ,1992;Solomon et al.,1990)。細胞周期の正常な進行には、種々のサイクリン 3;Sherr,1993)。重要なG1-S期とG2-M期双方の移行は、種々のサイクリ ler,1991;Zindy et al.,1992)、一方、分裂中期の開始には、サイクリンA/ c 95:Pines, 1992)

キナーゼcRaflは2つの方法で細胞の増殖を調節する。この酵素は、Raf/MEK/ERKプロテインキナーゼカスケードを介して細胞分裂を正の方向

に調節する。この活性化は、c R a f 1が触媒するプロテインキナーゼM E K I のリン酸化の結果である。M E K 1 はプロテインキナーゼE R K をリン酸化し、活性化する。E R K は細胞分裂に必要な転写因子をリン酸化し、調節する (Mrruch et al., TIBS:1994(19) 279-283)。 c R a f 1 は、アボトーシスの重要なレギュレーターである B c I ー 2 の活性化の調整によって細胞死を負の方向に調節する。この調節には B c I ー 2 ファミリーのメンバーの直接のリン酸化が伴う (Gajewski and Thompson, Cell:1996(87) 619-628)。 c R a f 1 によって媒介される細胞増増殖の調節に関するこれの跳壊は双方とも、c R a f 1 しまナーゼ活性を必要と増殖の調節に関するこれの跳壊は双方とも、c R a f 1 ロキナーゼ活性を必要と

する。

C R a f 1 はとトの海に一般的な事象により脚瀬節される。例えば、r a s 達 位子は以下の代表的なとトの一次癌で後に示される頻度で変異している:肺(腺 高)、30%;結腸(腺癌)、50%;膵臓癌、90%;精上皮腫、40%;甲状 跳、50%(McCormick,Ras oncogenes in Oncogenes and the molecular origin s of cancer:1989,125-146)。 c R a f 1 はまた、c s t c、 E r b B 2、E G F R および b c r / a b 1 をはじめとするチロシンキナーゼの脱環節により活性 化される。これらの結果は、乳癌、結腸癌、および肺癌、ならびに慢性骨値性白 血病に関与している (Fearon,Genetic lesions in human cancer,in Molecular o roology,1996,143-178)。さらに、R a f アンチセンスの文献は、in vivo腫瘍マ ウスモデルでR a f タンパク質レベルの低下が腫瘍の増殖速度の低下と相関して いることを教示している。従って、c R a f 1 のキナーゼ活性の阻毒剤は広範な とト癌一般の有効な治療を提供するはずである。 これらの病状の媒介または維持に関わるキナーゼ阻害剤は、これらの疾患の新規治療法の典型である。かかるキナーゼの例としては、限定されるものではないが、(1) 癌におけるSrc(Brickell,1992:Courtncidge,1994)、rat(Powis), 1994)およびサイクリン依存性キナーゼ(CDK)1、2および4(Hunter and

G F - Rキナーゼの阻奪 (Buchdunger et al.,1995)、(3) アルツハイマー病におけるC D K 5 およびG S K 3 キナーゼの阻奪 (Buchdunger et al.,1995)、(3) アルツハイマー病におけるC D K 5 およびG S K 3 キナーゼの阻奪 (Aplin et al.,1996:Hosol et al.,1995)、(4) 骨粗鬆症における C - S r C キナーゼの阻奪 (Tanaka et al.,1996)、(5) 2型糖尿病における C S K - 3 キナーゼの阻奪 (Gorthwick et al.,1996)、(6) 炎症における D 3 8 キナーゼの阻奪 (Badger et al.,1996)、(7) 血管形成における V E G F - R I - 3、ならびに T I E - 1 および 2 キナーゼの阻奪 (Shawver et al.,1997)、(8) ウイルス感染症における U L 9 7 キナーゼの阻奪 (Hvers et al.,1997)、(9) 骨および造血の疾患における C S F - I R キナーゼの阻奪 (Wers et al.,1997) および (10) 自己免疫疾患および移植指絶 反一ゼの阻奪 (Wers et al.,1997) および (10) 自己免疫疾患および移植指絶 反

(30

応におけるLc核酸キナーゼの阻害(Myers et al.,1997)が挙げられる。

る。本発明の数種の化合物は、治療上関連のある別のキナーゼを選択的に阻害し f 1の選択的かつ効力ある阻害剤であり、それにより特定の罹病組織の選択的な 域少または消失が可能となる、あるペンジリデンオキシインドール誘導体に関す 本発明は、抗菌性を有するばかりでなく、セリン/トレオニンキナーゼcRa

本発明の目的は、本発明の化合物を用いて、ヒト悪性腫瘍、例えば乳癌、胃癌 ましくはcRaflを介してシグナル伝達するもの治療のための、効力ある特異 な、経口、静脈内、または皮下的に有効な、Rafキナーゼのシゲナル伝達活性 の小分子阻害剤、それらの投与法、それらの製剤法、ならびにそれらの合成法を 卵巣癌、結腸癌、肺癌、脳腫瘍、喉頭癌、リンパ系の癌、尿生殖管の癌(膀胱 商および前立腺癌を含む)、卵巣の、胃の、または膵臓の腫瘍のうち1以上、 提供することである。

び代励疾患の領域の細胞増殖によって特徴づけられる、哺乳類を侵す1以上の疾 本発明の化合物は、血管増殖性疾患、繊維症、糸球体間質細胞増殖性疾患およ

血栓性微小血質障害症候群、器官移植拒絶反応および糸球体症が挙げられる。代 挙けられる。繊維症としては、肝硬変およびアテローム性動脈硬化症が挙げられ 病の治療にさらに有用である。血管増殖性疾患としては、関節炎および再狭窄が 勘疾患としては、乾癖、真性糖尿病、慢性側傷治癒、炎症および神経変性病が拳 る。糸球体間質細胞増殖性疾患としては、腎炎、糖尿病性腎症、悪性腎硬化症、 げられる。

### 発明の概要

概略としては本発明は、一般構造式(1):

R'は、Hまたは所望によりR2と結合して5~10員のアリール、ヘデロアリ のヘテロアリールもしくは複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘ テロ原子の0~3個はNであり、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであ り、かつ、その縮合環は所望により1~3個のR³で置換されていてもよく(ここ -ルもしくは複素環からなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、 で、R2およびR9は下記の定義の通り);

ONR" R"2 , -NR" SO2R" , -NR" C (NR"2 ) NHR" , -COR" R<sup>10</sup> R<sup>11</sup>, -NR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>, -NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>, -NR<sup>12</sup> CO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>, -NR<sup>12</sup> C , NDFY, R0,  $-0R^{10}$ ,  $-SR^{10}$ , -S (0) R0,  $-SO_2R^{10}$ , -NR<sup>2</sup>およびR³は独立に、H、H E T、アリール、C1-12 脂肪族、CN、NO2

CO2R11, -CONR12 R11, -SO2NR12 R11, -OCONR12 R11, C ( NR12) NR12 R11 であり、ここでそのC1-12 脂肪族は、所望により C(0)、0 は2個有していてもよく;そのHELアリールもしくはC1-12 脂肪族は所望によ り $1 \sim 3$  個の $R^{10}$  で冒換されていてもよく;かつ、 $R^2$ は所望により $R^3$ と結合し て5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群から選択さ れる縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環は1~3 個のヘチロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのへ テロ原子の0~1個は0もしくは Sであり、かつ、その縮合環は所望により 1~ 3個のR³で置換されていてもよく(ここで、HET、R³、R¹º、R'' およびR¹ 、8、8(0)、802もしくはNR2から選択される1~2基の挿入を1個また 2は下記の定義に同じ);

R\*は、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R<sup>5</sup>は、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシル、ヘテロアリール もしくはアリールで置換されていてもよいC1-12 脂肪族であり;

NR®R"、-NR®R"、または-OR"(ここで、R®およびR"は下配の R<sup>6</sup>およびR<sup>7</sup>は独立に、ハロゲン、CN、NO<sub>2</sub>、-CONR<sup>10</sup> R<sup>111</sup>、-SO<sub>2</sub>

(35)

定義の通り)であり;

R®は、OH、NHSO2R12またはNHCOCF3であり;

R<sup>9</sup>は各々独立に、ハロゲン、C1.12 脂肪族、CN、-NO2、R<sup>10</sup>、-OR<sup>11</sup>、-SR<sup>11</sup>、-SR<sup>11</sup>、-SR<sup>11</sup>、-NR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-COR<sup>11</sup>、-COR<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、-COOR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、-COOR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup> (CC<sup>2</sup>、 Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup> (CC<sup>2</sup>、 Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup> (CC<sup>2</sup>、 Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup> (CC<sup>2</sup> Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup> (Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup> (CC<sup>2</sup> Coor<sup>12</sup> R<sup>11</sup> (Coor<sup>12</sup> R<sup>1</sup>

R®は各々独立に、H、ハロゲン、C1-12 脂肪族、アリールまたはHETであ

り、ここでそのCLII2 調助族は所望により0、S、S(0)、S O2もしくはNR12から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのCLII2 調助族、アリールまたはH E T は所望により1~3値のハロ、別のH E T、アリール、CN、-S R<sup>12</sup>、-O R<sup>12</sup>、-N (R<sup>12</sup>)2、-N (R<sup>12</sup>)2、-N (R<sup>12</sup>)2、-N R<sup>12</sup> COR (R<sup>12</sup>)2、-N R<sup>12</sup> COR (R<sup>12</sup>)2、-N R<sup>12</sup> COR (R<sup>12</sup>)2、-N R<sup>12</sup> (N R<sup>12</sup>) 2、T電換されていてもよく(ここで、H E TおよびR<sup>12</sup> HDの定義の通り):

R" は、HまたはR"0 であり;

 HETは、ベンゾフラン、ベングキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオン、ジチアン、ジチアシン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダゾール、インドール、インドール、オキサジアール、オキサゲール、オキサジアリール、オキサチアゾール、オキサデアール、オキサデジール、オキサデジール、オキサデジン、ピペラジン、ピペラジン、ピラン、ピラン、ピッシン、ピリジン、ピリジン、ピリジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラピール、チフトトラジール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チフト

リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン、チオピラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10員の絶加または不飽和複業環である}

を有する化合物族、ならびに前記で定義された(1)の医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、生加水分解性カルパメート、生加水分解性カルボシルド・生加水分解性カレイド、溶媒和物、水和物、親和性試薬等

たはプロドラッグを含む。

本発明の好ましい化合物群として、一般式(1)

(式中、R¹はH、または所望によりR²と結合して下配たHETとして定義されている群から選択される縮合環を形成していてもよく、ここでその縮合環は所望により1~3個のR³で置換されていてもよく(ここで、R²およびR³は下配の定が当かい。

8

(33)

ET、R9、R10、R11およびR12は下配の定義の通り);

R'tt、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R<sup>5</sup>は、Hまたは所望により1~3個のハロ、OHもしくはアリールで置換されていてもよいC1。脂肪族であり;

R\*およびR'は独立た、ハロゲン、CN、NO2、一CONR" R<sup>11、</sup> — S O<sub>2</sub> NR" R <sup>11、</sup> — NR" R <sup>11、</sup>または一OR"(ここで、R" およびR" は下配の 定義の通り)であり;

R8t, OH, NHSO2R12 # tttNHCOCF3 Tab ;

R<sup>8</sup>は各々独立に、ハロ、C<sub>14</sub> 脂肪族、CN、ーNO2、R<sup>10</sup>、ーOR<sup>11</sup>、ーSR<sup>11</sup>、ーS (O) R<sup>10</sup>、ーSO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、一NR<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、ーNR<sup>11</sup> COR<sup>11</sup>、ーNR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、ーNR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、ーNR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、ーNR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、ーNR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、ーCO<sup>2</sup>R<sup>11</sup>、しCO<sup>2</sup>R<sup>11</sup>、しCOR<sup>12</sup>、NHR<sup>11</sup>、しCOR<sup>12</sup>、R<sup>11</sup>、にこで、R<sup>10</sup>、R<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、しCONR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、またはC(NR<sup>12</sup>)NR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>(ここで、R<sup>10</sup>、R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup>は下記の定義の通りであり;

R<sup>10</sup>は各々独立に、H、ハロゲン、C<sub>14</sub> 脂肪族、アリールまたはHETであ り、ここでそのC<sub>14</sub> 脂肪族は所望によりO, S、S(O)、SO2もしくはNR<sup>12</sup> から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのC<sub>14</sub> 脂肪族、 アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、C N、一SR<sup>12</sup>、一OR<sup>12</sup>、一N (R<sup>12</sup>)<sub>2、</sub> ーS(O) R<sup>12</sup>、一SO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>、一S O<sub>2</sub>N(R<sup>13</sup>)<sub>2、</sub> ーNR<sup>12</sup> COR<sup>12</sup>、一NR<sup>12</sup> CO<sub>3</sub>R<sup>12</sup>、一CON(R<sup>13</sup>)<sub>2、</sub> ーNR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) とCO<sub>3</sub>R<sup>12</sup>、一CON(R<sup>13</sup>)<sub>2、</sub> ーNR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) とで置換されていてもよく(ここで、HETおよびR<sup>12</sup>は下配の定義の通り);

R 11 は、HまたはR 10 であり;

R'z は、H、C1s 脂肪族またはHETであり、そのC1s 脂肪族は所望により1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、HETは下

記の定義の通り)であり;かつ、

HBTは、ペンプラン、ペンゾキサゾール、ジオキシン、ジオサン、ジオ キンラン、ジチアン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ ール、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジ、、オキシアジン、 、ピペラジン、ピイリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、チャラヒドロフラン、テトラジン、ティラゾン、キアリン、キアリアジン、チアジアジール、チアト リアゾール、チアジン、キアゾール、チオモルホリン、チアジアゾール、チアト リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアジアゾール、チアト リアゾール、チアジン、チアゾアジン、チアジアジン、チオピ ラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10頁の 随和または不飽和複素類である)のもの、ならびに前配で定義された(1)の医 楽上評答される塩、生加水分解性カルボネート、生加水分解性アミド、生加水分解性 カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、溶媒和物、 水布物、銀約性虹藻またはプロドラッグがある。

本発明の極めて好ましい化合物群としては、一般式 (1)

(式中、R'はHであるか、または所望によりR'と結合して縮合とリジン、縮合トリアゾールもしくは縮合アミノ置換トリアゾールからなる群から選択される縮合環を形成していてもよく;

R<sup>2</sup>もよびR<sup>3</sup>は独立に、H、HET、アリール、C<sub>1</sub>s 脂肪体、一R<sup>12</sup> NH<sup>2</sup>、R<sup>12</sup> 一 C C N、NO<sup>2</sup>、ハロゲン、R<sup>10</sup>、一OR<sup>10</sup>、一S C (O) R<sup>10</sup>、一S O<sub>2</sub> R<sup>10</sup>、一NR<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、一NR<sup>11</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> C C O NR<sup>12</sup> NH<sup>13</sup>、一C C O NR<sup>13</sup> NH<sup>13</sup>、一C C O NR<sup>13</sup> NH<sup>13</sup>、一C O NR<sup>13</sup> NH<sup>13</sup>、一C O NR<sup>13</sup> NH<sup>13</sup>、一C O NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup>、一C O NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup>、—C O NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup>、一C O NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup>、—C O NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> A<sup>13</sup> R<sup>11</sup> A<sup>11</sup> A

(36)

所望により1~3個のR1º で圏換されていてもよく;かつ、R2は所望によりR3 を所望により有していてもよく;そのHET、アリールもしくはC1-5 脂肪族は ていてもよく、かつ、その縮合環は所望により $1 \sim 3$ 個の $\mathbb{R}^9$ で置換されていて C(N R 12 ) N R 12 R 11 であり、ここでその C 1-s 脂肪族は、C(O)基の挿入 と結合して下記にHETとして定義されている群から選択される縮合環を形成し もよく(ここで、HET、R9、R10、R11 およびR12 は下配の定義の通り); R\*は、H、ハロゲン、NO2またはCNであり、

R<sup>5</sup>は、Hまたは所望により1~3個のハロゲン、OHもしくはアリールで置 換されていてもよい C1-6 脂肪族であり; R®およびR1は独立に、ハロゲン、CN、NO2、一CONR<sup>10</sup> R<sup>111</sup>、-SO<sub>2</sub> N R <sup>10</sup> R <sup>11</sup>、一N R <sup>10</sup> R <sup>11</sup>、または一O R <sup>11</sup>(ここで、R <sup>10</sup> および R <sup>11</sup> は下配の 定義の通り)であり;

R³は、OH、NHSO2R12またはNHCOCF3であり;

, -NR12 C (NR12) NHR11, -CO2R11, -CONR12R11, -SO2N SR11, -S (0) R10, -SO2R10, -NR10 R11, -NR11 R12, -NR1 R<sup>9</sup>は各々独立に、ハロ、C<sub>1</sub>4 脂肪族、CN、-NO<sub>2</sub>、R<sup>10</sup>、-OR<sup>11</sup>、-COR", -NR" CO1R", -NR" CONR" R12, -NR" SO1R" Riz Kii、一0 C O N Riz Kii またはC(N Riz)N Riz Kii(とこで、Rio、 R'11 およびR'2 は下記の定義の通り) であり;

NR<sup>12</sup> CO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>, -NR<sup>12</sup> CON (R<sup>12</sup>) 2, -NR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>12</sup>, -り、ここでそのこい 脂肪族は所望によりの、S、S(0)、S02もしくはNR12 アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、 C N, NO<sub>2</sub>,  $-R^{12}$ ,  $-SR^{12}$ ,  $-OR^{12}$ ,  $-N(R^{12})_2$ ,  $-R^{12}N(R^{12})_2$ , -S (0)  $R^{12}$ , -S02 $R^{12}$ , -S02N ( $R^{12}$ ) 2, -N $R^{12}$  C0 $R^{12}$ , -CO2R12、-CON (R12) 2、-NR12 SO2R12、-OCON (R12) 2、ま R D は各々独立に、H、ハロゲン、C Ls 脂肪族、アリールまたはHETであ たはトリフルオロで置換されていてもよく(ここで、HETおよびR'2 は下記の から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのこい。 脂肪族、

定義の通り);

K"は、HまたはK"であり;

R2は、H、C1-8 脂肪族、NO2、C1-8 アルコキシ、ハロゲン、アリールま たはHETであり、そのC;4 脂肪族は所望により1~3個のハロゲンもしくは OHで置換されていてもよく(ここで、HETは下記の定義の通り);

れた(1)の医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド ジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミジン、ピロール、ピロリジン、テトラヒド ロフラン、テトラジン、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアトリ アゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チオピラン、チオキソトリ ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダゾール、イミダゾビリジニル、モル アジン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5または6 員の飽和または不飽和ヘテロアリール臭である)のもの、ならびに前配で定義さ ホリン、オキサゾール、オキサジアゾール、オキサチアゾール、オキサチアゾリ 生加水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイ HETは、ジオキシン、ジオキサン、ジオキソラン、ジチアン、ジチアジン、 ジン、オキサジン、オキシアジアジン、ピペラジン、ピペリジン、ピサン、 ド、溶媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグがある。 R1およびR2が、メチル置換した縮合ピリジンである縮合環をさらに合んでな る式(1)の化合物もまた極めて好ましい。

それ5のR6、R7およびR8位での置換基に関して好ましいものである化合物

R'は、Hまたは所望によりR'と結合して5~10頁のアリール、ヘテロアリ

(38)

一ルもしくは複素環からなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくはその複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1~3個のR°で置換されていてもよく(ここで、R'および R'は下配の定義の通り);

R<sup>2</sup> およびR<sup>3</sup>は独立に、H、HET、アリール、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、NO<sub>2</sub>、ハロゲン、R<sup>10</sup>、 - O R<sup>10</sup>、 - S R<sup>10</sup>、 - S (O) R<sup>10</sup>、 - S O<sub>2</sub> R<sup>10</sup>、 - N R<sup>10</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - N R<sup>11</sup> C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - N R<sup>12</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - N R<sup>12</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - N R<sup>12</sup> C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>1</sub> R<sup>11</sup>、 - C O<sub>2</sub> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>1</sup>

は2個有していてもよく;そのHET、アリールもしくはCira 脂肪族は所望により1~3個の Rio で置換されていてもよく;かつ、Rit所望により Rioと結合して5~10 目のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からな事から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環は0~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1~3個の Rioで置換されていてもよく(ここで、HET、Rio、Rio、Rio ないでRio は下配の定義の通り)であり;

R'4は、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R\*は、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリールで醤秧されていてもよいC1:13 脂肪族であり:

R6およびR7はハロゲンであり;

R<sup>8</sup>はOHであり;

R®は各々独立に、ハロゲン、C1-12 脂肪族、CN、-NO2、R®、-OR" 、-S R"、-S (O) R®、-S O2 R®、-NR® R"、-NR" R"、-

NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> CONR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>、-NR<sup>12</sup> SO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> C (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>11</sup>、-CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、-CONR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、-SO<sub>2</sub>NR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、-OCONR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、+SO<sub>2</sub>NR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>、+OCONR<sup>12</sup>R<sup>11</sup> またはC (NR<sup>12</sup>) NR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>(ここで、R<sup>10</sup>、R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup>は下記の定義の通り)であり;

 $R^{10}$  は各々独立に、H、ハロゲン、Cr.12 脂肪族、アリールまたはHETであり、ここでそのCr.12 脂肪族は所望によりO、S、S(O)、SO2もしくはNR12から選択される  $1 \sim 2 4 \omega$  挿入を有していてもよく、ここでそのCr.12 脂肪族、アリールまたはHETは所望により $1 \sim 3 @ O \cap D$ 、別のHET、アリール、CN、 $- S R^{12}$ 、 $- O R^{12}$ 、 $- N (R^{12})_2$ 、 $- S (O) R^{12}$   $- S (O) R^{12}$  - S (O) - S

2) z、-NR<sup>12</sup>(NR<sup>12</sup>)NHR<sup>12</sup>、-CO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>、-CON(R<sup>12</sup>) 2、-NR 12 SO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>、-OCON(R<sup>12</sup>) 2で圏換されていてもよく(ここで、HETおよびR<sup>12</sup>は下記の定義の通り)であり;

R11 は、HまたはR10 であり;

 $R^{12}$ は、H、 $C_{1-12}$  脂肪族またはH E T C E D 、その $C_{1-12}$  脂肪族は所望により $1 \sim 3$  個のハロゲンもしくはO H C 電換されていてもよく(C C C 、H E T は下間の定義の通り);かつ、

HETは、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオサン、ジオ キンラン、ジチアン、ジチアシン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサシアゾ ール、オキサチアゾール、キャサチアゾリジン、オキサジン、オキシアジンン 、ピペラジン、ピペリジン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラン、テトラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チブト リアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チオナフタレン、チオド ラン、トリアジン、およびトリアゾールがちなる群から選択される5~10頁の 絶乱または不飽和複素環である〕で示される化合物、ならびに前記で定義された (40)

(1)の医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、生加水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、溶媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグがある。

それらのKo、KiおよびKo位での置換基に関して好ましいものであるもう! つの化合物群としては、式:

(式中、R<sup>1</sup>は、Hまたは所望によりR<sup>2</sup>と結合して5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群から選択される結合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくはその複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個は0もしくはSであり、かつ、その絡合環は所望により1~3個のR<sup>2</sup>で置換されていてもよく(ここで、R<sup>2</sup>およびR<sup>2</sup>は下記の定義の通り);

、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1

~3 個のkºで電換されていてもよく(ここで、HET、kº、kºo、kº および Rº は下配の定義の通り)であり;

R4は、H、ハロゲン、NO2またはCNであり;

R⁵は、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリールで置換されていてもよいし!!2 脂肪度であり;

RoおよびR7は独立に、プロモまたはクロロであり;

R<sup>8</sup>はOHであり;

K<sup>8</sup>は各々独立に、ハロゲン、C1-12 脂肪族、CN、一NO2、K<sup>10</sup>、一OR<sup>11</sup>、 、-SR<sup>11</sup>、-S(O) R<sup>10</sup>、-SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、一NR<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、一NR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>、一 NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> CONR<sup>11</sup> R<sup>12</sup>、一NR<sup>12</sup> SO<sub>2</sub> R<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> C (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>11</sup>、 -CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、-CONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-S O<sub>2</sub>NR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、-OCONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup> 葉たはC (NR<sup>12</sup>) NR<sup>12</sup>R<sup>11</sup>(ここで、 R<sup>10</sup>、R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup>は下配の定義の通り)であり; R<sup>10</sup> は各々独立に、H、ハロゲン、Ci-12 脂肪族、アリールまたはHETであ り、ここでそのCi-12 脂肪族は所望によりの、S、S(O)、SO2もしくはNR<sup>1</sup> 2から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでそのCi-12 脂肪族 、アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、 CN、ーSR<sup>12</sup>、一OR<sup>12</sup>、一N (R<sup>12</sup>) 2、一S(O) R<sup>12</sup>、一SO2 R<sup>12</sup>、一 SO2N (R<sup>12</sup>) 2、一NR<sup>12</sup> COR<sup>13</sup>、一NR<sup>12</sup> CO2 R<sup>13</sup>、一NR<sup>12</sup> CON ( R<sup>12</sup>) 2、一NR<sup>12</sup> (NR<sup>12</sup>) NHR<sup>12</sup>、一CO2 R<sup>13</sup>、一CON (R<sup>13</sup>) 2、一 NR<sup>12</sup> SO2 R<sup>12</sup>、一OCON (R<sup>12</sup>) 2で置換されていてもよく (ここで、HE TおよびR<sup>12</sup> は下配の定義の通り)であり;

R<sup>11</sup> は、HまたはR<sup>10</sup>であり;

 $R^{12}$  は、H、 $C_{1-12}$  脂肪族まだはHE Tであり、その $C_{1-12}$  脂肪族は所望により $1 \sim 3$  個のハロゲンもしくはOH で置換されていてもよく(CC C 、HE Tは

(45)

**特表2002-514228** 

<del>(1</del>3

下記の定義の通り)であり;かつ、

それらの k°、 k'および k°位での 置換基に関して好ましいものであるさらに もう 1つの kC合物群としては、式:

民

R1は、Hまたは所望によりR2と結合して5~6 圓のヘテロアリール環からな

る群から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリール環は $0\sim$ 2個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の $0\sim$ 2個はNであって、そのヘテロ原子の $0\sim$ 2個はNであって、その 12の原子の12のの12ので置換されていてもよく(ここで、12、および13。で置換されていてもよく(ここで、12、および13。で置換されていてもよく

: (4

R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は独立に、H、HET、フェニル、C<sub>1</sub>s 脂肪族、一NR<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一CONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、一SO<sub>2</sub>NR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>であり、そのHET、フェニルもしくはC<sub>1</sub>s 脂肪族は所望によりR<sup>10</sup>で置換されていてもよく、その複素環は0~1個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子はNであって、その複素環は0~1個は0もしくはSであり、かつその縮合環は所望によりR<sup>3</sup>で置換されていてもよく(ここで、HET、R<sup>3</sup>、R<sup>10</sup>、R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup>は下記の定義の通り);

K'はHであり;

R<sup>5</sup>はHであり、

R<sup>6</sup>およびR'は独立に、プロモまたはクロロであり;

K®はOHであり;

R³は、H、C₁s 脂肪族、または一COR′º(ここで、R ºº は下配の定義の通

り) であり;

K <sup>10</sup> は、H、C<sub>1-6</sub> 脂肪族またはアミノであり;

R'1 は H', C 1.s 脂肪族、ヒドロキシーC 1.s 脂肪族、フェニル、フェニルーC

**い 脂肪族またはHETであり;** 

K<sup>13</sup> は、H、C<sub>1-8</sub> 脂肪族、ヒドロキシーC<sub>1-8</sub> 脂肪族または(R<sup>11</sup>)2NーC, 6 脂肪液であり;かつ、

HETはオキサゾール、ピリジン、テトラゾールおよびチアゾールからなる群

から選択される複素環である」で示される化合物、ならびに前記で定義された(1)の医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解性アミド、生加水分解性カルパメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解性ウレイド、溶解的物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグがある。

それちのRe、KiおよびRe位での置換基に関して好ましいものである更にもう1つの化合物群としては、式:

€

R1はHであり;

くはC)・8 脂肪族は所望によりR10 で置換されていてもよく(ここで、HET、R ゲン、-COR<sup>!!</sup>、または-CONR<sup>!!</sup> R<sup>!!</sup> であり、そのHET、フェニルもし R2およびR3は独立に、H、HET、フェニル、C14 脂肪族、シアノ、ハロ 10、 R 11 および R 12 は下配の定義の通り);

K'はHであり;

R<sup>5</sup>はHであり;

R°およびR7は独立に、プロモまたはクロロであり;

K®はOHであり

R to は、H、 C 1-s 脂肪族、オキソまたはシアノであり;

R 11 は、H, C 1.6 脂肪族、トリハローC 1.6 脂肪族、フェニルまたはニトロ置

救フェニルであり;

R 12 は、H、 C 1-6 脂肪族、ヒドロキシー C 1-6 脂肪族であり;かつ、

HETはチオフェンまたはピリジンである)で示される化合物、ならびに前配 性アミド、生加水分解性カルバメート、生加水分解性カルボネート、生加水分解 で定義された(1)の医薬上許容される塩、生加水分解性エステル、生加水分解 性ウレイド、溶媒和物、水和物、親和性試薬またはプロドラッグがある。

個々の立体異性体(鏡像異性体およびジアステレオマー)およびそれらの混合物 も本発明の範囲内に含まれる。同様に、式(1)の化合物は、その式で示される ものではなく互変体形態で存在する可能性があり、これらも本発明の範囲内に含 前配式(1)の特定の化合物は、立体異性体の形態で存在し得る(例えば、そ れらは1以上の不斉炭素原子を含むか、またはシスートランス異性体を示す)。

まれる。

二重結合の存在により、それらの個々の純粋なBおよび2幾何異性体、ならび にEおよび2異性体の混合物も本発明の化合物に含まれる。

**瓦** 異性体

E/Z混合物

記載された発明および簡求の範囲に記載された発明は、2異性体とE異性体の **存在における比率にいかなる限定も散けるものではない。** 

ドローインドールー2ーオンは、B型幾何異性体、2型幾何異性体、ならびにそ のEおよび2型幾何異性体混合物として開示され、特許請求されるが、いかなる このように、下記の表の化合物番号138である、化合物3-(3,5-ジブ ロモー4ーヒドロキシーベンジリデン) -5-ピリド-3-イル-1, 3-ジヒ 所定の比によっても限定されない。

左旋性のいずれかであると考えられる。また、個々の右旋性または左旋性の純粋 記載の化合物のあるものは、1以上のキラル炭素を含み、ゆえに右旋性または な調製物、およびそれらの混合物もまた本発明の化合物に含まれる。

合物由来の部分に残っており、治療および予防目的にはそれが患者にとって医薬 本発明の化合物の塩は、窒素から誘導された酸付加塩を、式(1)の化合物の 置換基上に含んでなってもよい。治療活性は、本明細書で定義された本発明の化

(46)

上許容されることが好ましいが、別の成分の同定は重要ではない。

極めて好ましい生加水分解性カルバメートは、式(1)(试中、R®はOHであり、かつ、そのOHはカルバモイル複合体と結合して生加水分解性カルバメートとなり、ここでそのカルバモイル複合体はジエチルアミノカルボニル、Nー(2ーヒドロキシエチル)アミノカルボニル、N、Nービス(2ーヒドロキシエチル)

アミノカルボニル、ヒドロキシエチルオキシエチルアミノカルボニル、4ーモルホリノカルボニルおよび4ーメチルー1ーピペラジニルカルボニルからなる群から選択される)の化合物を含んでなる。

極めて好ましい生加水分解性カルボネートは、式 (1) (式中、R<sup>8</sup>はOHであり、かつ、そのOHはカルボネート複合体と結合して生加水分解性カルボネートとなり、ここでそのカルボニル複合体はフェニルメチルオキシカルボニル、エチルオキシカルボニル、オメガセリジンメチルオキシカルボニルのちなる群から選択される)の化合物を含んでなる。

極めて好ましい生加水分解性エステルは、式(1)(式中、R<sup>8</sup>はHであり、かつ、そのOHはエステル複合体と結合して生加水分解性エステルとなり、ここでそのエステル複合体は t ープチルカルボニルオキシメチルからる群から選択される) の化合物を含んでなる。

本発明は、プロテインキナーゼ活性によって媒介される疾患の治療用医薬の製造に使用するため、式(1)の化合物、またはその医薬上許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、カルボネート、アミン、ウレイドもしくはカルバメートのうちの1つをさらに含む。

本発明は、変異型 r a s 遺伝子によって引き起こされる障害によって媒介される疾患の治療用医薬の製造に使用するため、式(1)の化合物、またはその医薬上許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、カルボネート、アミン、ウレイドもしくはカルパメートのうちの1つをさらに含む。

本発明は、アップレギュレートされたチロシンキナーゼシグナリング経路によって媒介される疾患の治療用医薬の製造に使用するため、式 (1)の化合物、ま

たはその医薬上許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、カルボネート、アミン、ウレイドもしくはカルバメートのうちの1つをさらに含・\*\*

本発明は、マイトジェン活性化プロテインキナーゼによって媒介される疾患の治療用医薬の製造に使用するため、式(1)の化合物、またはその医薬上許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、カルボネート、アミン、 サレイドもしくはカルバメートのうちの1つをさちに含む。

本発明は、c R a f キナーゼによって媒介される疾患の治療用医薬の製造に使用するため、式(1)の化合物、またはその医薬上許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、カルボネート、アミン、ウレイドもしくはカルバメートのうちの1つをさらに含む。

本発明の好ましい種の化合物群は、次の群を含んでなる。

Ï

および

本発明のもう1つの好ましい化合物群は、

### の群を含んでなる。

さらにもう1つの好ましい化合物群は、

(54)

および

の群を含んでなる。

特に好ましい化合物群は、

および

の群を含んでなる。

独立した置換基

本発明は、構造式(I)において8つの異なる置換点を開示する。これらの置換点の各々は、本発明の一郎としてのそれらの選択および合成が式(I)における他の終ての置換点とは独立した置換基を有する。従って、各々の置換点をこ

でさらに個々に記載する。

R!は水素である。所望により、R!はR?置換基と結合して縮合環を形成することができる。かかる縮合環は5~10員のアリール、ヘテロアリール、または1~3個のヘテロ原子を有する複素環もしくは複素環系である得る。これらのヘ

(26)

パメートによる1~3 間換が含まれる。これらの置換基は次ぎに1~12個の炭 リール環、複素環が挙げられる。これらの脂肪族、アリールまたは複素環式基上 の置換基としては、ハロゲン、別の複素環、別のアリール環、シアノ、置換スル **ホ、置換オキシ、置換アミン、置換スルホキシド、置換スルフィン、置換スルホ** ン、置換スルホンアミド、置換アミド、置換ウレイド、置換エステル、置換カル 、ハロゲン、またはヒドロキシルを1~3個生じさせることにより置換すること テルまたはヒドロキシルの1~3 基によって電換することができる。アミド、ス ルホンアミド、アミン、またはエーテルに対する間換基としては、水素、ハロゲ **索の脂肪族または複素環となり得、ここで1~12個の炭素の脂肪族それ自体は** テロ原子は窒素、酸素または硫黄であり得る。かかる縮合環は所望によりハロゲ ン、シアノ、ニトロ、置換アミド、置換スルホンアミド、置換アミン、置換エー ン、1~12個の炭素の脂肪族(酸素、硫黄、スルホキシド、スルホン、スルフ ィン、または第2級アミンのその鎖長に沿ったどこかに挿入基を有し得る)、ア ができる

サゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオキソラン、ジチアン、ジチアジン、ジ ラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミジン、ピロール、ピロリジン、キノリン して締合環を形成することができる。かかる縮合環は、ベンゾフラン、ベンゾキ モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾール、オキサチアゾール、オキサチア あるいは、R¹は水素であり得るか、または所望によりR¹はR²置換基と結合 **チアゾール、ジチオラン、フラン、イミダゾール、インドール、インダゾール、** ゾリジン、オキサジン、オキサジアジン、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、

らなる群に由来し得る。これらの環はいずれも次ぎにハロゲン、別の複素環、別 キナゾリン、テトラヒドロフラン、テトラジン、テトラゾール、チオフェン、チ アジアジン、チアジアゾール、チアトリアゾール、チアジン、チアゾール、チオ モルホリン、チアナフタレン、チオピラン、トリアジン、およびトリアゾールか のアリール環、シアノ、電換スルホ、電換オキシ、置換アミン、置換スルホキシ ド、間換スルフィン、間換スルホン、間換スルホンアミド、間換アミド、間換ウ

レイド、置換エステル、または置換カルバメートによる1~3 置換を含んでなる れ自体は、ハロゲン、またはヒドロキシルを1~3個生じさせることにより間換 2個の炭素の脂肪族または複素環となり得、ここで1~12個の炭素の脂肪族そ 冒換基由来の基によって置換することができる。これらの置換基は次ぎに1~1 することができる。

好ましくは、兄!は水紫であるか、またはR?と縮合して縮合ピリジン、縮合ト リアゾール、縮合チアゾールまたは縮合アミノ間換チアゾールを形成する。

最も好ましくは、R'は水素である。

スルホン、置換スルホンアミド、置換アミド、置換ウレイド、置換エステル、置 ロ、ハロゲン、置換エーテル、置換チオエーテル、置換スルフィン、置換スルホ ン、置換アミン、二置換アミン、置換アミド、置換カルパメート、置換スルホン アミド、冒換カルボニル、または置換エステルである。これらの置換基は、水素 スルフィン、または第2級アミンのその機長に沿ったどこかに挿入基を有し得 式基上の置換基としては、ハロゲン、別の複素環、別のアリール環、シアノ、置 換スルホ、置換オキシ、置換アミン、置換スルホキシド、置換スルフィン、置換 換カルバメートによる1~3置換が含まれる。これらの置換基は次ぎに1~12 ハロゲン、1~12個の炭素の脂肪族(酸素、硫黄、スルホキシド、スルホン る)、アリール環、複素環であり得る。これらの脂肪族、アリールまたは複素環  $R^2$ は水素、アリール環、複素環、 $1 \sim 12$ 個の炭素の脂肪族、シアノ、ニト

素の脂肪族または複素環となり得、ここで1~12個の炭素の脂肪族それ自体は ハロゲン、またはヒドロキシルを1~3個生じさせることにより置換すること ができる。

個の炭

R<sup>2</sup>はR<sup>3</sup>と結合して、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキ サン、ジオキソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラ ン、イミダゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オ キサジアゾール、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキサ シアジン、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン (28)

ラン、テトラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール 、チアトリアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン 、チオピラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される縮合 、ピリミジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフ 環を形成することができる。

または1~6個の炭素の脂肪族によって置換されていてもよい。そのアミン、カ エステル、アミドまたはスルホンアミドは、所望により1~6個の炭 秦の脂肪族、アミノ、ヒドロキシー1~6個の炭素の脂肪族、フェニル、フェニ 置換アミン、置換カルボニル、置換エステル、置換アミド、または置換スルホン ルー1~6個の炭素の脂肪族、アミノー1~12個の炭素の脂肪族、またはオキ サゾール、ピリジン、テトラゾールもしくはチアゾールのような複素環によって アミドであり得る。この複素環、フェニルまたは脂肪族基は、所望によりアミノ R<sup>2</sup>はさらに好ましくは水素、複素環、フェニル、1~6個の炭素の脂肪族、 置換されていてもよい。

~6個の炭素の脂肪族、または1~6個の炭素のアシル基によって置換すること K²はさらに好ましくはK³と結合して、窒素、酸素または硫黄のいずれかのへ テロ原子を有する5員の縮合環を形成することができる。これらの縮合環は、

得る。これらの匱換基は、1~6個の炭素の脂肪族、三ハロゲン-1~6個の炭 6 個の炭素の脂肪族、シアノ、ハロゲン、置換アシル、または置換アミドであり 素の脂肪族、フェニル、ニトロー置換フェニル、またはヒドロキシー1~6個の R<sup>2</sup>はまたさらに好ましくは、水鰲、チオフェン、ピリジン、フェニル、1~ 炭素の脂肪族であり得る。

ン、置換アミン、二置換アミン、置換アミド、層換カルバメート、置換スルホン アミド、冒換カルボニル、または間換エステルである。これらの置換基は、水素 ロ、ハロゲン、雷換エーテル、置換チオエーテル、電換スルフィン、置換スルホ R2は水素、アリール環、複素環、1~12個の炭素の脂肪族、シアノ、ニト 、ハロゲン、1~12個の炭素の脂肪族(酸素、硫黄、スルホキシド、スルホン

式基上の置換基としては、ハロゲン、別の複素環、別のアリール環、シアノ、置 換スルホ、置換オキシ、置換アミン、置換スルホキシド、置換スルフィン、置換 スルホン、置換スルホンアミド、置換アミド、置換ウレイド、置換エステル、置 間の炭素の脂肪族または複素環となり得、ここで1~12個の炭素の脂肪族それ スルフィン、または第2級アミンのその鎖長に沿ったどこかに挿入基を有し得 換カルバメートによる1~3 置換が含まれる。これらの置換基は次ぎに1~12 る)、アリール環、複素環であり得る。これらの脂肪族、アリールまたは複素環 自体は、ハロゲン、またはヒドロキシルを1~3個生じさせることにより置換す ることができる。 R³はR²と結合して、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキ サン、ジオキンラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラ ン、イミダゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オ キサジアゾール、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキサ シアジン、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン ピリミジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラ チオピラン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される縮合環 ン、テトラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、 チアトリアゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン、 を形成することができる。

ニルー1~6個の炭素の脂肪族、アミノー1~12個の炭素の脂肪族またはオキ 置換アミン、置換カルボニル、置換エステル、置換アミド、または置換スルホ ンアミドであり得る。この複素環、フェニルまたは脂肪族基は、所望によりアミ カルボニル、エステル、アミドまたはスルホンアミドは、所望により1~6個の 炭素の脂肪族、アミノ、ヒドロキシー1~6個の炭素の脂肪族、フェニル、フェ サゾール、ピリジン、テトラゾールもしくはチアゾールのような複素環によって K3はさらに好ましくは、水素、複素環、フェニル、1~6個の炭素の脂肪族 ノまたは1~6個の炭素の脂肪族によって置換されていてもよい。そのアミン、

(09)

特表2002-514228

## 置換されていてもよい。

Riはさらに好ましくはRiと結合して、窒素、酸素または硫黄のいずれかのヘテロ原子を有する5員の縮合環を形成することができる。これらの縮合環は1~6個の炭素の脂肪族、または1~6個の炭素のアシル基によって價換することがつきュ

R'は水素、ニトロ、シアノ、またはハロゲンである。

好ましくは、R1は水繋である。

R³は水葉またはハロゲン、とドロキシル、もしくは所望によりアリール環によって1~3位が圏換されていてもよい1~12個の炭素の脂肪族である。あるいは、R³は水素またはハロゲン、ヒドロキシル、もしくは所望によりアリール環によって1~3位が圏換されていてもよい1~6個の炭素の脂肪族であ。

好ましくは、R5は水素である。

R<sup>6</sup>はハロゲン、シアノ、ニトロ、圏換アミド、電換スルホンアミド、電換アミン、置換エーテルまたはヒドロキシルである。アミド、スルホンアミド、アミン、またはエーテルに対する電換基としては、水素、ハロゲン、1~12炭素の脂肪族(酸素、硫質、スルホナンド、スルホン、スルフィン、または第2級アミンのその鎖長に沿ったどこかに挿入基を有し得る)、アリール環、複素環が含まれる。これらの脂肪族、アリール環、シアノ、置換スルホ、置換オキシ、置換アミン、関砂複素環、別のアリール環、シアノ、置換スルホ、置換オキシ、置換アミン、質換スルホキシド、置換スルフィン、置換スルホン、置換スルホンアミド、運換アミド、電換さレイド、置換エステル、置換カルバメートによる1~3 置換が含まれる。これらの置換基は次ぎに1~12個の歧素の脂肪族または複素環となり

4、こでで1~12個の炭素の脂肪族それ自体は、ハロゲン、またはとドロキシルを1~3個生じさせることにより置換することができる。

R・はさらに好ましくはハロゲンである。

Roは最も好ましくは臭素である。

あるいは、Reは橙も好ましくは塩素である。

R7はハロゲン、シアノ、ニトロ、圏換アミド、圏換スルホンアミド、圏換アミン、圏換エーテルまたはヒドロキシルである。アミド、スルホンアミド、アミン、またはエーテルに対する圏換基には、水素、ハロゲン、1~12個の炭素の脂肪族(酸素、硫黄、スルホキシド、スルホン、スルフィン、または第2級アミンの

その鎖長に沿ってどこかに挿入基を有し得る)、アリール環、複葉環が含まれる。これらの脂肪族、アリールまたは複素環式基上の置続基としては、ハロゲン、別の複素環、別のフリール環、シアノ、置換スルホ、置換オルホン、電換スルホンアミド、運換アミド、置換フルホキンド、置換スルイン、置換スルホン、置換スルホンド。 でミド、置換ウレイド、置換エステル、置換カルバメートによる1~3 置換が含まれる。これらの置換基は次ぎに1~12個の炭素の脂肪族または複素環となり得、ここで1~12個の炭素の脂肪族をれ自体は、ハロゲン、またはヒドロキシルを1~3個生じさせることによって僵終することができる。

R'はさらに好ましくはハロゲンである。

R'は最も好ましくは臭素である。

あるいは、R1は最も好ましくは塩素である。

R®はとドロキシまたは所望により1~12個の歧素の脂肪族によって電換されていてもよい、もしくは複素環によって置換されていてもよいスルホンアミドである。この脂肪族基自体は、1~3個のハロゲンまたはヒドロキシルによって置換することができる。

あるいは、R®はヒドロキシまたはNHCOCF3、または所望により1~6個の炭素の調助族によって置換されていてもよい、もしくは複素環によって置換されていてもよい、もしくは複素環によって置換されていてもよいスルホンアミドである。

(62)

特表2002-514228

あるいは、R<sup>8</sup>はヒドロキシまたはNHCOCF3、または所望により1~6個の炭素の調肪族、ニトロ、1~6個の炭素のアルコキシ、ハロゲン、アリールもしくは複素環によって置換されていてもよいスルホンアミドである。この脂肪族基自体は、1~3個のハロゲンまたはヒドロキシによって置換することができる

好ましくは、Rgはヒドロキシである。

さらなる態様において、本発明は式(1)の化合物の製造方法を提供し、その方法は式(11)

€

の化合物の式 (111)

(3)

の化合物との反応を含んでなる。

反応は好都合には、極端でない温度、例えばりで~150℃、好ましくは80℃~110℃にて適切な不活性溶媒、例えば芳香族炭化水素またはハロゲン化炭化水素の存在下、触媒酸の存在下で行われる。所望によりこの反応は、溶媒として酢酸中、強酸、例えば塩酸または硫酸の存在下で行ってもたい。

化合物(II) および(III) の製造は当業者に十分公知であり、式(II) を有する多くの化合物が市販されている(P.G. Gassmen:T.J.vanBergen, Oxindoles,A New General Method of Synthesis Journal of American Chemical Society,96(17),1974,5508-5512) (Jutz,Adv.Org.Chem.,9,225-342,1975;Truce,Org.React,9,3

7-72, <u>1957</u>)。

前記の他、式(1)のある化合物を、適当な置換基の化学的成分置換によって、別の式(1)の化合物へと変換してもよい。

本発明はまた、医療、特にとト悪性腫瘍などのプロテインキナーゼ活性によって媒介される疾患の治療に用いられる、式(1)の化合物およびそれらの医薬上

許容される塩、プロドラッグ、生加水分解性エステル、アミド、炭水化物、アミン、ウレイドまたはカルバメート(以下、「有効化合物」と呼ぶ)を提供する。 これらの化合物は、乳癌、結腸癌、肺癌、膵臓癌、前立腺癌および胃癌など、変 異型rasおよびアップレギュレートされたチロシンキナーゼシグナリング経路によって引き起こされる疾患の治療に特に有用である。 本発明はまた、ab1、ATK、bcr-ab1、B1k、Brk、Btk、c-kil、c-met、c-src、CDKi、CDK2、CDK4、CDK 6、CSF1R、CSK、EGFR、ErbB2、ErbB3、ErbB4、ERK、Fak、fes、FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4、FGFR5、F1k、Fyn、Hck、IGF-1R、INS-R、Jak、KDR、Lck、Lyn、MEK、CRafl、p38、PDGFR、P1K、PKC、PYK2、ros、tien、tien、TRK、Yes、およびZap70からなる群から選択されるキナーせによって媒介される疾病を治療する方法であって、薬理学上有効な量の前記に定義を担化有効化合物をそれを必要とする哺乳類に投与する工程を含んでなる方法を提供する。

本発明のさらなる態様は、マイトジェン活性化プロテインキナーゼによって媒介される疾患を患うとトまたは動物の身体の治療法であって、前記で定義された有効化合物の有効量をとトまたは動物被難体に投与することを含んでなる方法を担供する。

本発明は特に、cRaf1キナーゼによって媒介される疾病を治療する方法であって、薬理学上有効な量の館求項1記載の化合物をそれを必要とする哺乳類に投与する工程を含んでなる方法を提供する。

特表2002-514228

(63)

群、糸球体症、乾癬、真性糖尿病、炎症、および神経変性病からなる群から選択 される病状を治療する方法であって、薬理学上有効な量の前記で定義された化合 **厶性動脈硬化症、腎炎、糖尿病性腎症、悪性腎硬化症、血栓性微小血管障害症候** 物をそれを必要とする患者に投与する工程を含んでなる方法を提供する。

本発明のもう1つの態様は、悪性腫瘍の治療用医薬の製造における、式(1) の有効化合物の使用を提案する。 本発明のもう1つの態様は、かかる腫瘍のより有効な治療のために、これまで に知られている抗菌治療薬と同時投与する、式(1)の有効化合物の使用を提案

本発明の化合物は医薬、特に特定のとト悪性腫瘍、例えば乳癌、卵巣癌、非小再 細胞性肺癌、膵臓菌、胃癌および結腸癌で使用されることが確立されている。後 式(1)の有効化合物は、タンパク質セリン/トレオニンキナーゼc-Raf 治療上有効な量の前配で定義された有効化合物を動物に投与することを含んでな 1 酵素の阻害によって以下に実証されるような抗腐活性を有する。このように、 って本発明は、動物、例えばとトにおける感受性悪性腫瘍の治療方法であって、 る方法を提供する。 発明者らが本発明の一部として合成した化合物で、現在のところ好ましいもの が、下記の表1A、1Bおよび1Cに挙げられている。化合物は1列目に示され ぴ2Cに開示されている。各々の置換点での置換は総て互いに独立に合成できる ので、表1A、1Bおよび1Cはまたマトリックスとしても読まれ、ここでは置 た数字によって識別され、以下残りの列で、一般構造(1)に対して変化するも のが参照されている。対応するIUPAC命名法が各々、下記表2A、2Bおよ 換基のいずれの組合せも本発明の開示および請求の範囲内にある。

表1A

R <sup>6</sup>	ЮН	Н	Н	ЮН	ОН	НО	но	ОН	но	НО	ОН	ЮН	ОН	ОН
R,	Br	Br	OEt	ਹ	Br	Br	ច	) JEO	CI	OEt	Br	CI	Br	oEt
ኤ	ij.	Br	Br	Ö	Br	Br	ט	Br	CI	Br	Вг	CI	Вr	Вг
æ.	Ξ	π	I	ェ	ェ	I	Ι	Н	Н	н	н	I	I	н
ጁ	I	I	H	н	Η	I	ェ	エ	н	I	н	Н	Н	I
$R^3$	Η	н	I	I	н	I	I	Ξ	I	H	I	I	Н	н
R²	CN	٠. ب ب	:-(j	くべ	<b>*</b>	Ŏ,	Š	Š	: <u>*</u>			Ą	Q.	O.
R1	Ξ	I	I	I	Н	ェ	I	н	Ŧ	I	I	Ι	I	I
*	-	2	3	4	5	9	7	: : &	6	10	11	12	13	41

$\infty$
N
S
4
_
S
1
à
0
ō
^1
布淑/
ᄠ
4-

_	
8	
_	

THE PROPERTY OF THE PROPERTY O	#	-	R <sup>2</sup>	23	<b>™</b>	R <sub>5</sub>	R <sub>e</sub>	R,	R <sup>8</sup>
H       H	33	= =	1	I	ı	I	Br	Br	용
T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	34	ェ	<i>]</i> ~	I	I	Ξ	Br	Br	ОН
1       1	35	I		I	I	Η	Br	Br	ОН
日	36	I	*>_	T	ェ	Ι	Br	P.	ОН
1	l l	Ι		π	I	I	Br	ъ	ОН
СС.         Н         Н         СС.         Н <td>38</td> <td>I</td> <td>ಶ</td> <td>エ</td> <td>Ξ</td> <td>I</td> <td>Br</td> <td>Βŗ</td> <td>Ы</td>	38	I	ಶ	エ	Ξ	I	Br	Βŗ	Ы
Н         СР30         Н <td>39</td> <td>I</td> <td>ರ</td> <td>I</td> <td>I</td> <td>I</td> <td>ਹ</td> <td>ច</td> <td>용</td>	39	I	ರ	I	I	I	ਹ	ច	용
Н         Н	40	I	CF <sub>3</sub> O	I	エ	ェ	Br	ä	ㅂ
Н         Н	4	ェ	Br	I	I	Ξ	ō	ō	용
Н         Н	42	I	_	I	Ŧ	ェ	В	Ü	유
В В В В В В В В В В В В В В В В В В В	43	I		π	Ŧ	Ξ	Br	OMe	H
Н         СР30         Н <td>4</td> <td>Ξ</td> <td>Br</td> <td>Н</td> <td>I</td> <td>I</td> <td></td> <td></td> <td>ЭН</td>	4	Ξ	Br	Н	I	I			ЭН
H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	45	ェ	CF <sub>3</sub> O	I	I	Ξ	_		H
H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	46	I	I	I	I	I	Bŗ	OMe	H
H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	47	I	I	I	Η	I	NO <sub>2</sub>	NO2	동
Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	48	I	Ŧ	I	I	Ξ	D	ਹ	동
Н Н СО Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	49	Ŧ	I	Ι	I	I	ਹ	OMe	H
Н СС Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	20	ェ	I	I	I	T		_	핑
Н СО Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	51	I	ū	I	I	I	Bi	OMe	핑
Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	52	Ξ	ō	I	I	I	NO2	NO <sub>2</sub>	H
Н С С Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	53	I	5	Н	I	I	ОМе	NO <sub>2</sub>	H
Н В Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	54	I	ō	I	I	r	Ö	OMe	H
H Br H H H H H H H H H H H H H H H H H H	55	Ξ	ō	I	I	I	_	_	ᆼ
H Br H H H H CF30 H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	56	Ξ	ğ	Ŧ	I	I	Ŗ	OEt	동
H Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н Н	57	I	æ.	н	Ŧ	Ŧ	ă	ОМе	핑
н СF <sub>3</sub> О н н н н	58	Τ	u_	ш	I	I	Br	OMe	동
H CF30 H H H	59	I	CF3O	I	T	I	B	OEt	핑
	09	I	CF30	I	I	포	ਹ	5	용

E L	. 동	3	5	용	용	동	용	HO	НО	H	용	픙	H H	동	용	HO	Н	ᆼ	Н
P.7	5	i i	19	0	<u>19</u>	<del>ن</del>	à	Br	ū	0Et	Br	ā	Br	5	ă	В	ъ	ğ	ă
age	5	à	ă	ਹ	Br	Br	Br	Br	ū	Br	В	B.	B.	ਹ	Br	Br	B.	ă.	<u>8</u>
s <sub>a</sub>	1	-	г	I	I	I	Ξ	I	I	I	エ	I	I	н	I	I	エ	I	I
40			r	H	I	I	I	I	I	I	Н	I	I	I	Ŧ	I	I	I	I
																		i	
3	r r	:	r	I	I	I	I	ェ	I	ェ	I	I	I	I	王	ェ	エ	I	Ξ
-	~		5			4	CO,Me					1		COMe	H			3	0=7
卜	Y I			ī	ī	I	I		I	I	r	Ī		=	I	I	I	ェ	I
Ī	15	$\top$	9	17	89	19	200	21	22	23	24	25	52	77	28	29	30	31	32

α	0
c	4
ç	
4	r
-	
u	
-1	
ç	
C	3
C	
C	J
#	į
뷮	

ı,		,	
	۱	٠	
•	į	3	٢
•	۰	٠	٠

#	٦,	R <sup>2</sup>	R³	₽.	움	R°	π,	R <sub>B</sub>
86	I	<u>_</u>	I		H	Br	В	용
87	I		I	I	Ή	Br	Br	ة خ محرة
88	I	<u></u>	Ŧ	Ŧ	I	ō	ū	R
68	I	) C	工	H	п	Br	Br	Н
06	I	اباد	工	Н	I	ច	Ü	Ю
16	I	\$	I	н	I	Br	Br	ОН
92	I		I	I	I	B.	В	ЮН
93 ·	I		I	I	T	CI	ਹ	ОН
94	工	5	I	I	н	Br	Br	ЭН
98	I		I	I	Ŧ	Br	Br	ОН
96	I	Þ	I	I	I	Br	ă	ЮН
97	I	\rightarrow\'	I	I	Ι	Bř	B	ОН
86	I	• <del>-</del>	I	Ŧ	I	ਹ	ວັ	용
66	I		I	I	I	ರ	ច	ЮН
100	I		I	т	I	ū	ū	ОН
101	H	I	I	I	I	NO <sub>2</sub>	OMe	용
102	Н	Η	I	I	I	OMe	_	용
103	I	ਠ	I	I	Ξ	ä	面	OAc
104	I	_	Ŧ	Ξ	I	OMe	Š	HO.
105	エ	NO <sub>2</sub>	I	I	I	Ü	동	ЭН

R <sup>8</sup>	ЮН	ЭН	용	용	공	ЭН	ОН	ОН	ОН	ОН	H	ОН	ОН	OH.	동	НО	НО	НО	8 H	<del>*</del> ~.	공	H	HO H	ЮН	동
R7	OMe	B	ä	Β̈́	ũ	ă	<u>ت</u>	OEt OEt	മ്	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Вr	Br	Br	Br	B	Β̈́	ОМе	ğ	Br	ਠ
R <sup>6</sup>	Br	Br	Br	Br	ت ت	Br	Ü	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Br	ä	ъ́в	Br	Br	Br	Β̈́	ਹ	B	Br	ਹ
R <sup>5</sup>	I	Ξ	I	I	ェ	I	I	I	I	I	ェ	I	I	Н	н	Ξ	I	I	I	エ	王	I	I	I	Ξ
₽.	I	Š Š	I		Ŧ		ğ	ェ	π	Ŧ	I	I	I	I	I	н	π	I	I	I	I	Ŧ	I	I	Ι
R³	Н	H	Ŧ	Ŧ	Ŧ	Н	н	I	Τ	I	I	I	r	I	I	н	I	±	Ŧ	I	Н	H	H	ı	I
F				_		-		-	/	<u> </u>	/				/	/				-		_	\		
R <sup>2</sup>	CF,0	Š	NO <sub>2</sub>	ェ	NO2	ェ	I	NO <sub>2</sub>	4,		Ş				ā., ,	S	$\langle \rangle$	ر در	_	_	ă	മ്	<u></u>	5	
۳,	I	I	I	ェ	Н	Ξ	Ξ	I	I	I	I	I	I	I	I	Ξ	I	I	I	ェ	I	T	Ξ	Ξ	王
#	61	62	83	64	65	99	29	68	69	70	71	72	73	74	75	92	22	78	79	80	81	82	83	84	85

c	
ç	
~	
-	
ď	
ĺ	
ç	
C	
c	
c	1
₩	Ş
빞	2

ó			
	d	1	
	5	2	
9			

							-[							
동	ᆼ	ЮН	ОН	НО	ОН	동	동	동	공	동	HO	OH.	HO	동
ă	ā	ច	ច	Вĭ	NO <sub>2</sub>	NO <sub>2</sub>	ä	บิ	ರ	Br	Br	Вг	Br	à
ă	ă	ਹ	ਹ	Br	NO <sub>2</sub>	NO <sub>2</sub>	Br	ū	CI	Br	Br	Br	Br	Br
I	I	π	I	Ι	н	I	I	I	I	I	I	H	н	н
ェ	Ξ	工	I	н	π	I	I	н	Ŧ	Н	н	Ξ	Ξ	Ŧ
I	т	I	I	I	I	r	I	9.	I	r	ı	I	I	н
	HN	Z Z	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	N I	#3C	I	ż	Н	N.H.	NH <sub>2</sub> )-S-	Activ	o√N²+	z X	*\\$
Н	н	I	I	I	I	I	- - - - - -		x	)       	r	I	I	I
125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
	H H	H H H H H H H H H H H H H H H H H H H				H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	H H H H H H NO <sub>2</sub>	日	H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	H H H H H B B B B B B B B B B B B B B B	H H H H C C C C C C C C C C C C C C C C	H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	H H H H H H H H H H H H H H H H H H H

ጜ	<i>大</i> て ○≒ ○≒	R	ЮН	ОН	ОН	ОН	ЮН	ОН	ОН	ОН	ОН	م م آ	ОН	ОН	HS HS	ЭН	HO H	ОН	꽁
R,	Br	Br	Br	Br	Br	OEt	Br	Br	1	ت ت	CI	Br	Br	Br	Br	Br	Br	B.	·ū
Re	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Br		CI	cı	Br	Br	Br	Br	Br	Br	Br	-CI
R <sub>5</sub>	Ŧ	×	x	I	I	H	н	Ι	I	ī	I	I	Н	н	н	Н	Н	н	ı
<b>™</b>	I	Н	I	F	I	I	н	I	Ŧ	I	Ξ	I	I	I	Н	Ξ	I	I	Ι
R3	I	Ŧ	I	I	Н	I	Ö		I	I	I	I	÷	I	I	I	I	δ	I
R <sup>2</sup>	ū		5 5 8	I	i,	<u>}</u> _	I	I	X-	0,0,0	0, 7, 4, 0, 8, N	~X,	-N(Ac)CH2CH2-	-CH=CH-CH=N-	Ĭ	ż	CF,CO	I	
<u>-</u>		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	r	O-HO-	Ī	S-CH=N-	I	I	I
#	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124

∞
2
2
4
_
S
- 1
2
0
0
2
表
业

<u>_</u>
È
_

	<u></u>	·				
R <sup>8</sup>	ᆼ	НО	픙	용	o Y o	но
'n,	Br	ច	Br	Br	Br	Br
Re	Br	ਹ	Br	Br	В	Br
æ.	π	I	I	Н	I	I
<u>ب</u>	Ŧ	Ξ	I	H	I	I
R³	I	I	I	工	I	T
R²	NHCH3	NHCH3	Z, X, Ž, X,	H <sub>3</sub> CN.N N+ N+	S. S. J.	O N.
Ξ.	I	I	I	I	Ι	I
-14	6	141	42	43	44	45

7	
4	
*	

	R 8	픙	НО	НО	
Į	٦,	ă	ğ	ğ	
I					
	π,	ă	Br	В	
I	Z,	I	π	T	
	π,	I	I	H	
	R <sub>3</sub>	I	I	I	
	R²	(HO15CH2ChN-2; }.	T	N <sub>2</sub> (cH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub> N	
	R	İ	エ	Ŧ	
		7.5	52	83	

表1C

_												
R <sub>B</sub>	, ()	ر م الم	<sup>ب</sup> م <sup>ہ</sup> ہ'	<u>,</u>	<u>۲</u> ~~	,, ,,,,	~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	% <sup>1</sup> ,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0		^هگهنز	ЮН	НО
R7	B	ă	Br	ă	Br	占	g.	й	B	西	B	Br
R <sup>6</sup>	B	Br	Br	Br	Br	Br	Br	В	Br	Βr	Br	Br
R5	I _	Н	Н	Ι	H	Н	н	Н	π	н	Н	I
π,	I	Ι	н	I	I	H	н	I	I	I	Ŧ	I
R³	I	I	I	I	I	I	工	I	I	I	I	I
R <sup>2</sup>	ច	ō	ซ	ō	ū	_		_	_	5	СО2Н	IZ =0
<u>x</u>	ェ	Ξ	I	I	エ	I	I	I	н	x	Ι	I
	46	47	48	49	20	51	52	53	54	55	56	851

L									
<del>-</del>	176	π	工	-CH=CH <sub>2</sub> H	Ξ	Ξ	Ä.	ā ·	용
<u> </u>	1771	н	CO <sub>2</sub> Me	Ξ	エ	I	Br	Br	A
<del></del>	178	I	NO 74	I	I	I	Br	ğ	용
<del>'-</del>	179	н	I	CN	I	I	8r	Br	ЭН
1	180	. н	-1 <sup>-1</sup> -1 <sup>-1</sup> -1	I	н	Н	Br	Br	H
=	181	Ξ	II N	I	π	н	Br	Br	НО

	<del></del>			1		,	<del>,</del>	,	,	,				
동	ᆼ	동	o <sup>2,z</sup> Meg	퓽	동	O YOU	동	동	공	용	용	Ю	НО	НО
à	占	à	ğ	Br	ă	ă	B	Br	Br	Br	ъ	- Bi	ä	Br
B	Br	В	В	Br	Br	Br	B.	Вг	Br	Br	ъ́в	Br	ä	Br
I	Ξ	I	I	H	I	н	I	Н	I	I	I	I	I	н
I	I	I	I	I	H	т	Έ	Ŧ	Ξ	Ξ	I	Ξ	π	Ξ
ī	I	I	I		, , ,	-	-	_	_					
	•			エ	Н	I	I	I	Ξ	エ	I	Ξ.	I	エ
H <sub>3</sub> C \rightarrow H <sub>3</sub> C \rightarrow A'A'	10 XXV	<u>Y</u>	-SO <sub>2</sub> NH <sub>2</sub>	-CH=CH-C(Mc)=N	NH <sub>2</sub>	Š	0=\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	<u> </u>	~	Ç.	OT NI	-z,	CH <sub>3</sub> SO <sub>2</sub> -	Hyno,S.
I	I	I	I	CH=C	Н	I	T.	I	I	I	I	Ξ	I	×
159	160	161	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175

(75)

#	化学名
7	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1Hーインドールー5ーカルボニトリル
2	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5-
	(2-メチルーチアゾール-4-イル) - 1, 3-ジヒドローインド
	ール-2-オン
3	3- (3-ブロモ-5-エトキシ-4-ヒドロキシーベンジリデン)
	-5- (2-メチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドロ-
	インドールー2ーオン
4	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-
	(2-メチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインド
	<i>−ル−</i> 2−オン
2	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5-
	(3-メチル-ブタノイル) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-
	オン
9	5ーベンゾイルー3- (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジ
	リデン) - 1, 3 - ジヒドローインドール-2-オン
7	5-ベンゾイルー3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシ-ベンジ
	リデン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
8	5ーベンゾイルー3- (3-プロモー5-エトキシー4-ヒドロキシ
	- ペンジリヂン) - 1, 3 - ジヒドロ-インドール-2-オン

10 3- ( 10 3- ( 11 3- ( 12 3- ( 12 3- ( 12 3- ( 13 3- ( 13 3- ( 13 3- ( 13 3- ( 14) ( 15 3- ( 16) ( 17 3- ( 18) ( 18) ( 18) ( 19) (	1- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (3 -メチループタノイル) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン 1- (3-ブロモー5-エトキシ 4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (3-メチループタノイル) -1, 3-ジヒドローインドールー !-オン 1- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5- (ピリジン-3-カルボニル) -1, 3-ジヒドローインドール-2
	とドローインドールー2ー - ヒドロキシーペンジリチ , 3 − ジヒドローインドー キシーベンジリデン) − 5 3 − ジヒドローインドート 3 − ジヒドローインドール
3 2 8	! # m
3 2 1	, H m
	オン (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5- リジン-3-カルボニル) -1, 3-ジヒドローインドール-2
6 1 8 1 8	(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-1)ジン-3-カルボニル) -1, 3-ジヒドローインドール-2
2 6	リジン-3-カルボニル)-1,3-ジヒドロ-インドール-2
2 6	
8 8	ý
r r	(3, 5ージクロロー4ーヒドロキシーベンジリデン) -5-
m 1	(ピリジン 3 カルボニル) 1,3 ジヒドロ インド・ル・2
က	ý
<u>7</u> 4	- (3, 5ージブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-
† 	(ピリジン-4-カルボニル) - 1, 3ージヒドローインドール-2
~	4.7
14 3-	(3ープロモー5ーエトキシー4ーヒドロキシーベンジリデン)
<u>ا</u> 3	(ピリジン-4-カルボニル) -1, 3-ジヒドロ-インドール
- 2 -	レギン
15 3-	(3, 5ージクロロー4ーヒドロキシーベンジリデン) ー5ー
 ਤੁੰ	(ピリジン-4-カルボニル) $-1$ , $3-ジヒドロ-インドール-2$
	Ŷ

## 表2A (続き)

#	化学名
16	3- (3-ブロモ-5-エトキシ-4-ヒドロキシーベンジリデン)
	-5 (ピリジン-3-カルボニル) -1, 3-ジヒドロ-インドール
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
1.7	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (オ
	キサゾールー5ーイル)-1,3-ジヒドローインドール-2-オン
1 8	3- (3, 4-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ペンジリデン) -5 (オ
	キサゾールー5ーイル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
1 9	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -5 (2
	-エチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドロ-インドール
	- 2 - オン
2 0	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3-ジヒドロ-1 H-インドール-5-カルボン酸メチル
	エステル
2 1	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (フ
	ラン-2-カルボニル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
2 2	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -5 (フ
	ラン-2-カルボニル)-1,3-ジヒドロ-インド-ル-2-オン
2 3	3- (3-プロモ-5-エトキシ-4-ヒドロキシーベンジリデン)
	5 (フラン-2-カルボニル) -1,3-ジヒドローインドールー
	2-オン
2 4	5ーシクロプロバンカルボニル-3-(3,5-ジプロモ-4-ヒド
	ロキシベンジリデン) - 1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

#	化学名
2.5	5ーアミノメチルー3- (3, 5ージプロモー4ーヒドロキシーベン
	ジリヂン)-1,3-ジヒドロ-インドール-2-オン
2 6	5ーシクルペンタンカルボニルー3- (3, 5ージプロモー4-ヒド
i	ロキシーベンジリデン) -1, 3-インドール-2-オン
2.7	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -2-オ
	キソー2,3-ジヒドロ-1H-インドール-5-カルボン酸メチル
	エステル
2 8	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -1, 3
	-ジヒドローインドール-2-オン
5 9	3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) $-5-(f)$
	オフェン-2-カルボニル)-1,3-ジヒドロ-インドール-2-
	i) to
3.0	5- (2-アミノーチアゾール-4-イル) -3- (3, 5-ジブロ
	モー4ーヒドロキシーベンジリデン) -1, 3ージヒドローインドー
	ルー2-オン
3 1	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (イ
	ミダゾ[1, 2a]ピリジン-2ーイル) -1, 3ージヒドローインド
	ール-2-オン
3.2	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) - 5-ブ
	ロピオニルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
3 3	3- (3, 5-ジブロモー4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1Hーインドールー5ースルホン酸アミド

(80)

特表2002-514228

(79)

# 表2A (続き)

#	化学名
3.4	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1H-インドールー5-スルホン酸N, N
	ージエチルアミド
3 5	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5 (ビ
	ロリジン-1-スルホニル)-1,3-ジヒドロ-インドール-2-
	ン本
3.6	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1Hーインドールー5ースルホン酸(Nー
	2ージメチルアミノエチル)-N-メチル-アミド
3.7	3 (3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)ー5-(イ
	ソオキサゾール-5-カルボニル)-1,3-ジヒドローインドール
	-2-ギン
3 8	5-クロロー3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) - 1, 3ージヒドローインドール-2-オン
3 9	5-クロロー3-(3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) -1. 3ージヒドローインドール-2ーオン
4 0	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ト
	リフルオロメトキシー1,3-ジヒドローインドール-2-オン
4 1	5-ブロモー3-(3,5-ジクロロー4-ヒドロキシベンジリデン)
	-1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン

#	化学名
4.2	3- (3-ブロモ-5-エトキシ-4-ヒドロキシーペンジリデン)
	-5-ヨード-1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
4 3	3- (3-プロモ-4-ヒドロキシ-5-メトキシーペンジリデン)
	-5-ヨード-1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
4 4	5-プロモー3-(3, 5-ジヨード-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
4 5	3- (3, 5-ジョード-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ト
	リフルオロメトキシー1,3-ジヒドローインドール-2-オン
46	3- (3-ブロモ-4-ヒドロキシ-5-メトキシーベンジリデン)
	- 1, 3 - ジヒドローインドール- 2 - オン
4.7	3- (3, 5-ジニトロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -1, 3
	ージヒドローインドールー2ーオン
4 8	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -1,3
	-ジヒドロ-インド-ル-2-オン
4.9	3- (3-クロロ-4-ヒドロキシ-5-メトキシーベンジリデン)
	- 1, 3ージヒドローインドール-2ーオン
5.0	3- (3, 5-ジヨード-4-ヒドロキシーペンジリデン) -1, 3
	ージヒドローインドール-2-オン
5 1	3- (3-プロモ-4-ヒドロキシ 5-メトキシーベンジリデン)
	- 5 - クロロー1, 3 - ジヒドローインドールー2 - オン
5 2	5-クロロー3- (3, 5-ジニトロー4-ヒドロキシーペンジリデ
	ン) - 1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン

(82)

### 表2A (続き)

#	化学名
5 3	5-クロロー3- (4-ヒドロキシー3-メトキシー5-ニトローベ
	ンジリデン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
5 4	5-クロロー3- (3-クロロ-4-ヒドロキシー5-メトキシーベ
	ンジリデン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
5 5	5-クロロー3-(3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
5 6	5-ブロモー3- (3-ブロモー5-エトキシー4-ヒドロキシーベ
	ンジリヂン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
5 7	5ープロモー3ー (3ープロモー4ーヒドロキシー5ーメトキシーベ
	ンジリデン) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
5.8	3- (3-プロモ-4-ヒドロキシ-5-メトキシ ペンジリデン)
	- 5, 6 - ジフルオロ- 1, 3 - ジヒドロ-インドール- 2 - オン
5 9	3- (3-プロモ-5-エトキシー4-ヒドロキシーベンジリデン)
	-5-トリフルオロメトキシ-1,3-ジヒドロ-インドール-2-
	イン
0 9	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ト
	リフルオロメトキシー1,3-ジヒドローインドールー2ーオン
6.1	3- (3-プロモ-4-ヒドロキシ-5-メトキシーペンジリデン)
	-5-トリフルオロメトキシ-1,3-ジヒドロ インド・ル 2
	4ン
2 9	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5, 7
·	ージニトロー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン

## 表2A (統き)

#	<b>小</b>
	は、八川田ので、オール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ر د د	3ー (3, 3ーソノロホー4ーのトロキソーヘノソンナノ) ー3ープ
	トロー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
6 4	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -7-コ
	ードー1, 3ージヒドローインドール-2-オン
6 5	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ニ
	トロー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
9 9	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -7-ヨ
	ードー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
6.7	7ープロモー3- (3, 5ージクロロー4ーヒドロキシーベンジリデ
	ン)1, 3ージヒドロ - インド- ルー2ーオン
8 9	3- (3-ブロモ-5-エトキシー4-ヒドロキシーベンジリデン)
	- 5-ニトロー1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
6 9	2- (N- {3-[3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベン
	ジリデン) -2-オキソ-2, 3-ジヒドロ.1H-インドールー5
	ーイル1-2-オキソーエチル} -Nーメチルーアミノ) -アセトア
	<u></u>
7 0	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(2
	-[(N-2-ヒドロキシーエチル) -N- (3-ヒドロキシープロピ
	ル) -アミノ]-アセチル} -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-
	<b>ハ</b> ヤ

(83)

# 表2A (続き)

#	化学名
7.1	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(3
	-メチルイミダゾール-1-イル-アセチル)-1,3-ジヒドロ-
	インドール-2-オン
7.2	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	ーチオモルホリン-4-イル) ーアセチル) -1, 3ージヒドロ-イ
	ンドールー2ーオン
7 3	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	ーモルホリン4ーイル) ーアセチル) -1, 3-ジヒドローインドー
	ルー2ーオン
7.4	5- {2-[ビス- (2-ヒドロキシーエチル) ーアミノ]ーアセチル}
	-3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-1,
	3ージヒドローインドールー2ーオン
7.5	3-(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-{2
	-[N- (2-ヒドロキシーエチル) -N-メチルーアミノ]ーアセチ
	${\it N}$ $-1$ , ${\it 3}$ $-$ ジヒドローインドー ${\it N}$ $ {\it 2}$ $-$ オン
9 2	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	- (チアゾリジン-3-イル) -アセチル) -1, 3-ジヒドロ-イ
	ンドールー2ーオン
2.2	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(2
	- (N- (2-ピリジニウム-アセチル) -1, 3-ジヒドローイン
	ドール-2-オンクロリド

#	化学名
7 8	5-{2-[バーベンジルーN- (2-ヒドロキシーアセチル) ーアミ
	ノ]ーエチル} -3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジ
	リデン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
6 2	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ヨ
	ードー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
8 0	2, 2-ジメチループロピオン酸2, 6ージプロモー4- (5-ヨー
	ドー2ーオキソー1, 3ージヒドローインドールー3ーイリデンメチ
	ル)-フェノキシメチルエステル
8 1	5-プロモー3-(3, 5-ジプロモー4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
8 2	5ープロモー3- (3-クロロー4-ヒドロキシー5 メトキシーベ
	ンジリデン) ー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
8 3	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	ージエチルアミノーアセチル) -1, 3-ジヒドローインドール-2
	ハヤー
8 4	5- (2-クロローアセチル) -3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒド
	ロキシーベンジリデン)- 1, 3ージヒドローインドールー2ーオ
	A
8 5	3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(2
	-ジエチルアミノーアセチル) -1,3-ジヒドローインドール-2
	ーオン

(86)

特表2002-514228

(82)

## 表2A (続き)

<b>+</b>	化学名
8 6	5- (2-クロローアセチル) -3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒド
	ロキシーベンジリデン) -7-ヨード-1, 3-ジヒドローインドー
	ルー2-オン
8.7	N-[ビス- (2-ヒドロキシーエチル) ]カルバミド酸2, 6ージブ
	ロモー4- (5-ヨード-2-オキソー1, 3-ジヒドローインドー
	ルー3ーイリデンメチル)フェニルエステル
8 8	5- (2-クロローアセチル) -3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒド
	ロキシーベンジリデンー1, 3ージヒドローインドール-2ーオン
8 9	5ーアセチルー3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリ
	デン) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
0.6	5-アセチルー3-(3, 5-ジクロロー4-ヒドロキシーベンジリ
	デン) -1, 3-ジヒドローインドールー2-オン
9.1	3-(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(3
	ーメトキシベンゾイル) -1,3-ジヒドローインドール-2-オン
9.2	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-フ
	ェニルー1, 3ージとドローインドールー2ーオン
9 3	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 5-フ
	ェニルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
9 4	3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	-エチルアミノ) $-4$ H $-$ チアゾール $-4$ $-$ イル) $-1$ , $3$ $-ジヒド$
	ローインドール-2-オン

#	化学名
9 5	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(4
	-ニトロベンゾイル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
9 6	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5 (3
	-ニトロベンゾイル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン
9.7	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-((ヒ
	ドロキシイミノ) -フェニルーメチル) -1, 3-ジヒドロ-インド
-	-ル-2-オン
8 6	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-プ
	ロピオニルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
6 6	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 2-
	オキソー2, 3-ジヒドロ-1H-インドール-5-スルホン酸アミ
<del></del> -	24.
1 0 0	3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(ピ
	ロリジン-1-スルホニル)-1,3-ジヒドロ-インドール-2-
	ゲケ
101	3- (4-ヒドロキシー3-メトキシー5-ニトローベンジリデン)
	-1,3-ジヒドローインドール-2-オン
102	3- (4-ヒドロキシー3-ヨードー5-メトキシーベンジリデン)
	- 1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

(88)

## 表2A (焼き)

#	化学名
103	2, 6ージプロモー4-[(5-クロロー2ーオキソー1, 2ージヒ
	ドロー3H-インドール-3-イリデン)メチル]フェニルアセテー
	4
104	3- (4-ヒドロキシ-3-メトキシー5-ニトローベンジリデン)
	-5-ヨード-1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
105	3- (3-クロロ-4, 5-ジヒドロキシーベンジリデン) -5-ニ
	トロー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
106	2, 6ージブロモー4-[(5-クロロ-2-オキソ.1, 2-ジヒド
	ロー3H-インドールー3ーイリデン)メチルJフェニルN, Nージ
	イソプロピルカルバメート
107	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5-(2
	ージメチルアミノーアセチル)-1, 3-ジヒドローインドール-2
	ーオン
108	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	-[N-エチル-N- (2-ヒドロキシーエチル) -アミノ]-アセチ
	ル) - 1, 3 - ジヒドローインドール-2-オン
109	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -7-フ
	ルオロー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
1 1 0	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5-[2
	- (4ーメチルピペラジン-1-イル) -アセチル]-1, 3-ジヒ
	ドローインドールー2ーオン (塩酸塩)

#	化学名
111	3- (3-プロモ-4-ヒドロキシ-5-エトキシーベンジリデン)
	-5- (2-ジメチルアミノーアセチル) -1, 3-ジヒドローイン
	ドール-2-オン
112	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -6-フ
	エニルー1.3-ジヒドローインドールー2ーオン
113	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -6-イ
	ソブロボキシー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン
114	5- (2-クロローアセチル) -3- (3, 5-ジヨード-4-ヒド
	ロキシベンジリヂン) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
115	3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 2-
	オキソー2, 3ージヒドロー1Hーインドールー5ースルホン酸ジエ
	チルアミド
116	3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(モ
	ルホリン-4-スルホニル)-1,3-ジヒドロ-インドール-2-
	オン
1.1.7	$N$ $ ジェチル$ $ 2$ , 6 $ ジプロモ$ $ 4$ $ 1$ $(5$ $ U$ $ ) >  3  \pi N$
	ポニル) -2-オキソ-1, 3-ジヒドロ-インドール-3-イリデ
-····	ンメチル]フェニルエステル
1 1 8	5ーアセチルー3ー (3, 5ージプロモー4ーヒドロキシーベンジリ
	デン) -3, 5, 6, 7-テトラヒドロー1H-ピロロ[2, 3-f]
	インドール-2-オン

(06)

119 1- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -1, 3 -ジヒドロ-ピロ[3, 2-f]キノリン-2-オン 120 3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -6, 8 -ジヒドロ-1, 3-ジとドローインドール-2-オン 121 8- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -6, 8 -ジヒドロ-1-チブ-3, 6-ジアザーアズーインデセン-7-オン ン ルオロメトキシー1, 3-ジヒドローインドール-2-オン 122 (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-ドリフ ルオロメトキシー1, 3-ジヒドローインドール-2-オン 123 6-ブロモ-3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-(2 -フェニルーチアゾール-4ーイル) -1, 3-ジヒドローインドー ルー2ーオン 126 3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-(2 -フェニルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインドー ルー2ーオン 126 3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-(2 -フェニルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインドー ルー2ーオン 126 3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-(2 -フェニルアミノーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドロ-イ ンドール-2-オン	#	化学名
20 3 - (3, 5-ジプロモ-4ーとドロキシーペンジリデン) - 5- デルー1, 3ージとドローインドールー2ーオン キルー1, 3ージとドローインドールー2ーオン 8 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 6, ージとドロー1ーチブー3, 6ージアザーアズーインデセンー7ーン (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5ートリ ルオロメトキシー1, 3ージとドローインドールー2ーオン 23 6ープロモー3 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5ートリ ン) - 1, 3ージとドローインドールー2ーオン 24 3 - (3, 5ージプロロー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5-( ーフエニルーチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージとドローインド ルー2ーオン 25 3 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5-( ーフエニルーチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージとドローインド ルー2ーオン 26 3 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5-( ーフエニルチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージとドローインド ルー2ーオン 26 3 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) - 5-( ーフエニルアミノーチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージとドロー	→	- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-1,
20 3 - (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) - 5- デルー1, 3ージとドローインドール-2ーオン 8 - (3, 5ージブロモ-4ーヒドロキシーペンジリデン) - 6, ージヒドロー1ーチブー3, 6ージアザーアズーインデセンー7ーン 22 (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ートリ ルオロメトキシー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン 23 6ーブロモー3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ー( ーフェニルーチブゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドローインド ルー2ーオン 25 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ー( ーフェニルーチブゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドローインド ルー2ーオン 26 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ー( ーフェニルーチブゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドローインド ルー2ーオン 26 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ー( ーフェニルーチブゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドローインド ルー2ーオン 26 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5ー( ーフェニルアミノーチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドロー		ジヒドローピロロ[3, 2-f]キノリン-2-
21 8 - (3, 5 - ジブロモー4 - ヒドロキシーペンジリデン) ジビドロ-1 - ヂブー3, 6 - ジアザーアズーインデセンーン パージヒドロ-1 - ヂブー3, 6 - ジアザーアズーインデセンーン パーボロメトキシー1, 3 - ジビドローインドール-2 - オン (3, 5 - ジブロモー4 - ヒドロキシーペンジリデン) - 5 - シブロモー3 - (3, 5 - ジブロロー4 - ヒドロキシーペンジリデン) - 5 - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローインドールー2 - オン ルー2 - オン ルー2 - オン カースニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローイル - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローイル - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローイル - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローイル - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドローイル - フェニルアミノーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドコースンドールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドコースニルアミノーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 - ジヒドコースニルフミノーキン	2	- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -
21 8 - (3, 5-ジプロモー4ーとドロキシーペンジリデン)ジとドロ-1ーチア-3, 6-ジアザーアズーインデセン- ン (3, 5-ジプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5- ルオロメトキシー1, 3-ジとドローインドール-2ーオン 23 6-プロモー3-(3, 5-ジプロモー4ーとドロキシーペン ン) -1, 3-ジとドローインドール-2ーオン ン) -1, 3-ジとドローインドール-2ーオン ルー2ーオン カー2ーオン カー2ーオン カー2ーオン フエニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン カー2ーオン フエニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン フエニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン フエニルチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローインニニルアミノーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとド		- 1, 3ージヒドローインドール-2-
-ジヒドロ-1-チア-3, 6-ジアザーアズーインデセン-ンン322 (3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -5-ルオロメトキシー1,3-ジヒドローインドール-2-オンンコー1,3-ジヒドローインドール-2-オンン) -1,3-ジヒドローインドール-2-オンン) -1,3-ジヒドローインドール-2-オンコーストニルーチアゾール-4-イル) -1,3-ジヒドローイル・フェニルーチアゾール-4-イル) -1,3-ジヒドローイル・コンコースシリデン) -5-フェニルーチアゾール-4-イル) -1,3-ジヒドローイル-2-オンコースコーンエニルチアゾール-4-イル) -1,3-ジヒドコーイル -2-オンコースコーンエニルアミノーチアゾール-4-イル) -1,3-ジヒドコドルー2-オンコースコーンエニルフェー	2	- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -6,
22 (3, 5-ジブロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5- ルオロメトキシー1, 3-ジとドローインドール-2ーオン 23 6-ブロモー3- (3, 5-ジブロモー4ーとドロキシーペン ン) -1, 3-ジとドローインドール-2ーオン 24 3- (3, 5-ジグロロー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 -フェニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3-ジとドローイ ルー2ーオン 25 3- (3, 5-ジブロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 -フェニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3-ジとドローイ ルー2ーオン 26 3- (3, 5-ジブロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 -フェニルアミノーチアゾールー4ーイル) -1, 3-ジとドローイ ルー2ーオン 26 3- (3, 5-ジブロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 -フェニルアミノーチアゾールー4ーイル) -1, 3-ジとド ンドールー2ーオン		-ジヒドロ-1-チア-3, 6-ジアザーアズ-インデセン-7-オ
22 (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5- ルオロメトキシー1, 3ージとドローインドールー2ーオン 23 6ープロモー3 - (3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペン ン) -1, 3ージとドローインドールー2ーオン 24 3-(3, 5ージクロロー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 ーフエニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン 25 3-(3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 ーフエニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン ルー2ーオン カー2ーオン カー2ーオン カー2ーオン カー2ーオン フェニルーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ ルー2ーオン カー3・ジブロモー4ーとドロキシーペンジリデン) -5 ーフエニルチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとドローイ フェニルアミノーチアゾールー4ーイル) -1, 3ージとド		۸
23 6 - プロモー3 - (3, 5 - ジプロモー4 - ヒン) - 1, 3 - ジとドローインドールー2 - オ 24 3 - (3, 5 - ジプロロー4 - ヒドロキジーペン - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 ルー2 - オン 3 - (3, 5 - ジプロモー4 - ヒドロキジーペン - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 ルー2 - オン 3 - (3, 5 - ジプロモー4 - ヒドロキジーペン - フェニルーチアゾールー4 - イル) - 1, 3 ルー2 - オン 2 6 3 - (3, 5 - ジプロモー4 - ヒドロキジーペン - フェニルアミノーチアゾールー4 - イル) - ンドールー2 - オン	2	5ージブロモー4ーヒドロキシーベンジリデン) -5
23 6-70=6-3- (3, 5-370=6-4-8 2) -1, 3-32 k l l l l l l l l l l l l l l l l l l		3 -
24 3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシーペンジリデン) - 5 -フェニルーチアゾール-4-イル) - 1,3-ジヒドロ-イ ル-2-オン 25 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) - 5 -フェニルーチアゾール-4-イル) - 1,3-ジヒドローイ ル-2-オン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) - 5 -フェニルーチアゾール-4-イル) - 1,3-ジヒドローイ ル-2-オン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) - 5 -フェニルアミノーチアゾール-4-イル) - 1,3-ジヒド ンドール-2-オン	2	-プロモー3- (3, 5ージプロモー4
24 3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5 -フェニルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドロ-イ ル-2-オン 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5 -フェニルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドローイ ル-2-オン ル-2-オン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5 -フェニルアミノーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒド ンドール-2-オン		-1,3-ジヒドロ-インドール-2
- フェニルーチアゾールー4ーイル) - 1, 3ージヒドローイル 2 - オン 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5 - フェニルーチアゾールー4ーイル) - 1. 3ージヒドローイル ルー2ーオン 3 - (3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) - 5 - フェニルアミノーチアゾールー4ーイル) - 1. 3ージヒド ンドールー2ーオン	2	- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 5-
25 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5 -フェニルーチアゾール-4-イル)-1.3-ジヒドローイ ル-2-オン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5 -フェニルアミノーチアゾール-4-イル)-1.3-ジヒド ンドール-2-オン		ーフェニルーチアゾールー4ーイル)-1, 3~ジヒドローインドー
25 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーヘンジリデン)-5 -フェニルーチアゾール-4-イル)-1.3-ジヒドロ-イ ル-2-オン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5 -フェニルアミノーチアゾール-4-イル)-1.3-ジヒド ンドール-2-オン		- 2
2 6	2	- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 5
ルー2ーオン 26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5- -フェニルアミノーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドロ ンドール-2-オン		-フェニル-チアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドロ-インドー
26 3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5- -フェニルアミノーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドロ- ンドール-2-オン		Ø
-フェニルアミノーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン	7	- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 5-
ンドールー2ーオン		7
		ンドールー2ーオン

#	化学名
127	3-(3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-5-(2
	-フェニルアミノーチアゾール-4ーイル)-1,3-ジヒドローイ
	ンドールー2-オン
128	3-(3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(3
	-チオキソー2, 3, 4, 5-テトラヒドロー[1, 2, 4]-トリア
	ジン-6-イル) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
129	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(3
	ーチオキソー2, 3, 4, 5ーテトラヒドロー[1, 2, 4]ートリア
	ジン-6-イル) -1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
130	3- (3, 5-ジニトロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) - 5-
	(2-メチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインド
	<b>-ル-2-オン</b>
131	3- (3, 5-ジニトロ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -1, 3
	-ジヒドロ-インドール-2-オン
132	8- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -6,8
	ージヒドロー3H-1, 2, 3, 6ーテトラアザーアズーインデセン
	ーィーオン
133	6-プロモー3- (3, 5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) 1, 3 ジヒドロ インドール-2-オン
134	5- (2-アミノーチアゾール-4-イル) -3- (3, 5-ジクロ
	ロー4ーヒドロキシーベンジリデン) -1, 3ージヒドローインドー
	ルー2ーオン

(95)

## 表2A (続き)

#	化学名
135	2-アミノ-8- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデ
	ン) -6,8-ジヒドロ-1-チア-3,6-ジアザーアズ-インデ
	セン・フェン
136	5- (N-アセチル-2-アミノーチアゾール-4-イル) -3-
	(3, 5ージブロモー4ーヒドロキシーベンジリデン) -1, 3ージ
	ヒドローインドール-2-オン
137	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1H-インドールー5-カルボン酸アミド
138	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) -5-ピ
	リドー3-イル-1, 3-ジヒドロ-インドール-2-オン
139	3- (3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン) -5-チ
	オフェンー3ーイルー1,3-ジヒドローインドールー2ーオン
140	3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(2
	-メチルアミノーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローイン
	ドールー2-オン
141	3- (3, 5-クロロ-4-とドロキシーベンジリデン) -5- (2
	-メチルアミノーチアゾール-4-イル) - 1, 3ージヒドローイン
	ドール-2-オン
142	3-(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン) - 5-(1
	Hーテトラゾール $-5$ ーイル $)$ $-1$ , $3$ ージヒドローインドール $-2$
	ーオン

#### 表2A (続き)

#	化学名
143	143 3-(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン) -5-(2
	ーメチルー2Hーテトラゾールー5ーイル)-1, 3-ジヒドローイ
	ンドールー2ーオン
144	N[ビス (2-ヒドロキシエチル)]-カルバミド酸2, 6ジプロモ
	-4-[5- (2-メチルーチアゾール-4-イル) -2-オキソー
	1, 2ージヒドローインドールー3ーイリデンメチル ーフェニルエ
	ステル
145	145 3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシ-ベンジリデン)-5-(5
	-(5-メチル-[1, 3, 4]-オキサジアゾールー2ーイル) -1,
	3ージヒドローインドール-2-オン

#### 聚2B

#	化学名
157	157 3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	N, N-ビス (2-ヒドロキシエチル) -2-オキソ-5-インドリ
	ンスルホンアミド
162	162 N ペンジルー3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル)
_	メチリデン]-2-オキソー5ーインドリンカルボキサミド
163	163 3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	5- (ジメチルアミノ) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

表2C

146 ペンジル2,6ージ 2ージとドロー3H カーボネート ヒドロー3Hーイン カーボネート 148 2,6ージプロモー ヒドロー3Hーイン カーボネート エドロー3Hーイン カーボネート ロジコルメテルカー ロジニルメチルカー ロジニルメチルカー ロジニルメチルカー ヒドロー3Hーイン ロジニルメチルカー ロジニルメチルカー ヒドロー3Hーイン ルビバレート 151 2,6ージプロモー ヒドロー3Hーイン ルビバレート ヒドロー3Hーイン ルビバレート ヒドロー3Hーイン ルビバレート ヒドロー3Hーイン ルビバレート ヒドロー3Hーイン ルビバレート ヒドロー3Hーイン	6 - ジブロモ-4 - ([ (5-クロロ-2-オキソ-1, -3H-インドール-3-イリデン) メチル フニニルロモ-4- ([ (5-クロロ-2-オキソ-1, 2-ジ
2 - 2 - 2 - 2 - 4 - 4 - 4 - 4 - 4 - 4 -	3 H ーインドールー 3 ーイリデン)メチルJフ モー4ー([(5 – クロロー 2 – オキソー 1,
カーボ	-4- ([ (5-クロロ-2-オキソ-1, 2-
2, 6 - 1 - 2, 6 - 1 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3	-4- ([ (5-クロロ-2-オキソ-1, 2-
4 8 8 2 6 4 4 8 8 2 6 4 4 8 8 2 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	
48 2、6 - 1 - 4 * 4 * 2 * 6 - 1 - 4 * 4 * 5 * 6 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	ーインドールー3ーイリデン)メチルJフェニルニチル
2, 6 - 19 2, 6	
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	ジブロモー4ー([(5-クロロ-2-オキソー1,2-ジ
チルカーボネート 19 2, 6 - ジブロモ ヒドロー3Hーイ リジニルメチルカ リジニルメチルカ 10 2, 6 - ジブロモ ヒドロー3Hーイ ルピバレート 51 2, 6 - ジブロモ ヒドロー3Hーイ ルピバレート 12, 6 - ジブロモ ヒドロー3Hーイ ルピバレート	3 H-インドール-3-イリデン)メチル]フェニルイソブ
19 2, 6 - ジブロモ E ドロー 3 H ー イ リジニルメチルカ 50 2, 6 - ジブロモ E ドロー 3 H ー イ ルビバレート 51 2, 6 - ジブロモ E ドロー 3 H ー イ ルフォリンカルボ	
<ul> <li>E F □ − 3 H − 4</li> <li>リジニルメチルカ</li> <li>5 0 2, 6 − ジブロモ</li> <li>E F □ − 3 H − 4</li> <li>ルビバレート</li> <li>5 1 2, 6 − ジブロモ</li> <li>E F □ − 3 H − 4</li> <li>ルフォリンカルボ</li> </ul>	ロモーイー ([ (5-クロロー2-オキソー1, 2-ジ
<ul> <li>リジニルメチルカ</li> <li>50 2, 6-ジプロモ</li> <li>ヒドロー3Hーイ</li> <li>ルビバレード</li> <li>51 2, 6-ジプロモ</li> <li>ヒドロー3Hーイ</li> <li>ルフォリンカルボ</li> </ul>	3 H-インドール-3-イリデン)メチル フェニル3-ピ
50 2, 6-ジブロモ ヒドロー3Hーイ ルピバレート 51 2, 6-ジブロモ ヒドロー3Hーイ ルフォリンカルボ	ルカーボネート
<ul> <li>E F □ − 3 H − 4</li> <li>ルピバレート</li> <li>5 1 2, 6 − ジブロモ</li> <li>E F □ − 3 H − 4</li> <li>ルフォリンカルボ</li> </ul>	ロモ-4- ([ (5-クロロ-2-オキソー1, 2-ジ
ルピバレート 5.1 2, 6ージブロモ ヒドロー3 Hーイ ルフォリンカルポ	3 H-インドール-3-イリデン)メチル フェノキシメチ
51 2, 6-ジブロモ ヒドロ-3H-イ ルフォリンカルポ	
3 Hーインカンボ	ロモー4- ([ (5-3-ド-2-オキソー1, 2-ジ
∴	ーインドールー3ーイリデン)メチル]フェニル4ーモ
	ンカルボキシレート
152 2, 6-ジブロモー	'ロモー4- ([ (5-ヨード-2-オキソー1, 2-ジ
ヒドロ-3H-イ	3 Hーインドールー3 ーイリデン)メチルJフェニルN ー[2
- (3-ヒドロキ	ロキシエトキシ)エチル]カルバメート

表2C (続き)

#	化学名
153	2, 6-ジブロモー4- ([ (5-ヨード-2-オキソー1, 2ージ
	ヒドロー3 Hーインドールー3 ーイリデン)メチルJフェニル4ーメ
	チルテトラヒドロー1 (2H) ーピラジンカルボキシレート
154	2, 6-ジブレモ-4- ([ (5-ヨード-2-オキソー1, 2ージ
	ヒドロー3 Hーインドールー3 ーイリデン)メチルJフェニルN, N
	ージエチルカルバメート
155	2, 6-ジプロモ-4- ([(5-グリコロイル-2-オキソ-1,
	2ージヒドロー3H-インドール-3-イリデン)メチル フェニル
	エチルカーボネート
156	3 (3, 5 ジブロモー4ーヒドロキシーペンジリデン) -2-オ
	キソー2, 3ージヒドロー1Hーインドールー5ーカルボン酸
158	N-3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデ
	ン) ]-2-オキソー2, 3-ジヒドロ-1H-インドール-5-イ
	ルベンズアミド
159	N-3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデ
	ン) ]-2-オキソー2, 3-ジヒドロー1H-インドールー5-イ
	ルベンズアミド
160	N-3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデ
	ン)]-2-オキソ-2, 3-ジヒドロ-1H-インドール-5-イ
	ルー2ーヒドロキシアセトアミド

(36)

## 表2C (続き)

#	化学名
161	3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン)]
	-2-オキソーN- (3-フェニルプロピル) -5-インドリンカル
	<b>法牛廿三</b> F
164	4-[5- (アミノスルホニル) -2-オキソー1, 2-ジヒドロ-
	3 Hーインドールー3ーイリデン]メチルー2, 6ージブロモフェニ
	ルN, Nージエチルカルバメート
165	1-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン)]
	-7-メチル-1, 3-ジヒドロ-2H-ビロロ[3, 2-f]キノリ
	ソー2-オン
166	2-アミノ-3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル)
	メチリデン)] 1, 3-ジヒドロ-2H-インドール-2-オン
167	4-[ (5-ベンソイル-2-オキソー1, 2-ジヒドロ-3H-イ
	ンドールー3ーイリデン)メチルJー2,6ージプロモフェニルN,
	N-ジエチルカルバメート
168	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデン]-
	N-[2- (ジメチルアミノ) エチル]-2-オキソー5-インドリン
	カルボキサミド
169	5-[(3, 5-ピス(トリフルオロメチル)フェニル]-3-[(3,
	5ージプロモー4ーヒドロキシフェニル)メチリデン] 1,3 ジ
	ヒドロー2H-インドール-2-オン
170	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデン]-
	5-(3-チエニル)-1,3-ジヒドローインドール-2-オン
	The control description of the control of the contr

### 表2C (続き)

#	化学名
171	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデン]-
	5-(2, 4-ジクロロフェニル) -1, 3-ジヒドローインドール
	-2-オン
172	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	N-(2-ヒドロキシエチル) -2-オキソー5-インドリンカルボ
	キサミド
173	3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデン]-
	$5 - [2 - (\Im \lambda \not= N \mathcal{T} \ni J) - 1, \ 3 - \not= \mathcal{T} \mathcal{I} - N - 4 - \mathcal{I} \mathcal{M}] - 1,$
	3ージヒドロー2H-インドール-2-オン
174	3-[(3, 5-ジブロモ・4 ヒドロキシフェニル) メチリデン]
	5-(メチルスルホニル)-1,3-ジヒドロ-2H-インドール-
	ンドーの
175	4-3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデ
	ン]-2-オキソー2, 3-ジヒドロー1H-インドールー5-イル
	ベンゼンスルホンアミド
176	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル)メチリデン]-
	6ーピニルー1, 3ージヒドロー2Hーインドールー2ーオン
177	メチル3-3-[(3, 5-ジブロモー4-ヒドロキシフェニル)メ
	チリデン]-2-オキソ-2,3-ジヒドロ-1H-インドール-5
	<b>-イル-2-チオフェンカルボキシレート</b>

(98)

#	化学名
1 7 8	2, 3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデ
	ン -2-オキソー2,3-ジヒドロー1H-インドールー5ーイル
	ペンゾニトリル
1 7 9	3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	2ーオキソー6ーインドリンカルボニトリル
180	3-[(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	5-[2-[3- (ジメチルアミノ) プロビル[アミノ-1, 3-チアソ
	ールー4ーイルJ-1,3-ジヒドロ-2H-インドール-2-オン
1 8 1	3-[(3, 5-ジブロモ-4-ヒドロキシフェニル) メチリデン]-
	2ーオキソーN- (4ーピリジニルメチル) - 1, 2ージヒドロー3
	<b>H-インドール-5-カルボキサミド</b>

「医薬上許容される塩」に包含される塩とは、遊離の塩基を好適な有機もしく は無機酸と反応させることによって、または酸を好適な有機もしくは無機塩基と 反応させることによって一般に製造される本等明の化合物の無害の塩をいう。代 表的な塩としては、以下の塩:酢酸塩、アルミニウム、ペンゼンスルホン酸塩、 、エデト酸カルシウム、カムシル酸塩、炭酸塩、塩化物、クロロプロガイン、コ リン、クラブラン酸塩、クエン酸塩、炭水ンジルエチレンジアミン、ジエタノー ルアミン、二塩酸塩、エデト酸塩、エジシル酸塩、メルコン酸塩、ゲルタミン、 酸塩、グリコリルアルサニル酸塩、ヘキシルレブルシン酸塩、ビドラバミン、臭

水蒸酸塩、塩酸塩、ヒドロキシナフトール酸塩、ヨウ化物、イセチオン酸塩、乳

क

数塩、リチウム、ラケトピオン酸塩、ラウリン酸塩、リンゴ酸塩、マレイン酸塩 、マグネシウム、マンデル酸塩、メシル酸塩、奥化メチル、硝酸メチル、硝酸メ チル、マレイン酸ーカリウム、ムチン酸塩、ナブシル酸塩、硝酸塩、Nーメチル グルカミン、ショウ酸塩、パモン酸塩、(エンボン酸塩)、パルミチン酸塩、パントテン酸塩、リン酸塩/ニリン酸塩、ボリガラケツロン酸塩、カリウム、ブロカイン、サリチル酸塩、ナトリウム、ステアリン酸塩、スパセト酸塩、コハク酸塩 、硫酸塩、スズ酸塩、酒石酸塩、テオケル酸塩、トツル酸塩、トリエタノールアミン、「硫酸塩、スズ酸塩、酒石酸塩、テオケル酸塩、トツル酸塩、トリエタノールアニン、トリエキオジド、トリメチルアンモニウムおよびパレル酸塩が維汚される 医薬上許容されない塩は式(1)の化合物の製造に有用である可能性もあり、 これらは本発明のさらなる態線をなす。本発明の範囲内にはまた、前配式(1) で表される化合物の個々の異性体ならびにそれらの完全または部分的平衡混合物 のいずれもが含まれる。本発明はまた、1以上のキラル中心が逆転しているそれ らの異性体との混合物として前配の式で表される化合物の個々の異性体も包含す 以下に定義される用語については、請求の範囲または本明細書の他所で異なる 定義が与えられていない限り、これらの定義が適用される。 本明細書において「脂肪族」とは、アルキル、アルキレン、アルケニル、アルケニケ、アットコーン、アルキニル、およびアルキニレンをいう。

本明細書において「低級」とは、1~6個の間の炭素を有する基をいう。 本明細書において「アルキル」とは、所望により低級アルキル、低級アルコキ

本明細書において「アルキル」とは、所望により低級アルキル、低級アルコキシ、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルイエル、オキソ、ヒドロキシ、メルカブト、所望によりアルキルで置換されていてもよいケミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカルバ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカルバ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカル・エトバモイル、所望によりアルキルで関換されていてもよいアミノスルホニル、ニト

ロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選択される電換基で置換されていてもよい、特定の数の炭素原子を有する直鎖または分枝鏃の炭化水素をいい、多重度の置換が許容される。本明細書において「アルキ

(188 (198

ル」の例としては、限定されるものではないが、ローブチル、ローペンチル、イ ソブチル、およびイソプロピルなどが挙げられる。また、本明細書において「ア ルキル」とは、一般に、下配に定義される「アルキレン」、「アルケニル」、「アル ケニレン」、「アルキニル」および「アルキニレン」をいう。

ルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換されて 本明細書において「アルキレン」とは、所望により低級アルキル、低級アルコ キシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルス いてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカ トロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選択 される置換基で置換されていてもよい、1~10個の炭素原子を有する直鎖また は分枝鎖の2価の炭化水紫基をいい、 多重度の置換が許容される。本明細書にお ける「アルキレン」の例としては、限定されるものではないが、メチレン、エチ ルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、 フンなどが挙げられる。 本明細書において「アルケニル」とは、所望により低級アルキル、低級アルコ キシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルス いてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカ トロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選択 ルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換されて される置換基で置換されていてもよい、2~10個の炭素と少なくとも1つの炭 ルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、 素一炭素二重結合を有する炭化水素基をいい、多重度の置換が許容される。 本明細書において「アルケニレン」とは、所望により低級アルキル、低級アル コキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキル スルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換され ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選 ていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよい カルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、

置換が酢容される。本明細書における「アルケニレン」の例としては、限定され 択される置換基で置換されていてもよい、2~10個の炭素原子と1以上の炭素 --炭素二重結合を有する直鎖または分枝鎖の2価の炭化水素基をいい、多重度の るものではないが、エテンー1, 2ージイル、プロペンー1, 3ージイル、メチ レンージイルなどが挙げられる。

キシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルス ルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換されて いてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよいカ トロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選択 される置換基で置換されていてもよい、2~10個の炭素と少なくとも1つの炭 本明細書において「アルキニル」とは、所望により低級アルキル、低級アルコ ルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、 素-炭素三重結合を有する炭化水素基をいい、 多重度の置換が許容される。

コキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキル スルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換され ていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよい 本明細書において「アルキニレン」とは、所望により低級アルキル、低級アル ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から選 カルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、

置換が酔容される。本明細魯における「アルキニレン」の例としては、限定され るものではないが、エチンー1,2ージイル、プロピンー1,3ージイルなどが **択される冒換基で置換されていてもよい、2~10個の炭素原子と1以上の炭素** --炭素三重結合を有する直鎖または分枝鎖の2価の炭化水素基をいい、多重度の 挙げられる。

ルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換さ れていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよ 本明細書において「シクロアルキル」とは、所望により低級アルキル、低級ア ルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキ

(102)

選択される置換基で置換されていてもよい、3~12個の炭素原子を有する1以 . ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群から ル、シクロヘキシル、シクロペプチル、またはシクロオクチルなどが挙げられる いカルバモイル、所望によりアルキルで冒換されていてもよいアミノスルホニル シクロアルキル」の例としては、シクロプロビル、シクロブチル、シクロペンチ 。また、本明細書において「アルキニレン」とは、一般に、以下に定義される「 シクロアルキレン」、「シクロアルケニル」、 および「シクロアルケニレン」をい 上の不飽和度を有する脂環式炭化水素基をいい、多重度の置換が酢容される。

本明細書において「シクロアルキレン」とは、所望により低級アルキル、低級 アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アル キルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換 よいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニ されていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていても 5選択される置換基で置換されていてもよい、3~12個の炭素原子を有する非 芳香族脂環式2価炭化水素基をいい、多重度の置換が酢容される。本明細書にお ル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群か

ルー1, 1ージイル、シクロプロピルー1, 2ージイル、シクロブチルー1, 2 ける「アルキニレン」の例としては、限定されるものではないが、シクロプロビ ージイル、シケロペンチルー1,3ージイル、シクロヘキシレー1,4ージイル 、シクロヘプチルー1, 4ージイル、またはシクロオクチルー1, 5ージイルな どが挙げられる。

キルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換 されていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていても よいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニ アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アル 本明細書において「シクロアルケニル」とは、所望により低級アルキル、低級 ル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群か

5選択される置換基で置換されていてもよい、3~12個の炭素原子および環系 ては、限定されるのもではないが、1-シクロペンテン-3-イル、1-シクロ 中に少なくとも1つの炭素-炭素二重結合を有する冒換脂環式炭化水素基をいい 多重度の置換が許容される。本明細書における「シクロアルケニル」の例とし ヘキセンー 3 ーイル、1 ーシクロヘプアンー 4 ーイルなどが挙げられる。 本明細書において「シケロアルケニレン」とは、所望により低級アルキル、低 殺アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級ア ルキルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置 もよいカルバモイル、所望によりアルキルで髑練されていてもよいアミノスルホ ニル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、または低級ペルフルオロアルキルからなる群 系中に少なくとも1つの炭素-炭素二重結合を有する置換脂環式2価炭化水素基 をいい、 多重度の置換が酢容される。本明細書における「シクロアルケニル」の 換されていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていて から選択される冒換基で置換されていてもよい、3~12個の炭素原子および環

例としては、限定されるものではないが、4, 5ーシクロペンテンー1, 3ージ イル、3, 4ーシクロヘキセンー1, 1ージイルなどが挙げられる。 本明細書において「複素環式」または「複素環」とは、所望により低級アルキ 低級アルキルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキ ルで置換されていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換され スルホニル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、低級ペルフルオロアルキル、または本 択される1以上のヘテロ原子置換を含有する1以上の不飽和度を有する3~12 員の複素環をいい、多重度の置換が許容される。かかる環は所望により1以上の 別の「複素」環またはシクロアルキル環と縮合していてもよい。本明細書におけ 明細書および請求の範囲を通じて確認されるその他のものからなる群から選択さ る「複素環式」の例としては、限定されるものではないが、テトラとドロフラン れる<mark></mark>置換基で置換されていてもよい、 S、 S O、 S O2、 O、もしくはNから選 ル、低級アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、 ていてもよいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノ

(104)

特表2002-514228

、ビラン、1, 4ージオキサン、1, 3ージオキサン、ピペリジン、ピロリジン、モルホリン、テトラヒドロチオピラン、テトラヒドロチオフェンなどが挙げられる。かかる環のさらに包括的な一覧は発明の概要に示されている。「複素環式」とはまた一般に、以下に定義される「ヘテロシクリレン」をいう。

本明細書において「ヘテロシクリレン」とは、所望により低級アルキル、低級アルコトン、低級アルキレスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルイニル、オキン、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノ、カルボキシ、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスルホニル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、低級ペルフルオロアルキル、または本明細善および請求の範囲を通じて確認されるその他のものからなる群から選択される置換

基で置換されていてもよい、S、SO、SO2、O、もしくはNから選択される 1以上のヘテロ原子を含有する1以上の不飽和度を有する3~12員の複素環ジ ラジカルをいい、多重度の置換が評容される。かかる環は所望により1以上のペ ンゼン環と、または1以上の別の「複素」環もしくはシクロアルキル環と縮合し ていてもよい。「ヘテロシクリレン」の例としては、限定されるものではないが 、テトラとドロフラン-2、5ージイル、モルホリン-2、3ージイル、ピラン -2、4ージイル、1、4ージオキサン-2、3ージイル、1、3ージオキサン -2、4ージイル、セイリジン-2、4ージイル、ピペリジン-1、4ージイル 、ピロリジン-1、3ージイル、モルホリン-2、4ージイルなどが挙げられる 。かかる環のさらに包括的な一覧は発明の解要に示されている。

本明細書において「アリール」とは、所望により低級アルキル、低級アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルイニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカブト、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスいてもよいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノスいホニル、アシル、アロイル、ヘテロアロイル、アシルオキシ、アロイルオキシ、ヘデロアロイル、アシルオキシ、、ヘデロアロイルがオキシ、、ヘデロアロイル、アシルがエル、アシル、アフノ、ハロゲン、、ヘデロアロイルオキシ、、ヘデロイルオキシ、、ヘデロイルオキシ、、ヘデロイルがオキシ、、

低級ペルフルオロアルキル、ヘテロアリール、もしくはアリールからなる群から 選択される置換基で置換されていてもよい、ベンゼン環または1以上の所望によ り置換されていてもよいペンゼン環と縮合した所望により置換されていてもよい ペンゼン環系をいい、多重度の置換が許容される。アリールの例としては、限定 されるものではないが、フェニル、2ーナフチル、1ーナフチル、ピフェニルな どが挙げられる。 本明細書において「アリーレン」とは、所望により低級アルキル、低級アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルス

ルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノ、カルボキシ、テトラゾイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノ ていてもよいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよいアミノ スルホニル、アシル、アロイル、ヘテロアロイル、アシルオキシ、アロイルオキシ、ヘテロアロイルオキシ、アロイルは、コトロ、シアノ、ハロゲン、低級ペルフルオロアルキン、アルコキシカルボニル、ニトロ、シアノ、ハロゲン、低級ペルフルオロアルキル、ヘテロアリール、もしくはアリールからなる群から選択される置換差で置換されていてもよい、ペンゼン環にラジカルまたは1以上の所望により置換されていてもよいペンゼン環を指合したペンゼン環系ジラジカルをいい、多重度の置換が許容される。「アリーレン」の例としては、限定されるものではないが、ペンゼンー1、4ージイル、ナフタレンー1、8ージイル、アントラセンー1、4ージイルをが挙げられる。 本明細書において「ヘテロアリール」とは、所望により係級アルキル、低級アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルキルスルフェニル、低級アルオートスルス・アール、低級アルオールスルス・アール・低級アルオで電換されていてもよいアミノ、カルボキシ、テトラソイル、所望によりアルキルで電換されていてもよいアミノスルボイル、所望によりアルキルで電換されていてもよいアミノスルボニル、アシル、アロイル、オキシ、ヘテロアロイル、アシルオキシ、アロイルオキシ、アロアル・、もしくは本明細書および構求の範囲を通じて確認されるその他のものからなる群から選択される電換基で置

換されていてもよい、5~7 貝の芳香環、または1つ以上の窒素、酸素、もしくは硫黄ヘテロ原子を合有する多環複素環式芳香環(ここで、Nー酸化物ならびに一酸化硫黄はよび二酸化硫黄はヘテロ芳香族圏換が軒容される)をいい、多重度の階換が軒容される。多環の芳香環系においては、1以上の環が1以上のヘテロ原子を含んでもよい。本規細書における「ヘテロアリール」の例としては、限定

されるものではないが、フラン、チオフェン、ピロール、イミダゾール、ピラゾール、トリアゾール、チトラゾール、チアゾール、オキサゾール、インキサゾール、オキサゾール、インキサゾール、オキサゾール、インキサゾール、オーリジン、ピリダジン、ピラジン、ピリミジン、キノリン、インキアゾール、ペンゾフラン、ベンゾチオフェン、インドール、およびインダゾールなどがある。かかる類のさらに包括的な一覧は発明の歴要に示されている。「ヘテロアリール」とはまた一般に、以下に定義される「ヘテロアリーレン」をいう。

キルスルホニル、オキソ、ヒドロキシ、メルカプト、所望によりアルキルで置換 されていてもよいアミノ、カルボキシ、テトラゾイル、所望によりアルキルで置 ルオキシ、ヘテロアロイルオキシ、アルコキシカルボニル、ニトロ、シアノ、ハ ロゲン、低級ペルフルオロアルキル、ヘテロアリール、もしくはアリールからな る群から選択される置換基で置換されていてもよい、5~1員の芳香環ジラジカ ジイル、チオフェンー2、4ージイル、1,3,4ーオキサジアゾールー2,5 ージイル、1,3,4ーチアジアゾールー2,5ージイル、1,3ーチアゾール 本明細書において「ヘテロアリーレン」とは、所望により低級アルキル、低級 アルコキシ、低級アルキルスルファニル、低級アルキルスルフェニル、低級アル 換されていてもよいカルバモイル、所望によりアルキルで置換されていてもよい アミノスルホニル、アシル、アロイル、ヘテロアロイル、アシルオキシ、アロイ ル、または1以上の窒素、酸素、もしくは硫黄ヘテロ原子を含有する多環の複素 環式芳香環ジラジカル(ここで、Nー酸化物ならびに一酸化硫黄および二酸化硫 黄はヘテロ芳香族置換が酔容される)をいい、多重度の置換が酔容される。多環 の芳香環系ジラジカルにおいては、1以上の環が1以上のヘテロ原子を含んでも よい。本明細醬における「ヘテロアリーレン」の例としては、フランー2,5-

-2, 4-ジイル、1, 3-チアゾール-2, 5-ジイル、ビリジン-2, 4-ジイル、ビリジン-2, 3-ジイル、ビリジン-2, 5-ジイル、ビリミジン-

2, 4ージイル、キノリンー2, 3ージイルなどがある。

本明細書において「アルコキシ」とは、R。O-基(ここで、R。はアルキル、

アルケニルまたはアルキニルである)をいう。

本明知書において「アルキルスルファニル」とは、R。S-基(ここで、R。はアルキル、アルケニルまたはアルキニルである)をいう。

本明細書において「アルケニルスルファニル」とは、R。S-基(ここで、R。 はアルケニルまたはアルキニルである)をいう。

本明細書において「アルキルスルフェニル」とは、RaS(O)一基(とこで

、R。はアルキル、アルケニルまたはアルキニルである)をいう。

本明細書において「アルキルスルホニル」とは、R。SO2-墓(ここで、R。はアルキル、アルケニルまたはアルキニルである)をいう。

本明細書において「アシル」とは、 $R_*C$ (O)一基(ここで、 $R_*$ はアルキル、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル、シクロアルケニル、またはヘテロシクリルである)をいう。

本明細書において「アロイル」とは、R.C(O)-基(ここで、R.はアリー

ルである)をいう。

本明細着において「ヘテロアロイル」とは、K。C(0)一基(ここで、K。は

**ヘテロアリールである)をいう。** 

本明細書において「アルコキシカルボニル」とは、R.OC(O)一基(ここで、R.はアルキルである)をいう。

本明細書において「カルバメート」または「カルバモイル」とは、R.R.N.C(O) -基(ここで、R.およびR.は水素、アルキル、アリール、複素環またはへテロアリールである)をいう。

本明細書において「アルキルカルボニルオキシ」とは、R.C (0) 0一基( ここで、R.はアルキル、アルチニル、アルキニル、シクロアルキル、シクロア

ガ

ニル、または複素環である)をいう。

本明細書において「アロイルオキシ」とは、R。C(O)O一基(ここで、R。はアリールである)をいう。

本明細書において「ヘテロアロイルオキシ」とは、R.C (0) 0一基 (ここで、R.はヘテロアリールである) をいう。

本明細書において「所望により」とは、その後に記載される事象が起こっても起こらなくてもよいことを意味し、その事象が起こっているかまたは起こっていない双方の状態が含まれる。

本明細書において「置換された」とは、いわゆる置換基での置換をいい、多重 皮の置換が許容される。 本明細書において「含有する」とは、例えばーCH;~OーCH;~、 - CH; - SO: - CH;~、 - CH;~NH - CH;などを含む、O、S、SO、SO; N、もしくはNーアルキルのいずわか1以上を含む、前配で定義されたアルキル 、アルケニル、アルキニルまたはシクロアルキル置換基に沿ったいずれかの位置 での線上置換をいう。 本明細書において「溶媒和物」とは、溶質(本発明では式(1)の化合物)と 溶媒とによって形成される可変の化学豊齢の複合体をいう。本発明のためのかか る溶媒は溶質の生物学的活性を妨げない。溶媒の例としては水、エタノール、ま たは酢酸がある。 本明細書において「生加水分解性カルバメート」、「生加水分解性カルボネート」および「生加水分解性ウレイド」とは、a)類物質の生物学的活性を妨げないが、作用の特続、作用の開始などのようなin vivoにおけるその物質の有利な特性を与えるか、またはb)生物学的に不活性であるが、患者によってin vivoで生物学的に活性な物質に容易に変換するかのいずれかの薬剤物質(本発明においては一般式(1)の化合物)のそれぞれカルバメート、カルボネートまたはウレジャル、

う。この利点は、例えば、生加水分解性カルバメートは経口的に調から吸収されて血漿中で(1)に変換されることである。このようなものの多くの例が当技術

(108)

分野で公知であり、例としては低級アルキルアミン、置換エチレンジアミン、アミノ酸、ヒドロキシアルキルアミン、複繁環式およびヘテロ芳香族アミン、ボリエステルアミンなどのカルバメートが挙げられる。一般式(1) にあてはめられるかかる生加水分解性カルバメートの例は、以下の一般式(A):

こ示される。

生加水分解性カルバメートのその他の例としては、R・がOH部分であり、そのOHがカルバモイル複合体と結合して生加水分解性カルバメートとなり、ここでそのカルバモイル複合体がジエチルアミノカルボニル、Nー(2-ヒドロキシエチル)アミノカルボニル、4ーモルホリノカルボニルおよび4ーメチルー1ーピペラジニルカルボニルからなる群から違訳されるものが含まれる。

本明細書において「生加水分解性エステル」とは、a)銀物質の生物学的活性を妨げないが、作用の持続、作用の開始などのようなin vivoにおけるその物質の有利な特性を与えるか、またはb)生物学的に不活性であるが、患者によってin vivoで容易に生物学的に活性な物質に変換する薬剤物質(本明細書においては一般式 (1)の化合物)のエステルをいう。この利点は、例えば、生加水分解性エステルが経口的に歸から吸収されて血漿中で (1)に変換されることである

このようなものの多くの例が当技術分野で公知であり、例としては低級アルキルエステル、低級アシルオキシーアルキルエステル、低級アルコキシアシルオキシアアルキシアシルオキシアシルオキシエステル、アルキルアシルアミノアルキルエステル、およびコリンエステルが挙げられる。

(110)

特表2002-514228

(109)

育利な特性を与えるか、またはb)生物学的に不活性であるが、患者によってin ミドが海口的に腸から吸収されて血漿中で(1)に変換されることである。この K、αーアミノ酸アミド、アルコキシアシルアミド、およびアルキルアミノアル 本明細書において「生加水分解性アミド」とは、a)親物質の生物学的活性を ようなものの多くの例が当技術分野で公知であり、例としては低級アルキルアミ -般式(1)の化合物)のアミドをいう。その利点は、例えば、生加水分解性ア vivoで容易に生物学的に活性な物質に変換する薬剤物質(本明細書においては 妨げないが、作用の持続、作用の開始などのようなin vivoにおけるその物質の キルカルボニルアミドが挙げられる。

解性エステルおよび生加水分解性カルバメート、カルボネートおよびウレイドが 含まれ、a) かかるプロドラッグにおける生加水分解性官能基が式(1) の化合 物に包含される化合物、例えばR1であるカルボキシル基とR2であるアミンとに よって形成されたラクタム、およびb)所定の官能基で生物学的に酸化されまた は還元されて式(I)の薬剤物質を与える化合物もまた包含される。これらの官 能基の例としては、限定されるものではないが、1,4-ジヒドロピリジン、N ーアルキルカルボニルー1, 4ージヒドロピリジン、1, 4ーシクロヘキサジエ 本明細書における「プロドラッグ」には、生加水分解性アミドおよび生加水分 ン、セーブチルなどがある。

本明細書において「親和性試薬」とは、そのin vitroにおける生物学的活性に 影響を及ぼさずに化合物が標的と、さらにかかる基を第3の成分と強く結合させ ることを可能にする、式(1)の化合物と結合した基をいい、 a) おそらくは蛍 米

胴和性試薬の例としては、(1)と直接結合しているか、またはC、H、O、N なくとも、標的の未知の混合物から標的を容易に分離することができる。b)の 、8、もしくはPのいずれかの組合せからなる群から選択される1~50個の原 による視覚化もしくはラジオグラフィーによる細胞内もしくはその他生物成分の 局在化に関する標的の確認、またはb)タンパク質性であってもタンパク質性で 子のスペーサーと結合しているビオチンがある。a)の親和性試薬の例としては

. (1)と直接結合しているか、またはC、H、O、N、S、もしくはPのいず れかの組合せからなる群から選択される 1~50個の原子のスペーサーと結合し ているフルオレセインがある。

動物またはヒトの生物学的または医学的応答を引き出す薬剤または治療薬の量を 「薬理学上有効な量」は、研究者または臨床医により探し出された組織、系、 意味する。

定を含むものとして理解される。アルキルまたはシクロアルキル置換基は1以上 の不飽和度を有するものと同等の置換基であると理解される。示された数の炭素 原子(例えば、C1-10 )とは、それぞれ脂肪族もしくは環状脂肪族部分の炭素原 「アルキル」もしくは「アリール」またはそれらの接頭辞の語根のいずれかが キシ)、それらは「脂肪族」および「アリール」として先に示されたそれらの限 置換基の名称に現れているときはいつも(例えばアリールアルコキシアリールオ 子数またはより長い置換基の脂肪族部分をいう。

本明細書において「ハロゲン」または「ハロ」には、ヨウ素、臭素、塩素およ 本明細書において「オキソ」とは、置換基=0をいう。 びフッ素が含まれる。

本明細書において「カルボキシ」とは、置換基一C00Hをいう。 本明細書において「メルカプト」とは、置換基一SHをいう。 本明細書において「シアノ」とは、置換基-CNをいう。 本明細書において「アミノスルホニル」とは、置換基-SO2NH2をいう。 本明細書において「カルバモイル」とは、置換基-C(O)NH2をいう。 本明細書において「スルフェニル」とは、閩換基一S(0)-をいう。 本明細櫓において「スルホニル」とは、蜃換基一S(O)2一をいう。 本明細書において「スルファニル」とは、置換基-S-をいう。

式(1)の化合物は、容易に入手できる出発材料、試薬および通常の合成方法 を用いて、以下の反応スキーム(ここで終ての変数は前配定義に同じ)ならびに 実施例またはその変法に従って容易に製造することができる。これらの反応にお

(11)

いてはまた、それ自体当業者に公知であり、さらに詳細には説明しない変法を利 用することも可能である。

本発明の最も好ましい化合物は、これらの実施例で特に示されるもののいずれ かまたは総てである。しかしながら、これらの化合物は本発明とみなされる類擬 念のみをなすものと解釈されるべきではなく、化合物またはそれらの部分の組合 せのいずれもがそれ自体、類概念をなし得る。以下、実施例により本発明の化合 物の製造をさらに詳しく説明する。当業者ならば、以下の製造方法の条件および 工程の公知の変形や変更を用いてもこれらの化合物を製造できること容易に理解 するであろう。特に断りのない限り、総ての温度は摂氏度である。

実施例で用いられる略語は次の通りである。

######################################	=ミリゲラム	= 1) w h 1b	= ミリリットル	=マイクロリットル	=そル	
Œ	8 H	1	mĽ	mL	M	

=規定	=ミリモル	=静脈内	一番	=皮下
Z	шМ	1. v.	p. o.	°. °.

= 皮下	~√\/\~=	=モル	= ミリモル	\$ C (1)
s. C.	z H	mo 1	mm o 1	1

=ボンド/中方インチ	= 室温	
ps 1	r t	

#=

m l n

=時間	= 融点	は、一門のなりのでは、
hг	d m	O I E

= 薄層クロマトグラフィー	1年 1 7 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
TLC	

TFA

=ホルボールミリステートアセテート =1,3-ジメチルプロピレン尿業 =シンチフーション治気アッセイ =リポポリ多糖類 =百万分の1部 =キロダルトン DMPU m d d SPA LPS PMA kυ

以下の例のいくつかは5型異性体単独、2型異性体単独およびE/2異性体の =リン酸塩緩衝生理食塩水 = エチレンジアミン四酢酸 = ウシ胎児血清 EDTA FBS PBS

混合物を表す。 Eおよび2型異性体の決定は、x線結晶学、1 H NMRおよび33 C NMRなどの分析法によって行うことができる。 一般反応スキーム

本発明の化合物は、当技術分野で公知の方法によって製造してもよく、かかる 方法は反応スキーム 1 で示される。

反応スキーム1

R¹、R²、R³、R⁴、R⁵、R⁵、R³、R°は式(I)で定義された通りである

€

||および||1の||への変換は、アルドール縮合として公知の方法とそれに続ぐ。 1990 (主としてパートBの第2章に含まれている)に十分に記載されている脱離を Advanccd Organic Chemistry, "Carey and Sundberg,3rd edition,Plenum Press,

含む。この反応は、酸(例えば、濃HC1)を酢酸などの好適な溶媒と組み合わ せて用いて行ってもよい。あるいは、トルエンなどの好適な溶媒中で触媒量のp ートルエンスルホン酸を用いるといった触媒酸条件を使用してもよい。

**は公表された方法の変法によって製造してもよい。反応スキーム2は、市販され** 式 (11) のベンズアルデヒドは市販されており、または公表された方法もしく ていない間換ベンズアルデヒドを容易に合成する2つの経路を示している。

式(II)の懺換化合物は、当業者により、種々の方法によって得られる。例え ば、(IV)の(II)への変換は、90℃~130℃の温度で酢酸などの好適な溶 媒中で(IV)をヘキサメチレンテトラミンで処理することによって行ってもよい 。あるいは、(V) は、0℃~140℃の温度で少量の水を含むジオキサンなど の好適な溶媒中でDDQで処理することによって(11)に変換することができる 。前記に加え、適当な雷換基の化学的成分置換によって式(11)のある化合物を ルキル化剤で、またはジクロロメタンなどの好適な溶媒中でクロロギ酸アルキル および塩化アルキルカルバモイルなどのアシル化剤で(11)を処理することによ ヒドロキシであるとき、THFなどの好適な溶媒中でクロロメチルーRなどのア 式 (II) の別の化合物に変換することもできる。例えば、 (II) において R\*が って、カルバメート、カルボネート、およびエーテルへの変換が行われる。

式 (111) のオキシインドールは市販されており、または公表された方法もし

くは公装された方法の変法によって製造してもよい。反応スキーム3は、式 (11) の化合物を合成するいくつかの経路を示している。

R¹、R²、R³、R⁴は式(1)で定義された通りである。

式 (VI) のアニリンは、サンドメイヤー・イソニトロソアセトアニリド・イサチン合成(T.Sandmeyer, Helv.Chim.Acta 2,234(1919))と呼ばれる公知の成分置換法を用いて式 (VII) のイサチンに変換することができ、そこでは (VII) をクロラール水和物およびとドロキシルアミンと縮合し、次いで議院数で環化して定量的な加水分解を行い、水で希釈すると式 (VII) の置換イサチンとなる。WolfーKishner通元と呼ばれる公知の成分置換法を用いて20℃~80

での温度でエタノールなどの好適な溶媒件、とドラジン水和物で処理して (VIII) ) を形成することにより、式 (VII) を式 (III) に姿換することができる。0 ℃~8 0 ℃の温度でエタノールなどの好適な溶媒中、ナトリウムエトキンドで処理

することによって式 (VII) を式 (III) に変換してもよい。

あるいは、公知の化学 (P. G. Gassman and T. J. van Bergen, Journal of the Americal Society, 1974, 96(17), pp 5508-5512) を用いて式 (VI) の置換アニリンを式 (III) の化合物に発換することができる。7 8 ℃~2 2 ℃の温度で無水ジタロロメタンなどの好適な溶媒中、ジア塩素数 t ーブチルで処理し、次いでメチルチオ酢酸エチルで処理し、次いでトリエチルアミンで処理することによって式 (VI) の個盤がミンを式 (XI) の化合物に変換してもよい。エタノールなどの好適な溶媒中、(XI) をW-2 Raneyニッケルで処理することによって、またはTHFなどの好適な溶媒中、塩化アンモニウムの飽和溶液による処理に続いて活性化亜鉛で処理することによって、(XI) の (III) への変換を行ってもよい。

文献(A. Marfat and N. Carta\_Tetrahedron letters, 28 (35)pp 4027-4030,1987 ) 中に十分配載されている方法を用い、25℃の温度で t ーブチルアルコールなどの好適な溶媒件、過臭素酸ピリジニウムで処理することによって式 (IX) のインドールを (X) に変換してもよい。30~50ps1の水素で無水エタノールなどの好適な溶媒中において10% P d / Cで処理することによって、またはT F などの好適な溶媒中において塩化アンモニウムの飽和溶液による処理に続いて活性化亜鉛で処理することによって、式 (X) の化合物を (III) に変換しいて活性化亜鉛で処理することによって、式 (X) の化合物を (III) に変換し

又応スキーム4

■換を合成の初期段階に組み込むことに加え、適当な置換基への化学的成分置換によって式(III)のある化合物を式(III)の別の化合物に変換することができる。例えば、反応スキーム4は式(III)のオキシインドールを官能基化するためのいくつかのよく確立された化学置換法を示している。0℃~60℃の温度で(III)をクロロスルホン酸で処理することによって、オキシインドールをスルホン

酸誘導体 (IIIa) に変換してもよい。式 (IIIa) の化合物は、異なるセットのアミンで処理することによって、Rが置換または非置換アミノである (IIIb) に変換してもよい。例として、(IIIa) を水酸化アンモニウムで処理して式 (IIIb) のスルホンアミド誘導体を得てもよい。0で~45での温度でジクロロメタンまたは二硫化炭素などの好適な溶媒中、塩化アルミニウムの存在下で酸塩化物で処理することによって化合物 (III) を (IIIc) に変換してもよい。 (III

酸 (IIIc) のエステルおよび (IIId) のアミドへの変換には、ペプチド化学において公知の方法が含まれ、例えばDMFなどの好適な溶媒中においてHOB tをジケロロへキシルカルボジイミドなどの貼水剤と組み合わせて用いて反応を行ってもよい。0℃~45℃の温度でジクロロメタンまたは二端化炭素などの好適な溶媒中、塩化アルミニウムの存在下で (III) を塩化クロロアセチルで処理することによって化合物 (III) を (IIIe) に変換してもよい。様々に置換されたアミド、チオアミド、尿素および腫換アミノビリジンで (IIIe) を処理することによって、さらなる官能基化を達成して種々の複素類式基としてもよい。例えば、22℃~100℃の温度で酢酸などの好適な溶媒中、 (IIIe) をチネアセトアミドで処理することによって化合物 (IIIe) を (IIIf) に変換してもよい。例えば、22℃~100℃の温度で酢をなどの好適な溶媒中、 (IIIe) をテネアセトアミドで処理することによって化合物 (IIIe) を (IIIf) に変換してもよい。の異なる求核試薬で処理することによって化合物 (IIIe)を (IIIf) に変換してもよい。の異なる求核試薬で処理することによって、Rが例えばアルキルまたは環状アミンである式 (IIIg) の化合物を得てもよい。

式IIIのハロゲン化オキシインドールの式IIIの別の化合物への化学的成分置換は反応スキーム5に配載されている。例えば、アセトニトリルなどの好適な溶媒中、パラジウム館媒、例えばピストリフェニルホスフィンジクロロバラジウムの存在下で、Xがプロモまたはヨードである式 (IIIh) の化合物を複素環トリプチルスズ、例えば3ーピリジルトリプチルスズで処理して (IIIj) を生成してもよい。あるいは、22℃~125℃の温度でトルエンなどの好適な溶媒中、塩基、例えばテトラキスートリフェニルホスフィンパラジウムの存在下で、複素環または芳香族ホウ酸、例えばチオフェン~3~ホウ酸で処理することによって (IIIh)を(IIIj)に変換してもよい。

ススキームの

R'、R'、R'、R'は式(I)で定義された通りである。

式 (III) の化合物はまた、反応スキーム6に配載されている方法を用いて合成してもよい。エタノールなどの好適な溶媒中、シュウ酸ジエチルおよびナトリウムエトキシドで処理することによって、置換2-ニトロトルエン (XII) を式(XIII) の化合物に姿換してもよい。この反応の生成物を直接水で処理して (XI

を形成し、0℃~100℃の温度で水中、過酸化水素溶液および水酸化ナトリウムで処理することによって、これを式(XIV)の化合物に変換することができる。 ・ 硫酸およびエタノールなどの好適な溶媒中(XIV)を亜鉛で処理することだよって、式(III)の化合物を得ることができる。あるいは、式XIVの化合物は、X がハロゲンである式XVの化合物から合成してもよい。0℃~78℃の温度でエタノールなどの好適な溶媒中、化合物XVをマロン酸ジエチルおよびナトリウムエトキシドを含有する溶液で処理して、式XVIの化合物を得てもよい。XVIを水性水酸化ナトリウムで処理し、次いでXVIを塩酸水溶液で処理するといった標準的な条件を用いて、この式XVIの化合物を加水分解および脱炭酸してXIVを得てもよい。 医薬処方および投与重

本発明の化台物は、錠剤、カブセル剤(各々経時放出処方および徐放性処方を含む)、丸薬、散剤、顆粒剤、エリキシル剤、チンキ剤、懸瘍剤、シロップ剤および乳剤などの経口(口内および舌下を含む)投与形で投与することができる。

同様にそれらはまた、鼻、目、耳、直腸、局所、静脈内(ボーラスおよび点滴の双方)、腹膜内、関節内、皮下または筋肉内の吸入または通気の形で投与してもよく、総て医薬分野で当業者に十分公知な形態を用いる。

本発明の化合物を用いる用量計画は、患者のタイプ、種、年齢、体重、性別および病状;治療される症状の重篤度;投与経路;患者の腎機能および肝機能;ならびに用いられる特定の化合物またはその塩をはじめとする種々の因子に従って、選択される。当業の医師または獣医ならば、症状の進行を防ぐ、対抗する、また抑えるのに必要な薬剤の有効量を容易に決定し、処方することができる。

本発明の化合物または塩の治療上有効な量は、例えば動物または患者の齢および体重、治療を必要とする正確な症状およびその重筋度、製剤の性質、ならびに投与経路をはじめとするいくつかの因子に依存し、最終的には主治医または獣医

#### 判断である。

示された作用のために使用される場合、本発明の経口用量は、1日当たり約0.1~300mg/体重 kgの範囲である。経口投与単位は一般に、1~約250mg、さらに好ましくは約25~250mgの範囲で投与される。70kgの哺乳類に対する1日用量は一般に、式1の化合物約10mg~5グラムの範囲である。本発明の塩の有効量は、有効量の化合物自体の割合として決定してもよい。

局所適用は同様に、通常の医学的考慮により1日当たり1回以上であってもよい。有利には、本発明の化合物は単回の1日用量で投与してもよいし、または1日の全1日用量を1日に2、3または4回の用量に分けて投与してもよい。さらに、好適な鼻腔内とクルの局所使用によって、または当業者に十分公知の程皮パッチの形を用いて経皮経路によって、本発明の好ましい化合物を鼻腔内形態で残与することができる。経皮送達系の形で投与するために、用量の投与はもちる人用量計画を通して間欠的ではなく連続的となるう。

本発明の方法において、本明細書で詳細に記載された化合物は有効成分を形成することができ、典型的には、意図された投与形、すなわち経口錠剤、ガプセル剤、エリキシル剤、シロップ剤などに関して適切に選択され、通常の兼理学実験剤、エリキシル剤、シロップ剤などに関して適切に選択され、通常の兼理学実験

と一致する好適な医薬希釈剤、賦形剤または担体(本明細書ではひとまとめにし て「担体」物質と呼ばれる)と混合して局所投与される。

一ル、ゲリセリン、水などの無毒で経口用の、医薬上許容される不活性担体と組 み合わせることができる。散剤は、化合物を細砕して好適な微細サイズにし、同 様に細砕した例えばデンプンまたはマンニトールなどの食用炭水化物などの医薬 担体と混合することによって製造する。また、香味剤、防腐剤、分散剤および着 例えば、錠剤またはカプセル剤の形での経口投与には、有効薬剤成分をエタノ 色剤が存在してもよい。

ができる。寒天、炭酸カルシウムまたは炭酸ナトリウムなどの崩壊剤または可溶 カプセル剤は、前記のように粉末混合物を製造し、作製済みのゼラチンシース に充填することにより作製する。コロイド状シリカ、タルク、ステアリン骸マグ ネシウム、ステアリン酸カルシウムまたは固体のポリエチレングリコールなどの 比剤もまた、カプセルを摂取するときの薬剤の有効性を改良するために加えるこ 滑沢剤(gildants and lubricants)は、充填操作の前に粉末混合物に加えること

もまた混合物中に配合することができる。好適な結合剤としては、デンプン、ゼ ラチン、ゲルコースまたはβーラクトースなどの天然の糖類、トウモロコシ甘味 が挙げられる。これらの投与形に用いられる滑沢剤としては、オレイン酸ナトリ ウム、ステアリン酸ナトリウム、ステアリン酸マゲネシウム、安息香酸ナトリウ ム、酢酸ナトリウム、塩化ナトリウムなどが挙げられる。崩壊剤としては、限定 されるものではないが、デンプン、メチルセルロース、寒天、ベントナイト、キ サンタンガムなどが挙げられる。錠剤は、例えば、粉末混合物を製造し、顆粒状 さらに、所望または必要であれば好適な結合剤、滑沢剤、崩壊剤および着色剤 剤、アカシア、トラガカント、またはアルギン酸ナトリウムなどの天然および合 成ゴム、カルボキシメチルセルロース、ポリエチレングリコール、ワックスなど にするかまたはスラグ状にし、滑沢剤および崩壊剤を加え、打錠することによっ て処方する。粉末混合物は、前記の希釈剤または基剤とともに、また所望により カルボキシメチルセルロース、アルギン酸塩、ゼラチン、またはポリビニルビロ

たはセルロースもしくはポリマー物質の溶液などの結合剤で湿らし、ふるいから リドンなどの結合剤、パラフィンなどの溶液抑制剤、第4級塩などの再収蓄促進 剤および/またはベントナイト、カオリンまたはリン酸ニカルシウムなどの吸収 削とともに適宜細砕した化合物を混合することによって製造する。粉末混合物は 、シロップ、デンプンペースト、アカディア・ムチラージ(acadia mucilage)ま

とができる。異なる単位用量を区別するために染料をこれらの被覆に加えること 粉末混合物を錠剤機に通し、得られた形成の不完全なスラグを砕いて顆粒にす ることができる。この顆粒をステアリン酸、ステアリン酸塩、タルクまたは鉱油 次いでなめらかになったこの混合物を打錠する。本発明の化合物はまた、流動性 保護被覆、糖またはポリマー物質の被覆およびワックスのつや出し被覆を施すこ 出すことによって顆粒状にすることができる。顆粒状にするための別法としては の不活性担体と組み合わせて、顆粒化またはスラグ化工程を経ることなく直接打 錠することもできる。セラックのシーリングコートからなる透明または不透明の の添加によってなめらかにして、錠剤成形型に付着するのを防ぐことができる。

ソステアリルアルコールおよびポリオキシエチレンソルビトールエーテルなどの 可溶化剤および乳化剤、防腐剤、ペパーミント油またはサッカリンなどの香味添 水剤、シロップ剤およびエリキシル剤などの経口用液は、一定量が所定量の化 合物を含むよう単位投与形として製造することができる。シロップ剤は、化合物 を適宜矯味した水溶液に溶かすことによって製造することができ、また、エリキ ンル剤は無毒のアルコール系ピヒクルを使用することにより製造される。懸濁剤 は、化合物を無毒のどヒクルに溶かすことによって処方できる。エトキシル化イ 加剤などを加えることもできる。 適当であれば、経口投与用の単位投与製剤をマイクロカプセル化することがで **よそれに包埋することによって、放出を延長したり、持続させたりするように製** きる。この製剤は、例えばポリマー、ワックスなどで個々の物質を被覆し、また 造することもできる。 (124)

本発明の化合物はまた、小型の単層ピケル、大型の単層ピケル、多層ピヒケルなどのリボソーム送達系の形態で投与することもできる。リボソームは、コレステロール、ステブリルアミンまたはホスファチジルコリンなどの種々のリン

# 脂質から形成することができる。

本発明の化合物はまた、化合物分子が結合している個々の担体としてモノクローナル抗体を使用することによって送達してもよい。本発明の化合物はまた、ターゲッティング可能な薬剤担体としての可溶性ボリマーと結合させてもよい。かかるボリマーとしては、ボリビールビロリドン、ピラン共量合体、ボリヒドロキシブロビルメタクリルアミドーフェノール、ボリヒドロキシエチルアスパルトアミドフェノール、またはパルミトイル残基で置換したボリエチレンオキンドボリリジンが挙げられる。さらに、本発明の化合物は、薬剤の徐放性を達成するのに有用なある種の生分解性ボリマー、例えばボリ乳酸、ボレブシロンカブロラケトン、ボリヒドロキシブチル酸、ボリオルトエステル、ボリアセタール、ボリジヒドロビラン、ボリシアノアクリレートおよびヒドロゲルの架橋または両親媒性ブロック共重合体と結合させてもよい。

本発明には、医薬上許容される担体と組み合わせて式(I)の化合物をの. 1 ~99. 5%、さらに特には0. 5~90%含有する医薬組成物が含まれる。 非経口投与は、皮下、筋肉内または静脈内注射を意図した成態溶液および懸濁液などの液体単位投与形を利用することによって達成することができる。これらは、水性の油性媒質などの注射に適した無線の液体どとクル中に測定量の化合物を透過または溶解し、その懸濁液または溶液を滅離することによって製造する。あるいは、測定量の化合物をバイアルに入れ、バイアルおよびその内容物を減菌、密封する。投与前に混合するために、添付のバイアルまたはピとクルを提供することができる。注射液を等張にするために無毒の塩および塩溶液を加えることができる。また、安定剤、防腐剤および乳化剤を加えることもできる。

直開投与は、化合物を例えば爆味水溶液としてのポリエチレングリコール、ココアバター、高級エステルなどの低酸点の水溶性または不溶性固体と混合した坐剤を利用して達成でき、また、エリキシル剤は、パルミチン酸ミリスチルまたは

# その混合物によって製造する。

本発明の局所処方は、例えば軟膏、クリーム剤、ローション剤、眼用軟膏、眼 または耳用点滴薬、合浸包帯およびエアゾルとして提供してもよく、軟膏および クリーム剤に防腐剤、薬剤の浸透を助ける溶媒および皮膚軟化剤などの適当な通 精の添加剤を含んでもよい。これらの処方は、クリームまたは軟膏ベースおよび ローション用エタノールまたはオレイルアルコールなどの適合する通常の損体も 含んでよい。かかる担体は、その処方の約1%~約98%として存在してもよい。より通常には、それらはその処方の約80%までを占める。 吸入による投与については、本発明の化合物は、好適な嘎針剤、例えばジウロ ロジフルオロメタン、トリクロロフルオロメタン、ジクロロテトラフルオロエタ ン、テトラフルオロエタン、ヘブタフルオロブロパン、二酸化炭素またはその他 の好適なガスを使用して加圧パックまたはネブライザーからエアゾルスプレーを 提供する形で便宜に送達される。加圧エアゾルの場合、計量した量を送達するた めのバルブを設けることによって用量単位を決定してもよい。吸入器または通気 器に用いられる例えばゼラチンのカブセルおよびカートリッジを、本発明の化合 物とラクトースまたはデンプンなどの好適な粉末基剤との粉末混合物を含有する ように処方してもよい。 好ましい、困業組成物は、錠剤および水剤などの経口投与ならびに局所処方に適した形のものである。

#### 次 加

発明者らは、以下、本発明の化合物を得るために用いた技術を例示する、選択番号の合成例を示す。当業者ならば前記の合成スキームを参照してこれらの方法に従うことが可能であろうし、また、前記に開示された曹換体のいずれを得るためであっても過度の実験を行うことなくそれらを変更することができよう。下記の実施例は本発明の具体例を例示するものであり、いかなるようにも本発明の顫の実施例は本発明の具体例を例示するものであり、いかなるようにも本発明の顫

囲を限定するものではない。試薬は市販されているか、または文献の方法に従って製造される。実施例番号は前記の表で挙げた化合物を指す。'NMRスペクト」NAX、WANAN Unity Plus NWR分光光度計を用い、300または400Mhzに

実施例1:3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリジン)-2-オキン-2,3-ジヒドロ-1H-インドール-5-カルボニトリル

# 実施例1a;5ーシアノー3-メチルチオオキシインドール

無水ジクロロメタン (100mL) 中の4ーシアノアニリン (5.0g, 42mmol) 溶液を、窒素下で約-78℃まで冷却した。この攪粋溶液に無水ジクロロメタン (10mL) 中の次亜温素酸 t ーブチル (4.6g, 42mmol) 溶液を5分間にわたって加え、得られた溶液を10分間攪拌した。次いで、無水

ジクロロメタン (10mL) 中のチオ酢酸エチルメチル (5.45mL, 5.69g, 42mmol) を満下し、この混合物を1時間犠牲した。トリエチルブミン (5.9mL, 4.28g, 42mmol) を滴下し、この溶液を1時間にわたり室温にまで暖めた。この反応溶液を水 (3×20mL) およびブライン (1×20mL) で洗浄し、無水Mg SO(で乾燥し、溶媒を真空下で蒸発させてオンン(4の油状物質を得た。この油状物質をジエチルエーテル (100mL) に溶かし、2 N塩酸水溶液 (5mL) を加えて混合物を室温にて18時間激しく機

拌した。得られた固体を濾過により回収し、ジエチルエーテルで洗浄して、真空 下で乾燥させ、白色固体として5-シアノ-3-メチルチオオキシインドール(

6.48,76%)を得た。

1H, J = 8.4 Hz), 6.99 (d, 1H, J = 8.4 Hz), 4.28 (s, 1H), 2.04 (s, 3H). MS (-ve ES) 20 3 (100), (M-H).

'H NMR (CDCI3) 8 9.04 (br s, 1H), 7.64 (s, 1H), 7.57 (d,

# 実施例1 b:5 ーシアノオキシインドール

THF(100mL)中の5ーシアノー3ーメチルチオオキシインドール(60g,29mmol)溶液を室温にて撹拌し、NHtCl(100mL)館和水性溶液を加え、次いで活性化亜鉛(25g,0、38mol)を加えた。得られた混合物を18時間撹拌した。その混合物を珪藻土パッドを通して濾過し、そのパッドをTHF(20mL)で洗浄した。有機相を分離し、無水MgSO+で乾燥させ、溶媒を蒸発させて黄褐色固体を得た。この固体をジエチルエーテルでトリチュレートして、白色固体として5ーシアノオキシインドール(4.1g,88%)を得た。

<sup>1</sup>H NMR (DMSO-d<sub>8</sub>) ô 7.63 (d, 1H, J = 8.4 Hz), 7.62 (s, 1H), 6.93 (d, 1H, J = 8.4 Hz), 3.55 (s, 2H). MS (-ve ES) 157 (100), (M-H).

# 実施例1;3-(3, 5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリジン) -2-オ キソー2, 3-ジヒドロ-1 H-インドールー5-カルボニトリル

5 - (2 - メチルーチアゾール - 4 - イル) - 1,3 - ジヒドローインドール

-2-オン塩酸塩の代わりに5-シアノ-オキシインド-ルを使用することを除

き、実施例2と同様の方法で標題の化合物を合成した。

'H NMR (DMSO-ds) δ

11.17 (s, 1H), 8.75 (s, 2H), 8.11 (s, 1H), 7.91 (s, 1H), 7.64 (d, 1H, J = 8.4 Hz), 6.96 (d, 1H), J = 8.4 Hz). MS (AP-ve) 419 (20) (M-H).

実施例2;3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリジン)-5-(2 ーメチルーチアゾールー4ーイル)-1,3-ジヒドローインドール-2-オン

実施例2a;5-(2-クロローアセチル)-1,3-ジヒドローインドール-

2ーオン

**室温にて窒素下で、下配の試薬を記載の順に合した:塩化アルミニウム(17** 

g, 0. 130moles)、二硫化炭素(40ml)、塩化クロロアセチル (3

. 0g, 0. 027moles) およびオキシインドール(2. 73g, 0. 0

21moles)。この反応混合物を加熱還流し、この温度にて3時間、攪拌を

続けた。この反応物を室温にまで冷却し、液体を注意深くデカントして除去した

,窒素下で残渣に氷冷水を滴下した(ゆっくりと注意深く)。合計で50mLを加

えた時、水の添加をやめ、反応物を室温にて1時間攪拌した。濾過により黄褐色

固体を回収し、水で3回洗浄して、72℃にて真空下で乾燥させ、淡黄褐色固体 を得た(3.4g,収率79%)。

'H NMR (DMSO-de) 6 3.62 (s, 2H); 5.15 (s, 2H); 6. 96 (d, 1H); 7.84 (s, 1H); 7.91 (d, 2H); 10.84 (bs, 1H). APCI-MS m/z 208 (M-H).

実施例2b;5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1、3-ジヒドロー

# インドールー2ーオン塩酸塩

酢酸(3mL)中の5- (2-クロローアセチル) -1, 3-ジヒドローイン ドールー2ーオンのスラリー (250mg, 1.2mmol) にチオアセトアミ ド (90mg, 1. 2mmo1) を加えた。反応温度を80℃まで上げ、この温 度にて16時間攪拌した。この反応混合物を室温まで冷却し、得られた沈殿を濾 過により回収した。この固体をEtOAc(2×20mL)およびエーテル(2

(128)

特表2002-514228

×20ml)で洗浄し、真空下で乾燥させてクリーム色の固体(300mg,収

率94%) を得た。

'H NMR (DMSO-ds) δ 2.74 (s, 3H); 3.58 (s, 2H); 6.87 (d, 1H) ; 7.79 (m, 3H); 10.57 (s, 1H). APCI-MS (-ve) m/z 229 (M-H), APCI-MS (+ve) m/z 23 1 (M+H). C : zH : oN zOS HCIの分析学的理論値: C, 54.02; H, 4.16; N. 10.50; S, 12.0 2. 実測値: C, 53.73; H, 4.16; N, 10.17; S, 11.63.

実施例2;3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリジン)-5-(2 <u>ーメチルーチアゾールー4ーイル)-1,3ージヒドローインドール-2ーオン</u>  $5-\left(2-\lambda\not= h-\not= T\mathcal{V}-h-4-\mathcal{A}h\right)-1,\ 3-\mathcal{Y}\mathsf{E}\ \mathsf{F}\mathsf{D}-\mathcal{A}\mathcal{V}\mathsf{F}-h$ 合物に加え、固体を溶かした。反応物を4時間攪拌した後に、濾過により黄色沈 -2-オン猫鞍鴣(0.030g, 0.13mmol)と3,5-ジブロモー4 酢酸中(1. 0mL)でスラリーとした。濃塩酸(0. 25mL)をこの反応混 戦を回収した。この固体をEtOAc( $2 \times 2$ 0mL)、およびエーチル( $2 \times 2$ 0mL)で洗浄し、真空下で乾燥させて明黄色の固体(0.045mg,収率6 ーヒドロキシーベンズアルデヒド(0. 037g, 0. 13mmol)を合し、

'H NMR (DMSO-d6) δ 2.80 (s, 3H); 6.89 (d, 1H); 7.77 (s, 1H); 7.8 — MS m/z (-ve) 491. C1 8H1 2N2O2Br2S HCIの分析学的理論値: C, 43.17; H, 2.48; 2 (d, 1H); 7.86 (s, 1H); 8.27 (s, 1H); 8.87 (s, 2H); 10.82 (s, 1H). エレクトロスプレ N, 5.30. 実測値: C, 42.82; H, 2.66; N; 5.14.

実施例8;5ーベンゾイルー3-(3-プロモー5-エトキシー4-ヒドロキシ

ーベンジリデン)-1.3-ジヒドローインドール-2-オン

5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1、3-ジとドローインドールー2ーオンの代わりに5-ペンゾイルオキシインドールを、3、5-ジブロモー4-ヒドロキシーベンズアルデヒドの代わりに3-ブロモ5-エトキシー4-ヒドロキシーベンズアルデヒドを使用することを除き、実施例2と同様の方法で標題の化合物を合成した。

<sup>1</sup>H NMR (DMSO-d6) δ 1.38 (t, J = 7 Hz, 3H), 4.14 (q, J = 7 Hz, 2H), 6.94 (d, J = 8.2 Hz, 1H), 7.50-7.68 (m, 4H), 7.69-7.72 (m, 2H), 7.90 (s, 1H), 8.14 (s, 1H), 8.34 (d, J = 1.7 Hz, 1H), 8.48 (d, J = 1.7 Hz, 1H), 10.15 (s, 1H), 1.02 (s, 1H); APCI-MS: m/2 464 (m-H)<sup>7</sup>. C<sub>2</sub>4H<sub>18</sub>NO<sub>4</sub>Br<sup>2</sup>分析学的理論值: C, 62.08; H, 3.91; N, 3.02; Br, 17.21. 実測值: C, 61.98; H, 3.88; N, 3.08; Br, 17.28.

実施例9;3-(3,5-ジクロロ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5-(3 -メチループタノイル)-1,3-ジヒドローインドール-2-オン

実施例9a:5-(3-メチルーブタノイル)-1,3-ジヒドローインドール -2-オン 室舗にて盤素下で3塩化アルミニウム(10.7g, 7.5mmole)を丸 底フラスコに入れた。ジメチルホルムアミド(1.7mL)を摘下すると、発熱 反応が起こった。この反応は、オキシインドール(1g, 7.5mmole)を 、次いで塩化3ーメチルーブタノイル(0.96g,8mmole)を加えるま で15分間進行したた。この反応物を70℃にて60分間加熱した。この反応物

を、濃塩酸(10mL)を加えた砕氷(100g)上に注いだ。水性層をEtOAc(100mL)で抽出した。有機層をNaC1的和(水)溶液で洗浄し、MgSO1で乾燥させた。真空下で補発性物質を除去し、所望の化合物(1.38

B, 85%) を得た

'H NMR (DMSO-de): d 10.71 (s, 1H); 7.82 (d, J = 8, 1H); 7.77 (s, 1 H); 6.86 (d, J = 8, 1H); 3.51 (s, 2H); 2.76 (d, J = 7, 2H); 2.13-2.05 (m, 1H); 0.88 (d, J = 7, 6H) ESI-MS: m/z 216 (m-H)<sup>-</sup>.

実施例9:3-(3, 5-ジケロロ-4-ヒ ドロキシーベンジリデン)-5-(3 -メチループタノイル) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン 5-(2-メチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドロインドールー 2-オンの代わりに5-(3-メチルーブタノイル) -1, 3-ジヒドロインドールー ドール-2-オンを、および3, 5-プロモ-4-ヒドロキシーベンズアルデヒ ドの代わりに3, 5-ジケロロ-4-ヒドロキシーベンズアルデヒドを使用する <sup>1</sup>H NMR (DMSOds): δ 11.05 (s, 1H); 10.99 (s, 1H); 8.63 (s, 1H); 8.28 (s, 1H); 7.92 (s, 1H); 7.85 (d, J = 8.2, 1H); 7.77 (s, 1H); 6.89 (d, J = 8.2, 1H); 2.84 (d, J = 6.8, 2H); 2.21-2.08 (m, J H); 0.92 (d, J = 6.8, 6H). ESI-MS: m/z 388 (m-H)<sup>-</sup>.

ことを除き、実施例2と同様の方法で標題化合物を合成した。

実施例24;5-シクロプロパンカルボニルー3-(3,5-ジプロモー4-ヒドロキシーへンジリデン)-1,3-ジヒドローインドールー2-オン

実施例24a;5ーシクロプロパンカルボニルー1,3ージヒドローインドール -2ーオン

塩化3 -メチルブタノイルの代わりに塩化シクロプロパンカルボニルを使用す

ることを除き、実施例9aと同様の方法でこの化合物を合成した。

MSO-de): 0 10.73 (s, 1H); 7.93 (d, J = 8.2, 1H); 7.85 (s, 1H); 6.88 (d, J = 8.2, 1H);

'H NMR (D

3.53 (s, 2H); 2.79 (t, J = 6.2, 1H); 0.94 (d, J = 6.2, 4H)

ESI-MS: m/z 200 (m-H)".

<u>実施例24;5-シクロプロパンカルボニルー3-(3,5-ジプロモ-4-ヒ</u>

ドロキシーベンジリデン) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

6ーシアノー1, 3ージヒドローインドールー2ーオンの代わりに5ーシクロ

プロパンカルボニルー1,3-ジヒドローインドールー2ーオンを使用すること

を除き、実施例179と同様の方法でこの化合物を合成した。

'H NMR (DMSO-

de): 0 11.11 (s, 1H); 10.80 (bs, 1H); 8.86 (s, 2H); 8.46 (s, 1H); 8.02-7.98 (m, 2H); 6. 98 (d, J = 8.1, 1H); 3.0-2.9 (m, 1H); 1.05 (d, J = 6, 4H); ESI-MS: m/z 462 (m-H)-.

実施例25;5-アミノメチル-3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベ

ンジリデン) -1, 3ージヒドローインドール-2ーオン

# 実施例25a:5-アミノメチルオキシインドール

6. 3mmo1) と10パラジウムカーボン (0. 05g) のスラリーを、40 ps1の圧力下で24時間、水素化した。珪藻土のパッドを通す濾過により触媒  **金温にて、氷酢酸(50mL)中、5ーシアノオキシインドール(1.0g**,

を除去し、纏液から溶媒を蒸発させて、橙色の油状物質の5-アミノメチルオキ シインドールを酢酸塩として得た(1. 16g)。

'H NMR (DMSO-ds) δ 7.21 (s,

1H); 7.14 (d, 1H, J = 7.6 Hz), 6.75 (d, 1H, J = 7.6 Hz), 3.74 (s, 2H), 3.44 (s, 2H), M S (+ve ES) 146 (100), (M-NH2).

実施例25;5-アミノメチル-3-(3,5-ジブロモー4-ヒドロキシーベ

ンジリデン) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドローインドール

-2-オンの代わりに5-アミノメチルーオキシインドール酢酸塩を使用するこ

とを除き、実施例2と同様の方法で標題化合物を合成した。

'H NMR (DMSO-de)

H, J = 7.6 Hz), 6.88 (d, 1H, J = 7.6 Hz), 3.96 (br q, 2H, J = 6Hz). MS(AP+ve)408(10 δ 10.80 (s, 1H), 8.76 (s, 2H), 8.14 (br s, 3H), 7.71 (s, 1H), 7.65 (s, 1H), 7.31 (d, 1 0)(M-NH2).

実施例119:1-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-1,

3ージヒドローピロロ[3, 2ーf]キノリン-2ーオン

実施例119a;2-ヒドロキシイミノ-N-(6-キノリニル)アセトアミド

00mLの水中の10.0g (220mmo1) の塩酸ヒドロキシルアミンを加 250mLの水中の10.0g (60.0mmol)の抱水クロラールに、1 えた。次いで200mLの1.0N HC1中の7.8g (54mmo1)の6

ーアミノキノリン溶液を攪拌しつつ加えた。得られた懸濁液を暖め、400mL の95%EtOHを加えて懸濁液を溶解させた。固体炭酸二ナトリウムの添加に よりこの溶液を中和し、風乾し、固体として8.1g(60%)の2-とドロキ

シイミノーNー(6 -キノリニル)アセトアミドを得た。

'H NMR (DMSO-do): 8

7.76 (s, 1H); 7.80 (dd, 1H, J = 3.7, 8.4 Hz); 8.14 (s, 2H); 8.68 (s, 1H); 8.77 (d, 1H, J = 8.4 Hz); 9.02 (d, 1H, J = 3.7 Hz); 10.73 (s, 1H); 12.34 (s, 1H), 質量スペクトル (陰イオン化学イオン化): m/z = 214 (60%)

# <u>実施例119b:3-H-ピロロ[3,2-f]キノリンー1,2ージオン</u>

て20分間、次いで95℃にて1時間加熱した。この反応物を室温にまで放冷し 、155g (1.25mole) の炭酸ナトリウム一水和物と200gの氷の混 合物に滴下した。滴下が終了した後に、終ての無機白色固体が溶けるまで、混合 物に水(600mL)を撹拌しながら徐々に加えた。1M塩酸を用いてこの水性 3 2. 5 m o 1 )を、撹拌しつつ 7 0 m L の濃硫酸と合し、反応温度 1 2 0 ℃に 2-ヒドロキシイミノ-N-(6-キノリニル)アセトアミド(7.00g,

合物をpH7に中和し、生成物を濾過により回収した。回収した固体に200m Lの水を加え、1M塩酸の滴下により溶解させて遊離捕捉塩とした。次いでこの この生成物を濾過により回収し、55℃にて真空下で乾燥させ、赤褐色固体とし て3.89g(60%)の3-H-ピロロ[3,2-f]キノリン-1,2-ジオ 生成物に、pH7となるまで重炭酸ナトリウム飽和水溶液を加えて沈殿させた。 ンを得た。質量スペクトル(陰イオン化学的イオン化): (DMSO-ds): 8 7.43 (d, 1H, J = 8.8 Hz), 7.66 (dd, 1H, J = 4.1, 8.4 Hz); 8.29 (d, 1H, J = 8.8 Hz); 8.72 (d, 1H, J = 8.4 Hz); 8.82 (d, 1H, J = 3.3 Hz); 11.2 (s, 1H).

m/z = 197 (30%). NMR

実施例119c:1-ヒドラゾノー1,3-ジヒドロビロロ[3,2-f|キノリ

#### ソー2ーオン

特表2002-514228

(134)

**窒素雰囲気下、冷却器のもとで100℃に加熱し、1時間攪拌した。この反応** 55℃にて真空下で乾燥させ、褐色固体として2.86g(69%)の1ーヒド ラゾノー1,3ージとドロピロロ[3,2ーf]キノリンー2ーオンを得た。質量 6mmol)を12.0mLの無水ヒドラジンおよび10.25mLの水と合し 物は時々発泡して冷却器に入り、この発泡を抑えるため必要に広じて冷却した。 3-H-ピロロ[3, 2-f]キノリン-1, 2-ジオン(3. 89g, 19. この反応物を冷却し、200mlの水中に注いだ。生成物を濾過により回収し、 スペケトラ(騒イギンエフケトロスプワー):

# m/z = 213. NMR (DMSO-dn): $\delta$ 7.37

(d, J = 8.8 Hz, 1H), 7.47 (dd, J = 8.4, 4.2 Hz, 1H), 7.81 (d, J = 8.8 Hz, 1H), 8.71 (dd, J = 4.2, 1.6 Hz, 1H), 8.80 (d, J = 8.4 Hz, 1H), 9.90 (br d, J = 14.7 Hz, 1H), 10.89 (br d, J = 14.7 Hz, 1H), 10.95 (br s, 1H).

# <u>実施例119d;6-アミノキノリン-5-カルボン酸ヒドラジド</u>

100mLフラスコ (発泡のため特大) 内で、1ーヒドラゾノー1,3ージヒ ドロービロロ[3, 2-f]キノリソ-2-オン(1.07g, 5.05mmol )を6.0mLの無水ヒドラジンおよび5.0mLの水と合し、窒素雰囲気下、

のヒドラゾンが消費されたことが示された。この反応物を冷却し、75mLの水 却器中で攪拌しつつ加熱選流した。4.5時間後、分析的HPLCにより総ての で希釈して徳過し、オリーブ褐色の固体として0.45g(風乾)の6-アミノ キノリンー5ーカルボン酸ヒドラジドを得た。質量スペクトル(陰イオンエレケ トロスプレー):

m/z = 215 (100%). NMR (DMSO-d<sub>6</sub>):  $\delta$  3.64 (s, 2H), 4.22 (s, 2H), 5.66 (s, 2H), 7.25 (d, 1H, J = 9.1 Hz), 7.34 (m, 1H), 7.65 (d, 1H, J = 9 Hz), 8.34 (d, 1H, J = 8.5 Hz), 8.50 (s, 1H), 9.27 (s, 1H)

ることによりこの反応物を中和し、濾過した。回収した生成物を55℃にて真空 下で乾燥させ、褐色固体として416mg(45%)の1,3ージヒドローピロ 6 - アミノキノリンー5 - カルボン酸ヒドラジドを10mLの2M塩酸に溶か 実施例119e:1, 3-ジヒドローピロロ〔3,2-f]キノリン-2-オン し、便宜にはホットプレート上で加熱した。固体重炭酸ナトリウムを徐々に加え ロ[3, 2-f] キノリン-2-オンを得た。質量スペクトル(陰イオン化学的  $m/z=183(60\%)^{1}H$  NMR (DMSO-d<sub>6</sub>):  $\delta$  3.80 (s, 2H), 7.35 (d, J = 8.8 H z, 1H), 7.44 (dd, J = 8.4, 4.2 Hz, 1H), 7.88 (d, J = 8.8 Hz, 1H), 8.08 (d, J = 8.4 Hz, 1 H), 8.70 (dd, J = 4.2, 1.6 Hz, 1H), 10.57 (br s, 1H).

# 実施例119:1-(3, 5-ジプロモー4-ヒドロキシーベンジリデン)-1,

# 3ージヒドロピロロ [3, 2ーf] キノリンー2ーオン

- 1, 3ージヒドローピロロ [3, 2-f] キノリン-2ーオン (552mg,
- 3. 00mmo1) を、1mLの濃塩酸を含む6mLの氷酢酸中の855mg(
- 3. 05mmo1)の3, 5ージプロモー4ーヒドロキシベンズアルデヒド (T
- Cl Chemicals)合した。この反応物を115℃にて8時間攪拌し、
- 冷却して濾過し、酢酸エチルで洗浄して、Z/E異性体の9/1混合物の褐色固 体として1.32gの1-(3,5-ジブロモー4-2ドロキシーベンジリデン
  - ) --1, 3-ジヒドロピロロ [3, 2-f] キノリン-2-オンを得た。質量ス

# (極イギン行学也イギン化):

m/z=443(40%),445(100%),447(40%). 'H NMR (D

MSO-d6):  $\delta$  7.69 (d, J = 8.8 Hz, 1H); 7.93 (dd, J = 8.7, 4.9 Hz, 1H); 8.24 (d, J = 8.8Hz, 1H); 8.27 (s, 1H); 8.80 (s, 1H); 9.04 (d, J = 4.7 Hz, 1H); 9.51 (d, J = 8.6 Hz, 1 H); 11.3 (s, 1H).

# 実施例130:3-(3,5-ジニトロ-4-ヒドロキシーベンジリデン)ー5

- (2-メチルーチアゾール-4-イル) -1, 3-ジヒドローインドール-2

特表2002-514228

(136)

| | | |

3, 5ージプロモー4ーヒドロキシーベンズアルデヒドの代わりに3, 5ージ ニトロー4ーとドロキシーベンズアルデヒドを用いることを除き、実施例2と同 様の方法で標題の化合物を合成した。 (d, 1H); 7.78 (s, 1H); 7.82 (d, 1H); 7.97 (s, 1H); 8.29 (s, 1H); 9.39 (s, 2H); 10.80 (bs, 1H). MS (+ve ES) 425 (MH+).

'H NMR (DMSO-ds) 8 2.79 (s, 3H); 6.90

# 実施例133;6-ブロモー3-(3,5-ジクロロー4-ヒドロキシーベンジ 3ージヒドローインドールー2ーオン リデン) ー1,

# 実施例133a;4ープロモー2ーニトロフェニルピルビン酸

ロトルエン (21. 6g, 0. 1mol, Lancaster) をナトリウム ( 4. 6g, 0. 2mol) および無水エタノール (90mL) から製造した冷却 ナトリウムエトキシド溶液に注ぎ入れた。混合物を室温で一晩撹拌し、次いで反 応の最後に10分間選荒した。反応混合物を冷却し、濃縮して過剰のエタノール を除去した。沈殿を濾過により回収し、エーテルで洗浄して乾燥させた。粗ナト シュウ酸ジエチル (29.2g, 0.2mol) および4ープロモー2ーニト リウム塩を水に溶かし、濃HC1で酸性にした。 沈殿した固体を濾過により回収 (138)

した。粗生成物をヘキサンおよび酢酸エチルから再結晶させ、軽いパテ色の固体 として12.5g(43%)を得た。

<sup>1</sup>H-NMR (CDCI<sub>3</sub>):  $\delta$  8.40 (d, 1H, J = 1.9 Hz), 7.84 (dd, 1H, J = 8.0, 2.0 Hz), 7.30 (d, 1H, J = 2 Hz) 4.65 (s, 2H).

# 実施例133b;4ープロモー2ーニトロフェニル酢酸

0°Cにて撹拌した水 (175mL) 中の4ープロモー2ーニトロフェニルピル 熔液に30%過酸化水素溶液(4.95mL,0.04mo1)を滴下した。反 応容液を5℃にて1時間攪拌し、次いで希HC1で酸性にした。黄色の**辻殿を**濾 過し、粗生成物をヘキサンおよび酢酸エチルから再結晶させ、薄いベージュ色の ピン酸 (0. 04mo1) および水酸化ナトリウム (5. 3g, 0. 1mo1) 固体として8.4g(75%)を得た。

'H-NMR (DMSO-ds): δ 12.67 (br s, 1H), 8.28 (d, J = 2.0 Hz), 7.97 (dd, 1H, J = 9.0 Hz, 2.0 Hz), 7.55 (d, 1H, J = 8.0 Hz), 4.0 0 (s, 3H). MS (-ve) m/z: 259 (M-H).

# 実施例133c;6-ブロモオキシインドール

50%硫酸 (200mL) および無水エタノール (300mL) 中の4ープロ えた。この混合物をこの温度で2時間攪拌しながら加熱した。過剰のエタノール 8. 5g, 0. 13mol)を90℃にて0. 75時間にわたってゆっくりと加 モー2ーニトロフェニル酢酸(8.4g,0.03mo1)の溶液に、亜鉛末( を真空

tman 1 PS Phase Separatorフィルターで濾過し、真空蒸 有機部分を合して飽和重炭酸ナトリウム、飽和塩化ナトリウムで洗浄し、Wha 蒸発によって除去し、混合物を濾過した。濾液をジエチルエーテルで抽出した。 発させて、薄桃色の固体として3.8g(56%)を得た。

'H-NMR (DMSO-ds)

: 6 10.57 (br s, 1H), 7.14 (m, 2H), 6.98 (s, 1H), 3,47 (s, 2H).

実施例133:6-プロモー3-(3,5-ジクロロー4-ヒドロキシーベンジ

リデン) -1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドローインドール-2-オン塩酸塩の代わりに6-プロモーオキシインドールを使用し、および3 . 5ージプロモー4ーヒドロキシーベンズアルデヒドの代わりに3,5ージクロ ロー4ーヒドロキシーベンズアルデヒドを使用することを除き、実施例2と同様 の方法で標題化合物を合成した。

'H-NMR (DMSO-de) & 7.05 (s, 1H); 7.12 (d, 1H); 7.43 (d, 1H); 7.56 (s, 1H); 7.76 (s, 2H); 10.78 (bs, 1H); 10.91 (bs, 1H). エレクトロ スプレー MS (-ve) 384.

実施例138;3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5

ーピリドー3ーイルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン

実施例138a:5-ピリド-3-イル-1,3-ジヒドロ-インドール-2-

4m1のアセトニトリル中の0.736g (2mmo1)の3ートリプチルス

)の混合物を24時間加熱選流した。室温まで冷却した後に混合物を20m1の . 497g (3mmo1) の塩化テトラエチルアンモニウム、および0. 035 g (0.05mmo1)の塩化ビス (トリフェニルホスフィン) パラジウム (II ズビリジン、0. 259g (1mmol)の5-ヨードーオキシインドール、0 CHC13で希釈し、50m1の10%フッ化カリウム水溶液を加えた。混合物 (140)

を1インチのセライトパッドを通して濾過し、層を分離した。有機層を真空下で

濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィー(EtOAc/MeOH 5%)に

付し、白色固体として5-ピリド-3-イル-1,3-ジヒドロ-インドール-

2ーオン (0. 033g, 16%) を得た。

H NMR (DMSO-d\*): Ø 10.51 (s, 1H); 8.8

7.54 (d, J = 8.1,  $J_1$ ); 7.44 (dd,  $J_1 = 4.7$ ,  $J_2 = 7.9$ ,  $J_1$ ); 6.93 (d, J = 8.1,  $J_1$ ); 3.55 (s, 3 (d, J = 2.2, 1H); 8.51 (dd, J<sub>1</sub> = 1.3, J<sub>2</sub> = 4.6, 1H); 8.02-7.97 (m, 1H); 7.59 (s, 1H);

2H). APCI-MS: m/z 211 (m+H)+.

<u> 実施例138:3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5</u>

ーピリドー3ーイルー1, 3-ジヒドローインドール-2-オン

5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジヒドローインドール

-2-オンの代わりに5-ピリド-3-イル-1,3-ジヒドロ-インドール-

2ーオンを使用することを除き、実施例2と同様の方法で標題の化合物を合成し

'H NMR (DMSO-dε): δ 10.93 (s, 1H); 9.13 (s, 1H); 8.81 (s, 2H); 8.8-8.7 (m, 1 H); 8.6-8.5 (m, 1H); 8.23 (s, 1H); 7.94 (s, 1H); 7.9-7.8 (m, 1H); 7.72 (d, J = 8, 1H); 7. 02 (d, J = 8, 1H). APCI-MS: m/z:  $471 (m-H)^{-}$ .

実施例144;N[ビス(2-ヒドロキシエチル)] ーカルバミン酸2, 6ジブロ

モー4ー [5-(2-メチルーチアゾール-4-イル) -2-オキソー1, 2-

ジヒドローインドールー3-イリデンメチル] ーフェニルエステル

4 Aモレキュラーシーブスを用い窒素下で4時間、10mLの無水THF中で

って精製し、橙色の固体として209mgの3ー(3,5ージプロモー4ーヒド わたってホスゲン溶液に滴下した。反応物を1時間にわたってて室温まで温めた 。反応物を再び氷浴中で冷却し、2mLのTHF中の135mg(1.28mm **重炭酸ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥させた。溶媒を蒸発さ** せて、橙色の固体として0. 6gの粗生成物を得た。この生成物を1:1ヘキサ ン/酢酸エチル、次いで酢酸エチルを用いるシリカゲルクロマトグラフィーによ ロキシーベンジリデン) -5-(2-メチルーチアゾールー4-イル) -1,3 3 – (3, 5 – ジプロモー4 – ヒドロキシーベンジリデン) – 5 – (2 – メチル ェノキシドアニオンの黄橙色溶液をシリンジで滴下漏斗に移し、溶液を30分に o 1) のジエタノールアミンおよび0. 165mLのジイソプロピルエチルアミ 拌した。橙色反応溶液を100mLの酢酸エチルで希釈し、50mLの0.2M -チアゾール-4ーイル) -1, 3ージヒドローインドール-2ーオン(0.5 9M, 0. 95mmol)および5mLの無水THFを氷浴中で冷却した。フ ージヒドローインドールー2-オンを得た。質量スペクトル(陽イオン化学イオ 等圧滴下爛斗下の分離フラスコで、0.50m1のホスゲン溶液(トルエン中1 0g, 0. 95mmol)をスラリーとした。ジイソプロピルエチルアミン(0. 33mL,1.9mmo1)を加えると黄橙色溶液が得られた。窒素雰囲気下、 ン(0.95mmol)の溶液を一度に加えた。反応物を室温まで温め、

化):同位体ピークを伴う"Brに対するm/z=644(M+23)。

MSO-do): (比率2:1のE/Z 異性体の混合物) δ 2.70 および 2.76 (2s, 3H); 3.47 (m, 2H); 3.62 (m, 4H); 3.8 (m, 2H); 4.88 (m, 1H); 4.96 (m, 1H); 6.92 および 6.96 (2d, 1 H, J = 8 Hz); 7.62 (d, 1.3H, J = 8 Hz); 7.76-7.96 (m, 2H); 8.15-8.33 (m, 2H); 8.87 (s, 0.7H); 10.81 および 10.88 (2 s ,1H).

実施例147:3-(3,5-ジブロモー4-エトキシカーボネートーベンジリ デン) ー2ーオキソー2, 3ージヒドロー5ークロロー1 Hーインドール

イソプロピルエチルアミン (0.70mL, 4.0mmol) で処理した。得ら 混合物を3時間攪拌した。反応物をまず重炭酸ナトリウム飽和溶液で洗浄し、次 Hーインドール(0. 41g, 1. 0mmo1)の不均質混合物を、室温にてジ いで塩化アンモニウム飽和溶液で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥さ せ、徳過して濃縮した。残渣をジクロロメタンに溶かし、氷浴中で冷却して生成 ヒドロキシーベンジリデン) -2-オキソ-2, 3-ジヒドロ-5-クロロー1 物をヘキサンで抗殿させた。固体を濾過器上で回収し、ヘキサンで洗浄、風乾し **窒素下、無水ジクロロメタン(15ml)中の3-(3,5-ジブロモ-4-**れた均質溶液にクロロギ酸エチル(0.19mL,2.0mmo1)を摘下し、 - 標題の化合物(0.34g,68%)。を得た

1H), 8.12 (s, 2H), 7.70 (s, 1H), 7.35-7.40 (m, 2H), 6.96 (d, 1H), 4.43 (q, 2H), 1.40 (t, ¹H NMR (DMSO-d₁): δ 10.90 (s, 3H). C. 8H t 2/1; N 2. 12、79、実測値: C, 43.11; H, 2.41; N, 2.79、実測値:

# C, 43.01; H, 2.47; N; 2.73. MS(API+): 502(5) (M+1).

実施例150;3-(3,5-ジブロモー4-ピパロイルオキシメトキシーベン ジリデン) -2-オキソ-2, 3-ジとドロ-5-クロロー1 H-インドール

ドロキシーベンジリデン)-2-オキソ-2、3-ジヒドロー5-クロロー1 H 窒素下、無水アセトニトリル (20mL) 中の3- (3, 5-ジプロモ-4-ヒ ーインドール (0. 43g, 1. 0mmol) の溶液を、窒温のカリウム tーブ

(142)

トキシド (0. 12g, 1. 1mmol) で処理した。得られた橙色の不均質混 **舎物を18−クラウン−6(0.053g,0.20mmol)で処理し、15** 分間攪拌した後にピパル数クロロメチル(0.40mL,2.8mmo1)を加 **寛液を室温まで放冷して一晩攪拌した。得られた固体を濾過器上で回収し、アセ** トニトリルで洗浄し、真空乾燥させ、B/Z異性体の混合物として燦麹の化合物 えた。反応物を10℃まで加熱し、3時間撹拌し、次いで熱いうちに濾過した。 (0.24g,44%)を得た。

実施例152;2,6ージプロモー4ー[(5ーヨードー2ーオキソー1,2ー ジヒドロ-3 H-インド-ル-3 -イリデン)メチル] フェニルN- [2-(2-ヒドロキシエトキシ)エチル」カルバメー |

チルモルホリン (~45mg, ~45mmol) を加えた。反応混合物を0℃で 10分間攪拌し、次いで室温まで温めた。溶液を等容量のエーテルで希釈し、微 **部なフリットを通して濾過して透明にし、~10m1のエーテルでさらに希釈し** た。次いで生成物を~80m1のヘキサンを加えることによって钛殿させ、濾過 トルエン中の1. 97Mホスゲン (0. 21ml, 0. 41mmol) をシリン ジで滴下して反応混合物を10分間攪拌した。次いで2-(2-アミノエトキシ ) エタノール (40μ1, 0. 40mmol) をシリンジで加え、続いてNーメ し、さらなるヘキサンで洗浄し、黄色固体として0.21g(79%)の標題化 **鑑繋下、20m1のTHF中の3-(3,5-ジブロモー4-ヒドロキシーベ** ンジリデン) -5-ヨード-1, 3-ジヒドローインドール-2-オン(210 ng, 0.40mmo1)の溶液にTHF中の1Mカリウムtーブトキシド(0. 40m1, 0.40mmol)をシリンジで滴下した。溶液を0℃まで冷却し、

₹ 4¥

# 実施例156;3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-2 -オキソー2, 3ージヒドロー1H-インドールー5ーカルボン酸

5-(2-メチルーチアゾール-4-イル)-1,3-ジとドローインドール -2-オン塩酸塩の代わりに3- (3, 5-ジブロモー4-ヒドロキシーベンジ リデン) -2-オキソ-2, 3-ジヒドロ-1H-インドール-5-カルボン酸 5ーカルボン酸を使用することを除き、実施例2と同様の方法で3-(3,5-1 H - インドールー5ーカルボン酸をオキシインドールおよび3,5ージブロモ ジブロモー4ーヒドロキシーベンジリデン)-2-オキソー2,3-ジヒドロ--4-ヒドロキシベンズアルデヒドから製造した。収率19%。

O-ds): δ 12.6 (bs, 1H), 10.96 (s, 1H), 10.61 (bs, 1H), 8.17 (s, 1H), 7.93 (s, 2H), 7.84 H-NMR (DMS (d, J = 8.2 Hz, 1H), 7.54 (s, 1H), 6.93 (d, J = 8.2 Hz, 1H). 質量スペクトル(陰イ  $\vec{\tau}$  APCI) : m/z = 436 (M-1, 5%), 438 (M-1, 10%), 440 (M-1,8%).

-2-オキソー2, 3-ジヒドロー1H-インドールー5-イル) -アセトアミ 実施例159:N [3-(3, 5-ジプロモー4-ヒドロキシーベンジリデン)]

実施例159a;5-ニトロー1,3-ジヒドローインドール-2-オン

75mlの濃H2SO4中の5g (37.6mmol)のオキシインドールの溶 合物を一5℃で1時間攪拌した。次いで氷浴をはずし、遅合物をゆっくりと周囲 **彼を氷/EtOH浴中で−5℃まで冷却した。25m1の濃H2SO4中の3.8** 温度まで温めた。退合物を500gの砕氷中に注ぎ入れた。固体を真空濾過によ 3g (45.1mmo1)のNaNO3の溶液を30分にわたって滴下した。混

回収して風乾した。この固体を温メタノール中で攪拌し、真空濾過により回収し 、5ーエトロー1,3ージとドローインドールー2ーオン(1.7g,25%) <sup>1</sup> H NMR (DMSO-ds):  $\delta$  3.6 (s, 2H), 6.95 (d, J = 8.5 Hz, 1H), 8.1 (s, 1H), 8. 12 (d, J = 8.7 Hz, 1H), 11.01 (s, 1H). APCI-MS: m/z 177 (m-H)<sup>-</sup>.

# 実施例159b:5-アミノ 1,3-ジヒドローインドール-2-オン

slの水素ガスを充填した。退合物を2時間振盪した。混合物を濾過し、溶媒を 真空下で除去し、5-アミノ 1,3-ジヒドローインドール-2-オン(1.2 3-ジヒドローインドール-2-オン、150mgのPd/C 10%、および 50m1 Me0Hの混合物をParr(登録商標)水素添加器に入れ、45p 100mlのEtOAc中の1. 5g (8. 4mmol) の5ーニトロー1, 2g, 98%)を得た。

'H NMR (DMSO-ds): § 3.27 (s, 2H), 4.6 (s, 2H), 6.34 (dd, J. = 2 Hz,  $J_2$  = 8.1 Hz, 1H), 6.45 (m, 2H), 9.88 (s, 1H). APCI-MS: m/z 147 (m-H)<sup>-</sup>.

# 実施例159c:N-(2-オキソー2,3-ジヒドロ-1H-インドール-5 一イル) 一アセトアミド

5 0 gの砕氷中に注ぎ入れた。混合物を十分に攪拌し、固体を真空濾過により回 -ジヒドローインドールー2ーオンの混合物を30分間還流した。反応混合物を 6 m l の無水酢酸中の2 0 0 m g (1. 3 5 m m o l) の5 −ブミノ 1, 3 収した。この固体を200m1のH2Oで洗浄し、風乾し、Nー(2-オキソー

2, 3ージヒドロー1 Hーインドールー5ーイル) ーアセトアミド (119mg

, 46%)を得た。

 $^{1} H \ NMR \ (DMSO-d_{0}); \ \delta \ 1.97 \ (s, 3H), \ 3.41 \ (s, 2H), \ 6.68 \ (d, J=8.4$  Hz, 1H), 7.26 (dd, J<sub>1</sub> = 2 Hz, J<sub>2</sub> = 8.4 Hz, 1H), 7.46 (d, J=2 Hz, 1II), 9.73 (s, 1H), 10.23 (s, 1H),

ESI-MS: m/z 189 (m-H)-.

実施例159;N[3-(3, 5-ジブロモー4-ヒドロキシーベンジリデン)] -2-オキソー2, 3-ジヒドロ-1H-インドール-5-イル) -アセトアミ

۲.

0. 050g (0. 26mmol) のN- (2ーオキソー2, 3ージとドロー 1H-インドールー5-イル) ーアセトアミドおよび0. 081g (0. 29mmol) の3, 5ージプロモー4ーとドロキシーペンズアルデヒドの混合物を2 m1のHOAc中で犠牲した。10071の選HClを加え、混合物を80℃で 3時間加熱した。周囲温度まで冷却した後、固体を真空確適により回収し、Bt OAcおよびEt20で洗浄し、真空オーブン中で乾燥させて、黄色固体として N- [3-(3, 5ージプロモー4ーヒドロキシーペンジリデン)] -2ーオキソ -2, 3ージとドロー1H-インドールー5-イル) ーアセトアミド (0. 76 g, 65%) を得た。

 $\delta 1.99 (s, 3H), 6.72 (d, J = 8.3 Hz, 1H), 7.74 (dd, J_1 = 1.8 Hz, J_2 = 8.3 Hz, 1H), 7.54 (s, 1H), 7.86 (d, J = 1.5 Hz, 1H), 8.79 (s, 2H), 9.74 (s, 1H), 10.54 (s, 1H), APG-MS: m/z 475 (m+Na)*.$ 

実施例172;3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-2-オキソー2,3-ジヒドロ-1H-インド-ルー5-カルボン酸(2-ヒドローオキソー2)

キシエチル) アミド

(146)

実施例172a;5-カルボン酸ー1,3-ジヒドローインド-ルー2-オン

5ーカルボン酸ー1, 3ージヒドローインドールー2ーオンメチルエステル (

6g, 29. 3mmo1)を値アセトニトリル(500mL)に浴かし、ヨウ化アルミニウム(25g, 61. 3mmo1)をゆっくりと加えた。反応物

を0.5時間還流し、次いで光水中に注ぎ入れ、酢酸エチル (200mL)で20m出した。両相に不溶な物質を確別し、チオ硫酸ナトリウム水溶液、糖いて水で洗浄して乾燥させた。5ーカルボン酸ー1,3ージヒドローインドールー2ーオンの収量:1.9g。酢酸エチル溶液をチオ硫酸ナトリウム水溶液で洗浄して繊維整固させた。5ーカルボン酸ー1,3ージヒドローインドールー2ーオンの収量:0.2g。水相をチオ硫酸ナトリウム溶液で処理して放置すると、さらなる生成物が沈殿として晶出した。これを確別し、水で洗浄して乾燥させた。5ーカルボン酸ー1,3ージヒドローインドールー2ーオンの収量:2.8g。

NMR (DMSO-ds): Ĝ 12.60 (bs, 1H), 10.73 (bs, 1H), 7.84 (d, J = 8.1 Hz, 1H), 7.77 (s, 1H), 6.90 (d, J = 8.1 Hz, 1H), 3.56 (s, 2H). 質量スペクトル(陰イオン エレクトロスプレー): m/z = 176 (M-1, 6%).

⊭

キシエチル) アミド

3-(3.5-ジブロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-2-オキソー2,3-ジヒドロ-1H-インドールー5ーカルボン酸(0.348,0.77mmol)(実施例156)およびエタノールアミン(0.08g,1.3mmol)

(147)

特表2002-514228

(148)

をDMF (2mL) に落かし、振祥しながら5でまで冷却した。シアノホスホン酸ジエチル(0.172g, 1mmol)、続いてトリエチルアミン (0.25g, 2.5mmol)を加え、5℃で0.5時間獲粹を続け、次いで反応物を室温まで温めた。1.5時間後に反応物を水 (10mL)で4回抽出した。有機相を合して硫酸マグネシウムで乾燥させ、濃縮乾固させた。エタノールから再結晶させ、22mgの3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーペンジリデン)-2-

キシエチル)アミドを得た。

オキソー2, 3ージとドロー1Hーインドールー5ーカルボン酸 (2ーヒドロ

'H-NMR (DMSO-de):  $\delta$  10.9 (s, 1H), 10.7 (bs, 1H), 8.81 (s, 2H), 8.25 (t, J = 5.6 Hz, 1H), 8.19 (s, 1H), 7.77 (s, 1H), 7.72 (d, J = 8.0 Hz, I H), 6.86 (d, J = 8.0 Hz, 1H), 4.73 (bs, 1H), 3.52 (m, 2H), 3.37 (m, 2H). 質量スペクトル (陰イオン エレクトロスプレー): m/z = 479 (M-1, 22%), 481 (M-1, 35%), 483 (M-1, 30%).

# 実施例179:6ーシアノー3-(3,5-ジプロモー4-ヒ トロキシーベンジ

リデン)-1,3-ジヒドローインド-ル-2-オン

# 実施例179a;6ーシアノー1,3ージヒドローインドールー2ーオン

3ープロモー1, 3ージとドローインドールー2ーオン(0. 621g, 2. 93mmol)、シアン化トリプチルスズ(1. 11g, 3. 5mmol)、塩化テトラアンモニウム水和物(0. 97g, 5. 9mmol)、ジクロロピス (トリフェニルホスフィン) パラジウム (11) (0. 21g, 0. 3mmol)およびテトラキス (トリフェニルホスフィン) パラジウム (0) (0. 342g, 0. 3

mmo1)をジクロロエタン (100mL) で処理し、反応物を窒素下で16時間機件しなが5週前した。さらにテトラキス (トリフェニルホスフィン) バラジウム (0) (0.23g, 0.2mmok)の添加を行い、さらに6時間違流を続けた。テトラキス (トリフェニルホスフィン) バラジウム (0) (0.345g, 0.3mmo1)の3度目の添加を行い、反応物を16時間適流に戻した。冷却して反応溶液をフッ化かリウムの水溶液(50mL)で2回流浄し、有機相

を硫酸マグネシウムで乾燥させ、濾過して蒸発範囲させた。生成物をジクロロメタンを用いるシリカゲルクロマトグラフィーに付すと、酸化トリフェニルホスフィンが個入した100mgの6ーシアノー1、3ージとドローインドールー2ーオンが得ちれた。ジクロロメタンを用いるシリカゲルクロマトグラフィーによる2度目のクロマトグラフ解製によって61mgの純粋な6ーシアノー1、3ージヒドローインドールー2ーオンが得られた。

'H-NMR (DMSO-ds): ô 10.64 (bs, IH), 7.37 (s, 2H), 7.10 (s, 1H), 3.56 (s, 2H). 質量スペクトル(陰イオン エレクトロスブレー): m/z = 157 (M-1, 100%).

# 実施例179:6-シアノ-3-(3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシーベンジ

# リデン)-1、3-ジヒドローインドール-2-オン

6 ーシアノー1, 3 ージとドローインドールー2ーオン (46. 3 mg, 0. 2 9 mm o 1) および3, 5 ージプロモー4ーとドロキシベンズアルデヒド (8 0 mg, 0. 3 9 mm o 1) およびpートルエンスルホン酸一水柏物 (1 mg, 0. 0 0 5 mm o 1) およびpートルエンスルホン酸一水柏物 (1 mg, 水トラップを取り付けて1. 5時間犠牲しなが5選流した。この間に権色の固体が3時出し、これを冷却して確別し、トルエンで洗浄し、3 目間 12 5 ℃で真空乾燥して、8 0 mg の 6 ーシアノー3 ー (3, 5 ージプロモー4ーヒドロキシーベンジリデン) ー 1, 3 ージとドローインドールー2 ーオンを得た。

(120)

特表2002-514228

### H-NMR (D

MSO-ds): δ 11.05 (bs, 1H), 8.86 (s, 2H), 7.97 (s, 1H), 7.85 (d, J = 7.9 Hz, 1H), 7.50 (d, J = 7.9 Hz, 1 H), 7.20 (s, 1H). 質量スペクトル(除イオン エレクトロスプレ一): m/z = 417 (M-1, 48%), 419 (M-1, 100%), 421 (M-1, 48%).

#### ý

キナーゼングナル伝達は、その他の応答の中でも細胞増殖、分化および代謝を引き起こす。異常な細胞増殖の結果、癌腫、肉腫、白血病、神経膠芽腫、血管腫・、乾癬、アテローム性動脈硬化症、関節炎および糖尿病性網膜症などの新形成の

生を含む広範囲の疾患および疾病、または制御されていない脈管形成およびまた は血管形成に関連するその他の疾病が発症する可能性がある。 本発明の化合物のRafキナーゼ活性の阻毒剤としての効力は、当技術分野で公知のまたは同様に確立された方法論に基づき下記で群細に記載される薬理学的方法を用いて評価および測定することができる。

C R a f I 依存性キナーゼ活性の効力は、2つのアッセイ方式のうちの1つを 用いて測定した。1つめは、C R a f I の天然基質であるM E K I の、C R a f 1により触媒されるリン酸化の測定である。このアッセイをC R a f I アッセイ と呼ぶ。2つめは、C R a f I がM E K I をリン酸化および活性化する能力の測 定である。このアッセイをR a f / M E K カスケードアッセイと呼ぶ。より大き いシグナルがより少ない酵素で達成されるので、R a f / M E K カスケードアッ セイ方式を主要なスクリーニングとして使用した。C R a f I アッセイ方式を用 いて、C R a f I が本発明の化合物により影響を受ける酵素であることを確かめ た。

### A. cRaf1アッセイ

カルボキン末端にボリヒスチジンのタグを付けたヒトcRaflをパキュロウイルス発現系で発現させ、NIキレートアフィニティーケロマトグラフィーによって精製した。ヒトMEKIはグルタチオン-S-トランスフェラーゼとの総合

タンパク質として大腸菌(e.coll)で発現させ、グルタチオンセファロースキレートアフィニティークロマトグラフィーによって精製した。典型的には、アッセイは、阻害剤を含むおよび含まない最終容量40~100mLで行った。反応物は C R a f 1(20nM)、ME K 1(100~500nM)、  $[y^{-32}$  P] A T P (10~20mM)、M $g^{2*}$  (10mM)、MOP S (50mM, pH7.5)を含んだ。反応物を室温で20~120分の範囲の時間インキュペートした。阻毒剤をアッセイに加える前に100%DM S Oで希釈した。等容量の0.5%リン酸。

反応を停止させた。MEKIのリン酸化は、シンチレーション計数、次いでリン数セルロースフィルター上でのタンパク質の回収によって検出した。

# B. Raf/MEKAAA-FFyt-

とトでRaf1およびMEK1を前配のように精製した。MEK1によってリン酸化されたペプチド基質を最終ホスホリル基アクセプターとして使用した。ペプチドHIGFLTEYVATRWKK-OHの配列は、MEK1によってリン酸化されたERK2内の単位から誘導した。アッセイ条件は、以下の変更を除いて前配のものと同じであった。反応物はcRaf1(1~5nM)、MEK1(6onM)、およびペプチド(250mM)を含んだ。

## C. CDK18&VCDK2

特表2002-514228

(151)

Aのいずれかで停止させた(基質の消費<20%)。酵素アッセイに用いたバッフ Oを含有するパッファー100mM HEPES pH7.5のいずれかであった アーは、0. 15M NaClおよび5% DMSOを含有する30mM HEP 50mM MOPS 7.0、または0.1mg/mL BSAおよび5% DMS ES 7. 4、0. 15M NaC1および5% DMSOを含有するバッファー 。阻害

レートのウェル中でのペプチドの回収(反応をEDTAで停止させた場合)、また はアビジンで被覆したシンチラント含漫ビーズの添加(Amerishamから のシンチレーション近似アッセイ、反応をEDTAで停止させた場合)のいずれ かによってペプチドリン骸化の検出を達成した。これらの方法のいずれかから適 を欠くアッセイ)を差し引くことによって検出された総数は、反応の初速度に比 例すると仮定し、方程式C D M=V mx・(1ー([1] / K+[1])))+n s b を満 剤をアッセイに加える前に100%DMSOで希釈した。シンチレーション計 数、次いでリン酸セルロースフィルター上でのタンパク質の回収(反応を酢酸で 停止させ場合)、ストレプトアビジン(Pierce)で被覆した96ウェルプ 当なバックグラウンド(さらに40mM EDTAを加えるかまたはペプチド基箇 たす最小平方によってⅠC50を決定し、または方程式CPM=nsb+(V™ < −n s b) / (1 +(x/10\*−p1C50)) (式中、n s bはバックグラウ ンド総計である)に当てはめることによってーpIC50を決定した。

したパキュロウイルスベクター由来のGST融合タンパク質として生産する。U UL97は、He (He et al.,1997)によって記載されているs f 9 細胞で発現 L97は、リン酸セルロースに結合した放射性標識ヒストンを検出を用い、AT した。 ${\sf UL97}$  活性の阻費剤を試験するためのアッセイ混合物は、 ${\sf 2mM}$   ${\sf [y-1]}$ PからヒストンH2Bへの3 P転移を用いるタンパク質キナーゼとしてアッセイ 22 P] ATP, 15mM EZYVH2B, 50mMナトリウムCHES, pH 9. 5、1M NaC1、2mMジチオトレイトールおよび10mM MgC12 を含んだ。阻害剤を希DMSOに答かし、最終DMSO濃度を1% DMSOか

らなる反応物とした。20℃でインキュベーションした後に10容の75mMリ ン酸、30mM ATP、1mM EDTAを加えることによって反応を停止させ 、次いでリンセルロースフィルター上にスポットし、15mMリン骸で4回洗符

た。放射能は液相シンチレーション計測によって決定した。

## E. SRC/1ck酵繋アッセイ

SrcおよびLckアッセイに用いるペプチド基質は、ピオチンーアミノヘキ ク質をパキュロウイルス発現系から均質となるよう精製し、アッセイ混合物に加 5 uM ATP, 10mM MgCl2, 2 uMペプチド, 0. 05mg/mL B び8mC1/mL [y →22 P] ATPを含むまたは含まない50mLの反応混合 対照)での反応とした。反応は室温で30分間進行させ、220ul中50mM (Perice) に移し、窒温で40分間インキュベートしてビオチニル化ペプ チドをニュートラビジンに結合させた。結合していないペプチドおよび溶液の残 SA、反応の程度に対する分析方法により、種々の濃度の阻害剤を含有し、およ EIisaに基づく方法および放射性同位体に基づく方法のうち1つで分析した 、クエンチしたサンブル (220ul) をニュートラビジンを被覆したプレート PY20抗ホスホチロシン抗体コンジュゲート溶液を加えた。約30分間のイン キュベーションの後にプレートを洗浄して結合していない抗体ーHRPコンジュ IYGVLFAKKK-NH2 (Lck) であった。srcおよび1ckタンパ える前に予め活性化させた。最大活性は、100mM HEPES、pH7. 5 中において1 uM ATPおよび10mM MgC12の存在下、40分間、氷上 シルーEELYGEF-NH2(Src)およびピオチンーアミノヘキシルーEA 物とした。対照は50mM EDTAの存在下(負の対照)または不在下(正の までEDTAを添加することによってクエンチした。反応の程度を2つの方法: で濃縮酵素(10~30uM)をインキュベートすることによって達成された。 りをプレート洗浄液で洗い流した。EIIsa方式では、200uI HRPー ゲートを除去した。EIIsa基質であるKーブルー(Neogen)を加え、 この活性化酵素を希釈して2nMにし、100mM HEPES、pH7.

(154)

(153)

15分後にEIISa反応をレッド・ストップ (Neogen) でクエンチした . このブレ ートをプレートリーダーにてAsss で読み取った。同位体に基づく方式では、[ y − 2 p] AT Pの存在下で反応を行った。200mL Scintiverc e D B をピオチンーペプチドが結合しているプレートの各ウェルに添加した。プレートを告封し、マイクローb −カウンター(Wallac)で計数した。Ass s(c pm)=Vex\*([1-[[1]/1 Cs+[[1]])) + b (式中、bはバックグラウンドである)に生データを当てはめることによって1 Cs 値を得た。

### F. VEGFR-2

VEGFRー2アッセイに用いるペプチド基質は、ピオチンーアミノヘキシルーEEEEYFELVAKKKNH1であった。酵素のキナーゼドメインをパキュロウイルス発現系から均質になるよう精製した。活性化酵素を0.4 nMに希釈し、100mM HEPES、PH7.5、5 μM ATP、10mM M8Cl:、5 μM/プチド、0.1 mM DTT、0.05 mg/mL BSA、および種々の濃度の阻毒剤を含有する60μ1の反応物とした。対照は50mM EDTAの存在下(負の対照)または不在下(正の対照)での反応とした。室福で30分間反応物をインキュベートし、次いで210μ1中60mMとなるまでEDTAを添加することによってクエンチした。クエンチしたサンブル(190μ1)をニュートラビジンで被関したプレート(Plerce)に移し、室温で40分間インキュベートしてピオチニル化ペプチドをニュートラビジンに結合させた。 結合していない反応成分をブレート洗浄液で洗浄することによって除土し、次いで200μ1 HRPーPY20桁ボスホチロシンが体はコンジュゲートを各ウェルに添加した。40分間のインキュベーションの後にプレートを洗浄して結合していないが体はいずれも除去した。

HRP基質であるKーブルー (Neogen) を加え、20分後に反応をレッド・ストップ (Neogen) でクエンチした。ウェルの吸光度はプレートリーダーにてAssで読み取った。

Ass = Vwx "(1-([1]/1Cs +[1]))) + b (式中、bはバックグラウンドである) に生データを当てはめることによって 1Cs 値を得た。 代表的なデータを表3にまとめる。表3は、代表的なキナーゼ (raf) に対する本発明の化合物の阻害活性を示している。

(155)

表3

特表2002-514228

実施例 Rafキナーゼ活性

+

++

2.7

+ + + + +

29 31 32 34 34

キナーゼ活性																					
Raf	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+
実施例	1	2	က	4	2	9	2	8	6	1.0	1.1	1.2	1 3	1.4	1 2	1 6	1.7	1 8	1 9	2 0	2 1

+

3 6

3 8

3 7

3 5

+

4 2

4 1

4 0

Rafキナーゼ活性	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+++	+	+	+	+	+	+
実施例	6 5	99	29	6.8	6 9	7.0	7.1	7.2	7 3	7 4	7.5	9 2	7.7	8 2	6 2	0 8	8 1	8.2	83	84	8 5	98
													, <u></u>									
Rafキナーゼ活性	+	+	+	+	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
実施例	4 3	4 4	4 5	4 6	4.7	4 8	4 9	5 0	5 1	5 2	5 3	5 4	2 2	5 6	2 2	5 8	5 9	0 9	6 1	6.2	63	6.4

٠,	X	
(	•	
0		
	A	
	-	
t	•	
	]	
•		
(		
•		
¢		
+		
_		

Rafキナーゼ活性	<u> </u>	実施例	Rafキナーゼ活性	047	実施例	Ra	R	Ra
+++		109	+	-	3.1		+	+
+		1 1 0	+	1 3	2		2	2
+		111		1 3	က		m	m
+		112	++	1 3	4	+		
+		113	++	1 3	ro.	+		
+		114	+	136	9	++	1	1
+		115	+	137	۱.	+		
+		116	+	1 3 8		+		
+		117	+++	139	_	+		
+		118	+	140	١.	+		
+		119	+	141	1	+		
+		120	+	142	1	+		
+		121	+	143	l .	+	+	+ 165
+		122	+	144	i .	+++++	+	+
++		123	+	145	1	+	+	+ 167
++		124	+	146	1	++++	++++	+++
+++		125	+	147	Ŀ	++++	+	+
+		126	+	1 4 8	1	+++	T	T
		127		149	ı	+ + +	+	+
+++		128	+	150		++++	++	++
+		129	+	151	1	+++++	++	++
+		130	+	152	1	+		

(160)

特表2002-514228

Rafキナーゼ活性	+	+	+	+	+	+	+
実施例	175	176	177	178	179	180	181

凡例:

(東)	빖号
$<0.010-1.00\mu\text{M}$	+
1. $00-10$ . $00\mu M$	++
10. $00-100\mu M$	+++

## 細胞に基づく効能(MTTアッセイ)

本等明の化合物の効力について、それらの細胞増落および細胞生存力を阻害する能力に関して試験した。3 - (4, 5 - ジメチルチアゾール-2 - イル) - 2, 5 - ジフェニルチトラゾリウムプロミド (MTT, Sigma #M2128)の選元型への代謝変換が、通常用いられる細胞生存力の指標である。以下がその手順である:

細胞は使用まで75cm²の組織培養フラスコで維持する。細胞を増殖させ、アッセイのために、10%ケン胎児血清を含有するダルベッコの改変イーグル培地

で平板培養した。例えば以下の細胞系、a)とト包皮繊維芽細胞(HFF)、b) HT29(とト結腮梅細胞系)、c)MDA-MA-468(とト乳梅細胞系)、d)RKO(とト結腸腺梅細胞系、e)SW620(とト結腸癌細胞系)、(f)A

549(とト肺癌細胞系)、およびg) MIA PACA(とト膵臓癌細胞系)、を用いることができる。細胞は、10% CO2、90%の加癌空気中で37℃にて維持する。細胞を以下に挙げる密度で96ウェル組織容量プレートで平板培養する。96ウェルブレートの最上列を除く各ウェルに、100μ1の細胞懸濁液を加え、この最上列は細胞を含まず、分光光度法の標準として役立つ。

細胞系統	密度
нғғ	2500細胞/ウェル
HT29細胞系統	2500細胞/ウェル
MDA-MB-468細胞系統 5000細胞/ウェル	5000細胞/ウェル
SW620	4000細胞/ウェル
MIA PACA	3000細胞/ウェル
P C – 3	4500細胞/ウェル

細胞は投与に先立ち、10% CO2、90%加癌空気中37℃で、10%ウン
胎児血濟を含有するダルベッコの改変イーグル结地で一晩インキュベートする。 細胞を化合物の溶解度に依存して30uMで始まる10連続3倍希釈で投与する。 30uM未満の溶解度を有する化合物は最大の可溶濃度で投与する。化合物の 原液は100%ジメチルスルホキシド(DMSO)で製造する。細胞の平板培養 のためには、原液を100ug/mLゲンタマイシンおよび0.3~0.6%D MSOを含有するダルベッコの改変イーグル培地で最大濃度の2倍で希釈す る。化合物がDMSのに溶ける場合には、細胞上でのDMSのの最終濃度を0.3%未満に保つ。各化合物について3倍連接条釈を行い、投与する10濃度の化合物を調製する。ここで、100μLの希釈化合物をディッシュ上の100μLの培地に添加する。各濃度の化合物について2~4反復のウェルを開製する。細胞をインキュペーターに戻し、MTTを添加する前の72時間、化合物の存在下性猶させる。MTTは2mg/mLの濃度でリン酸塩緩衝生理食塩水(Irvine Scientific #9240)で調製する。ウェル当たり50

特表2002-514228

(161)

表4

μLのMTT溶液を200μLの培地に添加して最終濃度0.4mg/mLとし、プレートを4時間インキュペーターに戻す。4時間のインキュペーションの後に培地、化合物およびMT混合物をブレートから吸引し、100μLの1000%DMSO、さちに25uLのツレンソンのパッファー(0.1Mグリシン,0.1M NaCl, pH10.5)を各ウェルに添加する。各プレートにおけるMTTの代謝還元の定量は、Molecular Devices UVmaxマイクロブレートリーダーにて570nmの波長で吸光度を誘み取ることによって行う。増殖阻害曲線および50%阻普濃度は、マクロソフト・エクセルを用いて決定する。

代表的なデータを表もにまとめる。表もは、代表的なキナーゼ (raf) に対する本発明の化合物の阻害活性および広範囲のヒト腫瘍細胞系に対する本発明の化合物の細胞障害性を示している。

MTT	HT-29	(粘腸)	+++	++	+ + +	+++++	+++	+++++	+ + +	+ +	++	++
MTT	ьС	(前立服)	+++++	+++++	+ + +	+++++	+++	+ + + +	+++	ΩN	ND	ΩN
MTT	MDA 468	(海梯)	++	++	+ + +	++++	++	++++	+ + + +	+ +	+	+++
MTT	MIA Paca	(護樹)	++	+++	+++	+++	++	++++	+ + +	+++	ND	ND
MTT	SW620	(報題)	++	+++	+++	+++	++	++++	+++	++	+	++
Raf			+	+	++	+	+	+	+	+	+++	+
実施例			2	133	2 5	-	1 1 9	130	8	121	117	143

凡例	
台湿	範囲
+	<0.50 mM
1	0.50 5μM
+++	2 – 5 0 μM
++++	>50 mM
ND	データなし

### in vivoアッセイ

### 抗腫瘍研究:動物

マウスはTaconic Farmsから入手し、Microisolato

(164)

r ケージの中、7 2 ± 2° F、1 2 時間の明/暗サイクルで維持する。ケージ(28×17×12cm)当たり 4 匹のマウスを収容し、自由に餌および水を与える。耳のパンチまたは尾に刻印して動物に番号を付ける。動物の操作は終て、層流フード中で行う。

### 細胞增殖

アメリカン・タイプ・カルチャー・コレクションから入手できるSW6 2 0 を、 ウシ船児血清(10%)、ピルピン酸ナトリウム (1.0mM) およびグルタミン (2.0mM) とともにRPM 1 16 4 0 を含有する始地で増殖させる。細胞を5 % CO2 中3 7 ピでインキュベートする。細胞をトリプシン (0.05%) を用いて回収し、遠心分離し、1×10 7 細胞/m 1 でPBS:マトリゲル (1:1) に再懸濁させる。

### 重傷の移植

使用する腫瘍細胞系の1つは結腸系 S W 6 2 0 である。細胞懸濁液を各マウスの右機腹に皮下注射することによって腫瘍を発症させる。接種物は P B S : マトリゲル (1:1) 中の 2 x 1 0 %細胞/マウス/0. 2 m 1 からなる。

#### 重傷測定

固形腫瘍は皮膚を通じてカリバス削定によって削定する。カリパス制定は典型的には毎週2回行う。方程式(長さ×幅"/2)=腫瘍重量mgを用いて腫瘍重量を附算する。

### 体重測定

毎週2回腫瘍測定の時にマウスの体重を測定する。

### 化合物の調製

DMSO、クレモホール(Cremophore) およびPBSかちなるピヒクル中で化合物を調製する。

### 試験治療

腫瘍の平均サイズが約40~50mgとなったときに薬物療法を開始し、これは通常は移植後7日目である。用量計画は連続5日に対して1用量/日からなる。 予め求めた最大許容量を基に薬剤を3または4用量レベルで投与する。ビヒク

ル対照群も含まれる。薬剤は、静脈内、腹腔内、皮下、もしくは経口経皮経路またはその他別の経路のいずれによって投与してもよい。尾の静脈からの点滴により薬剤を投与してもよい。各マウスに投与する注射容量は、通常の、01~0.02mL/体重gである。静脈注射および尾の静脈点滴の場合、操作中、動物はBroome拘束器に拘束する。経口投与に先立ち、動物は一時絶食させる。各実験期間は典型的には腫瘍の移植から28日間である。

代表的な結果を表5に挙げる。

表5 in vivoデータ

 実施例	異種移植片	腫瘍応答
		阳客%@mg/kg
2	HT-29	50%@5mg/kg
8 5	SW620	40%@50mg/kg
8 4	HT-29	50%@25mg/kg

本発明を、その特定の好ましい具体例に関して説明し、例示したが、当業者ならば本発明の精神および範囲から逸脱することなく種々の変形、変更および置き焼えを行うことができることを理解するであろう。例えば、本明細書において前記されたような好ましい用量以外の有効量を、癌症状、または前配の本発明の化

台物に対する他の徹候に対して治療される哺乳類の応答性の変動の結果として適用してもよい。同機に、認められた特異な薬理学的応答は、選択される特定の有効化合物または医薬担体が存在するかどうか、ならびに用いられる製剤のタイプおよび投与模式に従い、また依存して変化してもよく、結果において期待されるかかる変動または差異は、本発明の目的および実施に従い意図されている。従って、本発明は以下に続く請求の範囲によってのみ限定され、かかる請求の範囲は合理的な限り広く解釈されることを意図する。

### [手続補正書]

【提出日】平成12年5月25日(2000.5.25)

【補正内容】

1. 以(二):

請求の範囲

# 14 R1は、Hまたは所望によりR2と結合して5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群から選択される絡合環を形成していてもよく、このヘテロアリールもしくは複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであり、そのヘテロ原子の0~1個は0もしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1~3個のR3で置換されていてもよく(ここで、R2およびR3は下記の定義の通り);

R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は独立に、H、HET、アリール、C<sub>1.12</sub> 脂肪族、CN、NO<sub>2</sub>、ハロゲン、R<sup>10</sup>、一OR<sup>10</sup>、一SR<sup>10</sup>、一S (O) R<sup>10</sup>、一SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、一N R<sup>11</sup> COR<sup>11</sup>、一NR<sup>12</sup> COR<sup>11</sup>、一NR<sup>13</sup> CO<sub>2</sub>R<sup>11</sup>、一NR<sup>13</sup> COR<sup>11</sup>、一NR<sup>13</sup> COR<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一COR<sup>11</sup>、一CONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、一CONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、C (NR<sup>12</sup>) NR<sup>12</sup> R<sup>11</sup> であり、C CでそのC<sub>1.12</sub> 脂肪族は、所望によりC(O)、O、S、S(O)、SO<sub>2</sub>もしくはNR<sup>12</sup>から選択される1~2 基の挿入を1 個または2個有していてもよく;そのHET、アリールもしくはC<sub>1.12</sub> 脂肪族は所望により1~3個のR<sup>10</sup> で簡換されていてもよく;かつ、R<sup>2</sup>は所望によりR<sup>2</sup>と結合して5~10 風のアリール、ヘテロアリールもしくは複集環からな

(166)

る群から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって、そのヘテロ原子の0~1個はOもしくはSであり、かつ、その縮合環は所望により1~3個のR\*で置換されていてもよく(ここで、HET、R\*、R\*\*、K\*\* はよびR\*\* は下記の定義に同じ);

あるいは、 $R^2$ および $R^3$ は独立に、 $-R^{12}$  N  $H_2$ 、 $-R^{12}$  ー ハロゲン、-CO  $R^{11}$  N  $R^{12}$   $R^{11}$ 、-C (N H)  $R^{11}$  であり、C こで  $R^{11}$  は F 記の定義の通りであり、かつ、 $R^{12}$  は、H、 $C_{14}$  間筋体、N  $O_2$ 、 $C_{14}$  アルコキン、ハロゲン、アリールまたは H E T できり、その  $C_{14}$  間筋体は 所望に より 1  $\sim$  3 個の ハロゲンまたは O H V 管理 独立れていてもよく (C こで、H E T は V 形の定義の通り);

R'4t, H, ハロゲン, NO2またはCNであり;

R\*は、Hまたは所望により1~3個のハロ、ヒドロキシルもしくはアリールで置換されていてもよいC+12 脂肪族であり;

R<sup>6</sup>およびR<sup>7</sup>は独立に、ブロモまたはクロロであり;

R\* はOHであり;

  $R^{10}$  は各々独立に、日、ハロゲン、 $C_{1-12}$  脂肪族、アリールまたはHETであり、ここでその $C_{1-12}$  脂肪族は所望によりの、 $S_1(0)$ 、 $S_0$ もしくは $NR^{1}$ がら選択される $1 \sim 2 基の挿入を有していてもよく、ここでその<math>C_{1-12}$  脂肪族、アリールまたはHETは所望により $1 \sim 3$ 個のハロ、別のHET、アリー

 $J_{\rm L}$  CN,  $-SR^{12}$ ,  $-OR^{12}$ , -N ( $R^{12}$ )  $_2$ , -S (0)  $R^{12}$ , -S  $_{2}R^{12}$ , -S  $_{2}N$  ( $R^{12}$ )  $_{2}$ , -N  $R^{12}$  CO  $_{1}R^{12}$ , -N  $R^{12}$  CO  $_{2}N$  ( $R^{12}$ )  $_{2}$ , -N  $R^{12}$  (N  $R^{12}$ )  $_{3}$ , -N  $R^{12}$  (N  $R^{12}$ )  $_{3}$ , -N  $R^{12}$  (N  $R^{12}$ )  $_{3}$ 

(168)

、-NR<sup>12</sup> SO<sub>2</sub>R<sup>12</sup>、-OCON (R<sup>12</sup>) 2で置換されていてもよく(ここで、 HETおよびR12は下記の定義の通り)

~3個のNO2、R<sup>12</sup>、-R<sup>12</sup> N(R<sup>12</sup>)2またはトリフルオロで<mark>置換</mark>されていて もよいHETであり、ここでRパはH、C₁s 脂肪族、NO2、C₁s アルコキシ 、ハロゲン、アリールまたはHETであり、そのC1s 脂肪族は所望により1~ 3個のハロゲンまたは0Hで置換されいてもよく(ここで、HETは下記の定義 あるいは、R10 は各々独立に、C1-6 脂肪族、アリール、または所望により1

あるいは、Rロは各々、オキソ、シアノまたはアミノであり;

あるいは、R³は各々、一COR®(ここで、R®はH、C1-s 脂肪族またはア ミノである) であり

K'' は、HまたはR'O であり;

R12 は、H、C1-12 脂肪族またはHETであり、ここでそのC1-12 脂肪族は所 望により1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、H ETは下記の定義の通り);あるいは、Rº2 はNO2、Cいs アルコキシ、ハロゲ ンまたはアリールであり;

キソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダ ゾール、インドール、インダゾール、モルホリン、オキサゾール、オキサジアゾ 、ピペラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミ ジン、ピロール、ピロリジン、キノリン、キナゾリン、テトラヒドロフラン、テ HETは、ベンゾフラン、ベンゾキサゾール、ジオキシン、ジオキサン、ジオ **ール、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジン、オキシアジアジン** 

ン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5~10員の飽 ラジン、テトラゾール、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアトリ アゾール、チアジン、チアゾール、チオモルホリン、チアナフタレン、チオピラ 和または不飽和複素環であり;

あるいは、R12は、(R11)2N-C1s 脂肪族であり、ここでR11はH、C1.

HETであり、ここでHETはオキサゾール、ピリジン、テトラゾールまたはチ **8脂肪族、ヒドロキシーC1-8 脂肪族、フェニル、フェニルーC1-8 脂肪族または** アゾールである}

で示される化合物、およびそれらの医薬上許容される塩、または溶媒和物。

R", -CO2R", -CONR12R", -SO2NR12R", -OCONR12R "1、C (NR"2 ) NR"2 R" であり、ここでそのC1-12 脂肪族は、所望によりC と結合して5~10員のアリール、ヘテロアリールもしくは複素環からなる群か CONR" R12, -NR12 SO2R", -NR12 C (NR11) NHR", -CO 所望により1~3個のR10で置換されていてもよく;かつ、R2は所望によりR3 5.選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリールもしくは複素環 -NR10 R11, -NR11 R12, -NR12 COR11, -NR12 CO2 R11, -NR1 は1~3個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~3個はNであって 、そのヘテロ原子の0~1個は0もしくは5であり、かつ、その縮合環は所望に (0)、0、S、S(0)、S 02もしくはNR2から選択される1~2個の基の挿 入を1~2個有していてもよく;そのHET、アリールもしくはC1s 脂肪族は NO2、ハロゲン、R<sup>10</sup>、-OR<sup>10</sup>、-SR<sup>10</sup>、-S(0) R<sup>10</sup>、-SO<sub>2</sub>R<sup>10</sup>、 より1~3個のRgで置換されていてもよく(ここで、HET、Rg、KºO、KºI R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H、HET、アリール、C<sub>1-12</sub> 脂肪族、CN、 および R 12 は下記の定義に同じ);

R "が各々独立に、H、ハロゲン、C1-12 脂肪族、アリールまたはHETであ

 $CN_{\star} - SR^{12}_{\star} - OR^{12}_{\star} - N (R^{12})_{2}_{\star} - S (O) R^{12}_{\star} - SO_2R^{12}_{\star} -$ SO2N (R12) 2, -NR12 COR12, -NR12 CO2R12, -NR12 CON ( り、ここでそのこ-12 脂肪族は所望によりの、S、S(O)、SO2もしくはNR !から選択される1~2基の挿入を有していてもよく、ここでその ○-12 脂肪族 、アリールまたはHETは所望により1~3個のハロ、別のHET、アリール、 NR<sup>12</sup> S O<sub>2</sub> R <sup>12</sup> 、-0 C O N (R <sup>12</sup>) 2で置換されていてもよく(ここで、H E  $R^{12})_{\ 2},\ -N\,R^{12}\,\,(N\,R^{12})\,\,NH\,R^{12},\ -C\,O_2\,R^{12}\,,\ -C\,O\,N\,\,(R^{12})_{\ 3},$ TおよびR12 は下配の定義の通り);

特表2002-514228

(169)

H E T 、 R <sup>1</sup>、 R <sup>5</sup>、 R <sup>5</sup>、 R <sup>1</sup>、 R <sup>8</sup> に R <sup>8</sup> はなびに I が循状項 I の定義の通りである、 精水項 I 配載の式 (1) の化合物、 ならびにそれらの医薬上幹容される塩または溶媒的物。

3.  $R^{1}$ がHであるか、または所望により $R^{2}$ と結合して、下記でHETに関して定義されたような群から選択される結合環を形成していてもよく、ここでその縮合環は所望により $1 \sim 3$  個の $R^{9}$ により置換されていてもよく(ここで、 $R^{2}$ および $R^{9}$ は下記の定義の通り);

R<sup>2</sup>およびR<sup>2</sup>が独立に、H、HET、アリール、C<sub>1.8</sub> 脂肪族、CN、NO<sub>2</sub>、 ハロゲン、R<sup>10</sup>、-OR<sup>10</sup>、-S<sup>10</sup>、-S<sup>10</sup>、-S<sup>10</sup>は、-S<sup>10</sup>は、-NR<sup>10</sup>、-NR<sup>10</sup> <sup>0</sup>R<sup>11</sup>、-NR<sup>11</sup> S<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、-NR<sup>12</sup> C<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、-NR<sup>11</sup>、-COR<sup>11</sup>、 -C<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、-C<sup>10</sup> R<sup>11</sup>、-S<sup>10</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup>、-O<sup>10</sup> C<sup>11</sup> R<sup>11</sup>、-C<sup>10</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup>、-C<sup>10</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup> R<sup>11</sup>、-C<sup>10</sup> R<sup>11</sup> R<sup></sup>

を1または2個有していてもよく;そのHET、アリールもしくはC1s 脂肪族は所望により1~3個のR<sup>10</sup>で置換されていてもよく;かつ、R<sup>2</sup>は所望により 下配にHETとして定義されている群から選択される結合環を形成していてもよく、かつ、その結合環は所望により1~3個のR<sup>3</sup>で置換されていてもよく(ここで、HET、R<sup>2</sup>、R<sup>10</sup>、R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup> は下配の定義の通り); R<sup>2</sup>が、Hまたは所望により1~3個のハロ、0Hもしくはアリールで置換されていてもよいC1s 脂肪族であり;

R\*か各々独立に、ハロ、C1s 脂肪株、CN、一NO2、R10、一OR11、一SR11、-S (O) R10、-SO2R10、一NR10 R11、一NR11 R12、一NR12 COR11、一NR12 COR11、一NR12 COR11、、-NR12 COR11、、-NR12 COR11、、-NR12 COR11、、-SO2N

R<sup>12</sup> R<sup>11</sup>、一〇CCONR<sup>12</sup> R<sup>11</sup>またはC(NR<sup>12</sup>)NR<sup>13</sup> R<sup>11</sup>(ここで、R<sup>10</sup>、 R<sup>11</sup> およびR<sup>12</sup> は下配の定義の通り)であり;

 K<sup>12</sup>が、H、C<sub>14</sub> 脂肪族、またはHETであり、そのC<sub>14</sub> 脂肪族は所望により1~3個のハロゲンもしくはOHで置換されていてもよく(ここで、HETは下配の定義の通り);

HET、K¹、R⁵、R¹、R゚およびR′′ が綿末項1の定義の通りである、精求項2記載の式(1)の化合物、およびそれらの医薬上許容される塩または溶媒和

4. R1が、H、または所望によりR?と結合して、縮合ビリジン、縮合トリアゾール、縮合チアゾール、または縮合アミノ腫換チアゾールからなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、あるいは、R¹ およびR²はメチル腫換縮合ビリジンである縮合環を含んでなり;

HETが、ジオキシン、ジオキサン、ジオキソラン、ジチアン、ジチアジン、ジチアゾール、ジチオラン、フラン、イミダゾール、イミダゾビリジニル、モルキリン、オキサゾール、オキサチアゾール、オキサチアゾリジン、オキサジア、ピリジン、ピイラジン、ピペリジン、ピラゾール、ピリジン、ピリミジン、ピロール、ピロリジン、テトラヒドロフラン、テトラジン、チオフェン、チアジアジン、チアジアゾール、チアトリアゾール、チフトリアンール、チオキリオピラン、チオキソトリアゾール、チファン、

(172)

特表2002-514228

アジン、トリアジン、およびトリアゾールからなる群から選択される5または6 員の飽和または不飽和ヘテロアリール環であり;

R2、R3、R10 およびR12 が構求項1~3のいずれか1項に記載の定義の通り

R4、R6、R7、R8およびR11が構求項1の定義の通りであり;かつ、

R5およびR3が鷸求項3の定義の通りである、饋求項1~3のいずれか1項に 記載の式(1)の化合物、およびそれらの医薬上許容される塩または溶媒和物。

 $R^{\dagger}$ が、H、または所望により $R^2$ と結合して5~6貝のヘテロアリール 環からなる群から選択される縮合環を形成していてもよく、そのヘテロアリール て、そのヘテロ原子の0~2個は0もしくは5であり、かつ、その縮合環は所望 環は0~2個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子の0~2個はNであっ . 2

により1~3個のR゚で置換されていてもよく(ここで、R²およびR゚は下配の定 義の通り);

、-COR11、-CO2R11、-CONR12 R11、-SO2NR12 R11 であり、そ 、その複素環は0~1個のヘテロ原子を有し、ここでそのヘテロ原子はNであっ よく;かつ、R²は所望によりR³と結合して5貝の複素環を形成していてもよく のHET、フェニルもしくはC1・8 脂肪族は所望によりR10 で間換されていても て、そのヘテロ原子の0~1個は0もしくは5であり、かつその縮合環は所望に R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H、H E T、フェニル、C<sub>1.8</sub> 脂肪族、一N R <sup>10</sup> R <sup>11</sup> より R³ で置換されていてもよく(ここで、HET、R³、 R №、 R 11 および R 12 は下記の定義の通り);

R4がHであり;

 $R^5 h^{\prime} H^{\circ} \delta b$ 

Re、R1およびR8が構求項1の定義の通りでり;

R9が、H、C1-s 脂肪族、または一CORºº(ここで、Rºº は下配の定義の通

り) であり;

R <sup>10</sup> が、H、C<sub>1-8</sub> 脂肪族またはアミノであり;

K " がH、 C 1.8 脂肪族、ヒドロキシーC 1.8 脂肪族、フェニル、フェニルーC

1-6 脂肪族またはHETであり;

K 12 が、H、C1-s 脂肪族、ヒドロキシーC1-s 脂肪族または(K11)2 NーC1 4 脂肪族であり;かつ、 HETがオキサゾール、ピリジン、テトラゾールおよびチアゾールからなる群 から選択される複素環である、精求項1記載の式(1)の化合物、およびそれら の医薬上許容される塩または溶媒和物。

R¹がHであり;

R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>が独立に、H、HET、フェニル、C<sub>118</sub> 脂肪族、シアノ、ハロ

¥

ン、ーCOR<sup>!!</sup>、または一CONR<sup>!2</sup> R<sup>!!</sup> であり、そのHET、フェニルもしく はC1-6 脂肪族は所望によりR10 で置換されていてもよく(ここで、HET、R10

R4がHであり;

、 R 11 および R 12 は下配の定義の通り);

K5がHであり;

Re、R7およびR8が構求項1の定義の通りであり;

R 10 が、H、C1-6 脂肪族、オキソまたはシアノであり;

R11 が、H、C1-6 脂肪族、トリハローC1-6 脂肪族、フェニルまたはニトロ環

楔フェニルであり;

R12 が、H、C1.6 脂肪族、ヒドロキシーC1.6 脂肪族であり;かつ、

HETがチオフェンまたはピリジンである、鶴水頂 | 記載の式(1)の化合物、

およびそれらの医薬上許容される塩または溶媒和物

7

(174)

特表2002-514228

를 다

からなる群から選択される、錦求項1記載の化合物。

からなる群から選択される、請求項1配載の化合物。

1 0.

からなる群から選択される、構求項1配載の化合物。

- 11. 化合物3-(3,5-ジブロモ-4-ヒドロキシーベンジリデン)-5ーピリドー3ーイルー1, 3ージヒドローインドールー2ーオン、ならびにそ の医薬上許容される塩および溶媒和物。
- 12. E型幾何異性体である、精求項1~11のいずれか1項に記載の化合 Ž,
- 2型幾何異性体である、精求項1~11のいずれか1項に配載の化合 1.3.
- 14. 2型幾何異性体とE型幾何異性体の混合物である、請求項1~11の いずれか1項に記載の化合物。
- 15. キラル炭素原子を有し、右旋性である、鞘浆項1~11のいずれか1 項に記載の化合物。
- 16. キラル炭素原子を有し、左旋性である、簡求項1~11のいずれか1 頃に記載の化合物。

(180)

- 17. キラル炭素原子を有し、右旋性と左旋性の混合物である、精求項1~ 11のいずれか1項に記載の化合物。
- 性カーボネートまたは生分解性ウレイドであり、前配生分解性機能が式(1)の 18. 生分解性エステル、生分解性アミド、生分解性カルバメート、生分解 化合物中R®で表されるOH基と関連している、簡求項1~17のいずれか1項 に記載の化合物のプロドラック。
- ホリノカルボニルおよび4-メチルー1ーピペラジニルカルボニルからなる群か 19. OH基がカルバモイル複合体と結合して生加水分解性カルバメートと なり、ここでそのカルバモイル複合体がジエチルアミノカルボニル、N-(2-アミノカルボニル、ヒドロキシエチルオキシエチルアミノカルボニル、4ーモル ヒドロキシエチル)アミノカルボニル、N, Nービス (2ーヒドロキシエチル) 5選択される、簡求項18記載のプロドラッグ。

および

から選択される、請求項19記載のプロドラッグ。

(182)

21. OH基がカルボネート複合体と結合して生加水分解性カルボネートとなり、ここでそのカルボニル複合体がフェニルメチルオキシカルボニル、エチルオキシカルボニル、イソブチルオキシカルボニル、およびピリジンメチルオキシカルボニルがらなる群から選択される、精求項1~8のいずれか1項に記載の化金物。

- 22. 0H基がエステル複合体と結合して生加水分解性エステルとなり、ここでそのエステル複合体が1ープチルカルボニルオキシメチルである、綿末項1~8のいずれか1項に配戴の化合物。
- 23. 治療に用いられる精求項1~22のいずれか1項に記載の化合物。
- 24. 医薬上許容される担体と、医薬上有効な量の請求項1~22のいずれか1項に配載の化合物を含んでなる医薬組成物。

25. 式(11)

(式中、R³、R°、R'およびR'は請求項1の定義に同じ)の化合物を、式 (II

=

=

(式中、R1、R2、R3およびR4は糖求項!の定義に同じ)の化合物と反応させることを含んでなる、請求項1記載の式(I)の化合物の製造方法。

- 26. cRafキナーゼによって媒介される疾患の治療のための医薬の製造における、精求項1~22のいずれか1項に記載の化合物の使用。
- 27. 腫瘍の増殖を阻害する、器官移植の拒絶反応を防ぐ、慢性的創傷を治

療する、または再狭窄、慢性関節リウマチ、血管形成、肝硬変、アテローム性動脈硬化症、腎炎、糖尿病性腎症、悪性腎硬化症、血栓性微小血管障害症候群、系球体症、乾癬、真性糖尿病、绞症、および神経変性病からなる群から選択される病状を治療する医薬の製造における、精求項1~22のいずれか!項に配製の化合物の使用。

- 28. cRaf1キナーゼによって媒介される疾病を治療する方法であって、薬理学上有効な量の鞘次項1~22のv3tか1項に記載の化合物をそれを必要とする哺乳類に投与する工程を含んでなる方法。
- 29. 腫瘍の増殖を阻害する、器官移植の拒絶反応を防ぐ、慢性的創傷を治療する、または再狭窄、慢性関節リウマチ、血管形成、肝硬変、アテローム性動脈硬化症、腎炎、糖尿病性腎症、悪性腎硬化症、血栓性微小血管障毒症候群、糸球体症、乾燥、真性糖尿病、炎症、および神経変性病からなる群から選択される病状を治療する方法であって、薬理学上有効な量の精次項1~22のいずれか1項に配戴の化合物をそれを必要とする患者に投与する工程を含んでなる方法。

(184)

【国際調查報告】

9	FOKT	tonal Application No /EP 98/04844
A61K31/40 C07D401/12 C07D403/06	C07D471/04 C07D405/06 //(C07D471/0	CO7D401/04 CO7D417/06 4,221:00,
nintarion d carabilation beautified. (dassacation agrien (oktored by classification symbols).	r cinasdication aymbola)	
an mumum documentation to the a	Documentaion cancind shorthan memonakosmentakon lo Pie asseri Thai such documenta are included in the fade searong	aaroned
Laing the international search (name	Effections data laws compared Outing the Presentational season (raine of data pase Brid, where proposes, sewon terms used)	60
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT Caledon / Cataon of decrease with reference managements of the second	A the second second second	
W0 97 25986 A (TAIHO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.) 24 July 1997 * page 32,compound 32 *	ICEUT ICAL	Trevvan to Cann No.
WO 96 40115 A (SUGEN, INC.) 19 December 1996 see claims		1,27,29
GB 2 306 108 A (MERCK & CO. 30 April 1997 see claims	CO.,INC.)	1,27,29
1	<del> </del>	
Further documents are listed in the continuation of box C.	X North members to the Annel mote X	III ginak.
Special categories of cated documents:  - Cocument deling the general siste of the art which is not considered in the of nonconsistent categories.	T' tater document bublished wher the international fang date or profile after the Control and	ennuonal ting date h the apolication but Bory underlying the
The additional integration of the action of	The description of particular characters are a submediately as a submediately characters are a submediately confidence of the characters are characters as the characters are characters as the characters are characters and characters are character	defined inventory or a claim of the contraction of
Date of the actual completion of theinternational occurati		Arch report
November 1998	03/12/1998	
Name and maling address a time ISA. Exposure Political Clinical 2 5919 Potentioan 2 Tel. (2020) 19 Applied Te. 31 951 990 At Fox. (43)-770 340-3019	Authorizad ombor Yan Bijlen, H	

nt donat Application to				O estiched	(C est)		Relevant to claim No	1,27,29	isted in annex.	e international filing date 1 with the application but	or theory underlying the the ctained invention	arrol be considered to the document is taken alone the claimed fivention are investive alone when the or more other such docu- charies to a person acted	ators family	at search report			
REPORT #		2abon and IPC	ion symbolo)	euch documents are nouded in the fiel	ase and, whole practical, search (eims		kwani peasages	8; page 5, a 6 146, 723-6-4 *	X Patent family members are listed in annex.	T* later docurrent published after the international filling date or provity tate and not in contlict with the application but	ded to understandine principle invention  'X' document of particular relevance	annot be considered rows or carried be considered to involva an invative step when the document is taken above 7° Gocurnest of particular relevance; the claims of levanton carrollo to considered or travke as meanthe also when the document is combined with new or more other such open- ment, such combined with one or more other such open- ment, such combination being dovines to a person sided in the such.	'6' document member of the same patern family	Date of mailing of the memolional search report			Van Bijlen, H
INTERNATIONAL SEARCH	1PC 6 209:00), (C07D471/04, 235:00, 221:00)	According to Intermational Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC B. PREI DK. S. FARCHED	Mnimum dosumeniston seacches (classification bystem clowed by classification symbol)	Destroniscon exambed other thus mempum dependantentic the assent that each describits are sounded in the false exambles	Bactors on cas coreused during the rismatcha search (name of data base art, urbin process, search term used)		Chatco of occurrent, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Wo 98 07695 A (SUGEN, INC.) Ze February 1998 * page 101, compound 18.5 and 8.8; page 144, compound 10723-A-4; page 145, compound 10723-B-4; page 146, compound 10723-B-4; page 147, compound 10723-B-4; page 148, compound 10723-G-4	Further documents are issled in the continuation of box C	* Special calegories of died documents : *A" Cotument defining the general state of the art which is no	consistent to be of particular reference  E. safety document but published on or after the international	for ingrave and the control may brow doubts on posety calve(s) or date	Letter their the priority rate defined	Onto of the actual completion of their terrestoral search	26 November 1998	urd making address of the ISA  European Patent Office, P.B. S818 Patentilaen 2  N 229 And Rejevity  Tel, L43: TX3 a445 adds Tx, 31 83 to see m.	Fac (+31-70) 340-3016
	IPC 6	According B. Piet D.	D WINDERSON	Document	Bectronic	C. DOCUM	Category	×. a.		* Special on	Correct T	1. docum clatio	Testal.	Onte of the	2	Name and	

002-514228
特表2
(186)

œ
N
N
4
_
S
l
N
0
0
N
丧
₽

(185)

コントページの統約

(51) Int.C1.7		識別配号	ГFI	テーマコード(参考)
A 6 1 K	31/4245		A 6 1 K 31/4245	
	31/427		31/427	
	31/429		31/429	
	31/437		31/437	
	31/4439		31/4439	
	31/496		31/496	
	31/53		31/53	
	31/5377		31/5377	
A 6 1 P	1/16		A 6 1 P 1/16	
	3/10		3/10	
	7/02		2//02	
	00/6		00/6	
	9/10		9/10	
		101	1	101
	13/12		13/12	
	17/02		17/02	
	17/06		17/06	
	19/02		19/02	-
	25/00		25/00	
	29/00		29/00	
		101		101
	35/00		35/00	
	37/06		37/06	
	43/00	111	43/00 1 1	1.1
C 0 7 D	401/04		C 0 7 D 401/04	
	401/06		401/06	
	401/12		401/12	
	403/04		403/04	
	405/06		405/06	
	409/04		409/04	
	409/06		409/06	
	413/04		413/04	
	413/06		413/06	
	417/04		417/04	
	417/10		417/10	
	417/12		417/12	
	471/04	102	471/04	0.2
		108	1	1080
	487/04	137	487/04	3.7
		139	-	39

325

513/04

3 2 5

513/04

(188)

(81)指定国 EP(AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, F1, FR, CB, GR, 1E, 1 T, LU, MC, NL, PT, SE), OA(BF, BJ, CF, CG, C1, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AP(CH, GM, K E, LS, MW, SD, SZ, UG, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CU, CZ, DE, D K, EE, ES, F1, CB, GE, CH, GM, HR, HU, 1D, 1L, 1S, JP, KE, KC, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, L V, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, S1, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UG, US, US, VI, ZW, VII, ZW

S, UZ, VN, YU, ZW (72)発明者 デイピッド、ケンダル、コング アメリカ合衆国ノースカロウイナ州、リサ ーチ、トライアングル、パーケ、ファイ ブ、ムーア、ドライブ グラケン、ヴェル カム、インコーポレーチッド内 (72)発明者 フィリップ、アンソニー、ハリス アメリカ合衆国ノースカロライナ州、リサ ーチ、トライアングル、パーケ、ファイ ブ、ムーア、ドライブ グラケン、ウェル カム、インコーポレーテッド内 (72)発明者 ロバート、ニール、ハンター、ザ、サード アメリカ合衆国ノースカロライナ州、リサ ーチ、トライアングル、パーケ、ファイ

(12)発明者 ファー・パンパー・ツァップ アンリンか会衆国ノースカロライナ州、リサーチ、トライングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブ グラクン、ヴェルカム、インコーボレーデッド内フェイムズ、マーピン、ピールアリン台条国ノースカロライナ州、リサーチ、トライアングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブングル、パーケ、ファイブ、ムーア、ドライブ・グェル

カム、インコーポワードッド内

(72)発明者 スコット、ディッカーソン アメリカ合衆国ノースカロライナ州、リサーチ、トライアングル、パーケ、ファイ ブ、ムーア、ドライフ グラケン、ウェル カム、インローボレーテッド内 アメリカ音楽国ノースカロライナ州、リサーチ、トライアングル、パーケ フェ、トライフ グラケン、ヴェル

(72)発明者 マイケル、ロバート、ピール アメリカ合衆国ノースカロライナ州、リサ 一チ、トライアングル、パーク、ファイ ブ、ムーア、ドウイブ グラケン、ウェル カム、インローボレーチッド内